取扱説明書

WIRES-II
Wide-Coverage Internet Repeater
Enhancement System

Ver. 3.504, Rel.0.4
使用上のご注意

このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品をお買い上げになった方のみが、本製品の「使用許諾書」のもとでのみ使用することができます。

このソフトウェアおよびマニュアルの著作権者は、バーテックススタンダードにあります。その目的を問わずバーテックススタンダードの書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

バーテックススタンダードは、このソフトウェアおよびマニュアルの内容に関し、特許権、特許を受ける権利、著作権、商標権、実用新案権、意匠権またはその他の権利を有する場合があります。バーテックススタンダードは、これらの権利をお客様に譲渡または許諾するものではありません。

バーテックススタンダードは、このソフトウェアの機能、内容、本ソフトウェア、マニュアル、印刷物、およびハードウェアに関して、本保証規定に規定されていないその他の保証は一切いたしません。

このソフトウェアおよびハードウェアの仕様、機能、内容、およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。

本製品は日本国内専用品です。日本国内で使用してください。

本製品を日本国内以外の地域で使用することはできません。ご注意ください。

バーテックススタンダードおよびWiRESは、バーテックススタンダードの登録商標です。また、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

警告：このプログラムは、著作権法および国際条約によって保護されています。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

付属品・オプション

付属品

梱包品をご確認ください。

WiRES-II コントローラ HRI-100  .................................................................................................................................
WiRESサーバー使用許諾書 ..............................................................................................................................................
保証書  ........................................................................................................................................................................
RS-232C ケーブル .........................................................................................................................................................
DATA端子ケーブル（8ピン 6ピンミニ DIN プラグ） ........................................................................................................
モニタケーブル（サウンドボード用両端 3.5プラグ） ....................................................................................................
DC12V用電源ケーブル .................................................................................................................................................

不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

オプション

NC-72A ACアダプター

オプションは、当社純正品のご使用をおおすすめします。

本製品は、当社純正の専用オプションと組み合わせて使用した場合に、最適な性能を発揮するように設計されておりますので、当社純正オプションのご使用をおおすすめいたします。

なお、当社純正品以外のオプションを使用が原因で生じた故障や事故などの損害については、弊社では一切責任を負いませんので、ご承知ください。
### 安全上のご注意 - 必ずお読みください -

本製品を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。
お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

#### マークの種類と意味

| 警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| 注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物理的障害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

#### 図記号の種類と意味

- 本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
- 本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。

---

### 警告

- 本製品の取り付けや使用する際は必ずパソコンメーカーまたは周辺機器メーカー及びトランジスターのメーカーが提示している警告・注意の指示に従ってください。
- 医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
- 医療用電子機器に影響を与える恐れがあります。
- 本製品を改造しないでください。
- 火災・感電・故障の原因となります。
- 指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
- 火災や故障の原因となります。
- 電源コードは直接、直流電源に接続していただけません。
- 電源コードの延長や継ぎ足しは、火災や故障の原因となります。
- 機器を接続の際にケーブルやコネクターやは小さなお子さまの手の届かないように配置してください。
- さわってケガをしたり、感電する恐れがあります。
安全上のご注意 - 必ずお読みください -

注意

本製品を押入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

本製品をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。

本製品をジュウタンや毛布の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

本製品の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。

本製品の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。

本製品の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。

各種コードの上に重い物を載せたり、無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
コードが傷つき、火災や故障の原因になります。

シンナー・ベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。

本製品を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。

長期間ご使用にならない場合には、安全のため本製品から電源を外してください。

万一、内部に異物が入った場合には、本機から電源を外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。

本製品を移動させるときには、電源コードを電源から外すとともに、各ケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。

本製品を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形や変色などの原因になります。
WiRES-II の特徴

WiRES-II（ワイヤーズ）とは、Wide-Coverage Internet Repeater Enhancement Systemの略称で、アマチュア無線局同士をインターネットで接続して、VHF/UHFのハンディトランシーバーでも世界中のアマチュア無線局と通信をすることができる画期的なシステムです。

WiRES-II は、通常のインターネット回線とパーソナルコンピューターを用意すれば、従来の無線機をそのまま利用することができますので、新たにWiRES-IIのための無線機を購入する必要はありません。また、インターネットへ接続するための制御方法はDTMF信号を用いているため、DTMF信号を送信できるアマチュア無線機器があれば、手軽にインターネットを介した通信を楽しむことができます。

WiRES-II にはFRGとSRGというユニークな概念を持っていますので、用途に合わせてグループをつくり、通信を楽しむことができます。

下図はJQ1YBFがファーンバッチ運用でW6DXCと接続して、J11EDTとWA6Fが交信する様子を示しています。

下図はJQ1YBFがファーンバッチ運用でW6DXCと接続して、J11EDTとWA6Fが交信する様子を示しています。

FRG と SRG

FRG

FRG とはFriendly Radio Groupの略で、「仲の良い友達」というような意味で、パーティースタンダードのサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、送信時に6桁のDTMF信号を送ることが必要です。一度、インターネット接続が確立すれば、あらかじめ設定画面で設定した時間内（TOT）で、相手局とインターネットを経由して接続されます。一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であれDTMF信号を送らなくても相手局とインターネット通信ができます。

複数のFRG局と通信をする場合は、FRGの無線局をグループ化してDTMFのB,A,C,Dのそれぞれのグループにすることもできます（46ページ参照）。

また、従来のV/UHF帯FMモードと同様に、CQ呼び出しをして通信を行うような、いわゆるCQルーム（例: #0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局とQSOを楽しむ小規模なRound QSO Roomが設置されていますので、手軽にQSOを楽しむことができます（49ページ参照）。

SRG

SRG とはSister Radio Groupの略で、「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。FRGは見知らぬ相手局と交信することができますが、SRGは隣の場所にいる仲間とだけ交信することができ、その仲間を最大10局（自局を含む）まで登録することができます（54ページ参照）。

SRGのグループ内では、お互いに同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときには、1桁のDTMFを押すかインターネットキー（VX-7, VX-2等）を押すことで簡単にできます。一度インターネット接続が確立したあと、接続をロックするLOCKモードと通信のたびに接続をリセットするUNLOCKモードが設定できます。
WiRES-IIのセットアップ手順は次のようなながれになります。

### セットアップする前の確認

#### ご使用のPCご使用のOSをご確認ください

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

左記以外のPCは正常に動作できません。

#### ご使用のパソコンのクロック周波数をご確認ください

- Windows 2000 400MHz 以上を推奨
- Windows XP 800MHz 以上を推奨
- Windows Vista 1.0GHz 以上を推奨
- Windows 7 1.0GHz 以上を推奨

左記のクロック周波数以下の場合

動作の保証はできません。左記以上のクロック周波数のPCに変更してください。

#### ご使用のパソコンのメモリー（RAM）容量をご確認ください

- Windows 2000 256MB 以上を推奨
- Windows XP 512MB 以上を推奨
- Windows Vista 1.0GB 以上を推奨
- Windows 7 1.0GB 以上を推奨

左記のメモリー容量以下の場合

動作の保証はできません。左記以上のメモリー容量に変更してください。

セキュリティソフトを導入している場合、それらソフトウェアの所要条件を満たす必要があります。特にWindows 2000やXPではセキュリティソフトの推奨メモリ容量が、上記より大容量を要求する場合があり、注意が必要です。

#### ご使用のパソコンのハードディスクの空き容量をご確認ください

- 100MB 以上の空き容量を推奨

左記の空容量がない場合

動作の保証はできません。左記記載以上の空容量を確保してください。

#### ご使用のパソコンにCOMポートがあるかご確認ください

- COMポートがある
- COMポートが無い場合

次のページへ

残念ですが使用することことができません。COMポートがあるPCを使用するか、USB-COM変換デバイス等によるCOMポートの増設を行ってください。
セットアップする前の確認（つづき）

□ ご使用のパソコンにサウンド機能があるかご確認ください
   ？？？のサンプリングレートに対応したサウンド機能がある
   サウンド機能がない場合
   サウンドカード等を増設してください

□ ご使用のパソコンのビデオ表示機能をご確認ください
   ？？？以上の解像度、？？？色以上に対応するビデオカードとディスプレイを搭載している
   左記の条件のビデオ表示機能がない場合
   動作の保証はできません。左記の表示ができるビデオカードとディスプレイを用意してください

□ ご使用のパソコンのネットワーク ＠LAN ＠機能をご確認ください
   ？？？？？？？？等の？？接続機能もしくは相当のネットワーク接続機能がある
   左記機能がない場合
   残念ですが使用することができません。LANカード等を増設してください

□ インターネット回線の環境をご確認ください。
   光ファイバー？？？や、？？？等？？？以上の回線速度がある環境を使用している
   左記条件を満たさない場合
   動作の保証はできません。対応するインターネット回線環境を用意してください

□ ISP ＠インターネットサービスプロバイダ ＠から供給される、IP アドレスをご確認ください
   プロバイダーからグローバル IP が供給されている
   左記条件を満たさない場合
   プロバイダーからグローバル IP が供給されない場合、運用ができません。グローバル IP が供給できるプロバイダーに変更してください

□ ネットワーク環境をご確認ください
   □ スイッチを使用していない
     アドバイス
     □ の条件を満たしていれば運用可能ですが、セキュリティ対策を確実に行って下さい。
     □ スイッチを使用している □ 回線切替用モデムにルーター機能が内蔵されている物を含む □。
     □ 使用しているルーターに、□ 右側の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ の □ より
WiRES-II セットアップのながれ

WiRES ID番号の取得申請を行う。
(http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html)(ページ)

パーティックスタンダードWiRESカスタマーサポート係からID番号が届いたことを確認する。もし、約一週間たっても届かない場合はパーティックスタンダードにお問い合わせください。(ページ)

HRI-100を接続する。(ページ)

WiRES-IIソフトウェアをインストールする。(ページ)

WiRES-IIソフトウェアを起動して、Serial No.とID No.を入力して認証を受ける。
(ページ)

コンピューターのボリュームコントロールの設定をする。(ページ)

FRG(Friendly Radio Group)運用での通信方法。(ページページ)

仲間のWiRES局とだけでインターネット通信をしたいときは！
SRG(Sister Radio Group)運用の設定方法と通信方法。(ページページ)

Round QSO Roomの運用を、さらに便利な機能を追加して運用する。(ページ)

WiRES-IIソフトウェアの終了。(ページ)
WiRES-Ⅱサーバーへのユーザー登録（WiRES ID番号の取得申請）

WiRESを使用する場合はパートレックススタンダードのWiRES-IIホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレス入力画面によりメールアドレスを登録します。登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが共用なメールが届きますので「WiRESの新規IDの取得申請（新規開局の申し込み）」のアドレスへアクセスし、必要事項を入力してIDの取得申請を行ってください。登録が完了すると、「ID番号登録のお知らせ」をメールにて送付致します。

「ID番号登録のお知らせ」に記載されております番号がお客様の専用ID番号になります。このID番号が付与されますとパートレックススタンダードのサーバーを使用することができます。「ID番号」がないと「WiRES-Ⅱサーバー接続のユーザー登録」及び「WiRES-Ⅱソフトウェア」のインストールができませんので、設定を始める前に必ず「サーバーID番号」を取得してください。

パートレックススタンダードは、アマチュア無線の発展・繁栄のため、できる限り努力してインターネット通信への運営・管理を行いますが、法改正、技術革新などの諸般の事情により、将来インターネットサーバーの運営・管理を行えないとする判断した場合は、インターネットサーバーの運営を終了することがあります。

WiRES- でインターネット通信を行うために必要な機器

- WiRES-IIキット
- ノード局用にmini-DIN 6pinのパケット端子を有したトランシーバー（例としてiččččč、iččččč、ičččččなど）
- アクセス局用にDHCP信号を送信できるトランシーバー（例としてVX-7，VX-6，VX-3など）
- インターネット接続する回線（WiRES 1-NodeにつきグローバルIPが1つ必要です。LANなど、他の目的に回線を使用している場合は、動作しないことがありますので、専用回線を使用してください。）
- パーソナルコンピューター
  - Microsoft® Windows®2000 / Windows®XP / Windows®Vista / Windows®7
- オペレーティング・システムを推奨
  - プロセッサ動作クロック（各OSにより推奨するクロックが異なります）
    - Windows®2000の場合：400MHz以上
    - Windows®XPの場合：800MHz以上
    - Windows®Vistaの場合：1.2GHz以上
    - Windows®7の場合：1.2GHz以上
- ハードディスク空き容量（ソフトウェアインストール用に100MB以上必要）
- RAM（各OSにより推奨するRAM容量が異なります）
  - Windows®2000の場合：256MB以上
  - Windows®XPの場合：512MB以上
  - Windows®Vistaの場合：1GB以上
  - Windows®7の場合：2GB以上
- COMポート
  - 1024 x 768以上の画面解像度（XGA、256色以上をサポートするビデオカードとディスプレイを推奨
- インターネット接続するためのLAN環境（ADSL 8Mbps相当以上）
- 8kHzサンプリングレート対応サウンドボード（サウンドボードの種類によっては、動作しないことがありますのでご注意ください）
- OS、CPU、サウンドボードの種類、他にインストールしてあるソフトウェアによっては正常な動作をしないことや、一部の機能が制限されることがあります。
HRI-100 インターフェースボックス

パネル前面

POWER
HRI-100 の動作状態を表示するランプです。
HRI-100 が動作しているときは、緑色に点灯します。

パネル背面

RS-232C
インターフェースボックスとコンピューター間の制御信号を接続する端子です。
付属の接続ケーブル（RS-232C ストレートケーブル）を使用して、コンピューターの RS-232C COM 端子に接続します。

MIC
無線機からの音声信号をインターネットに出力するための端子です。
付属の接続ケーブル（3.5 ミリプラグ付き）を使用して、コンピューター（サウンドボード）の MIC ジャックに接続します。

SP
インターネットからの音声信号を無線機に出力するための端子です。
付属の接続ケーブル（3.5 ミリプラグ付き）を使用して、コンピューター（サウンドボード）の SPKR ジャックに接続します。

RADIO
無線機からの音声信号とコントロール信号を接続する端子です。
付属の接続ケーブル（8 ピンミニ DIN ブラグ付き）を使用して、無線機のパケット端子（6 ピンミニ DIN のデータ端子）と接続します。接続は、次ページを参考にしてください。
なお、無線機のパケット通信用ポートは、「1200bps」に設定してください。

DC IN 12V
インターネットでスーキ HRI-100 の電源端子です。
付属の電源ケーブルを使用して、直流12V、電流容量500mAの外部電源に接続します。
HRI-100 の接続

FT-8900 と組み合わせた例

例．FT-8900，FT-8800，FT-7800 を使用したときのデータ端子設定

例として，FT-8900/H や FT-8800/H または FT-7800/H をノード局用のトランシーバーとして使用したときのポート設定は下記のようになります。

**FT-8900 と FT-8800 の場合**
- トランシーバーの [SET] を押してセットモードにします。
- メイン側のダイアルツマミをまわし 27 PCKT S [FT-8800] 27 PKT.SPD を選びます。
- メイン側のダイアルツマミをまわし 1200bps を選びます。
- [SET] を 0.5 秒以上押して終了です。

**FT-7800 の場合**
- トランシーバーの [BAND/SET] を 0.5 秒以上押してセットモードにします。
- ダイアルツマミをまわし 2 6 PKT.SPD を選びます。
- [BAND/SET] を押します。
- ダイアルツマミをまわし 1200bps を選びます。
- [BAND/SET] を押して確定します。
- [BAND/SET] を 0.5 秒以上押して終了です。

上記以外のトランシーバーを設定する場合は、ご使用のトランシーバーの取扱説明書をご覧ください。

注意
- 市販の USB シリアルコンポータを使用して接続する場合は、HRI-100 を接続する前にコントロールパネルの「デバイスマネージャ」を起動して「ポート COM と LPT」をクリックしてポートが正しく追加されているか確認してください。
- DATA 端子の無いトランシーバーをご使用の場合は、サポート外になりますのであらかじめご了承ください。
インストールと基本的な使いかた

WiRES-Ⅱソフトウェアのユーザー登録とダウンロード

WiRES-Ⅱのソフトウェアをインストールするには、パーティークスタンダードから発行される「サーバーID番号」が必要になります。「サーバーID番号」の取得は、パーティークスタンダードのWiRES-Ⅱホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）から行います。手順については、HRI-100に添付される「WiRES-Ⅱサーバーへのユーザー登録」を参照されるかWiRES-Ⅱホームページをご覧ください。

・「サーバーID番号」が届きましたらWiRES-Ⅱソフトウェアのインストールを行います。
WiRESソフトウェアをパーティークスタンダードホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）からダウンロードしてください。

・ダウンロードサイトを利用すると、「掲示板」（下図参照）をクリックしてWiRES-Ⅱオーナー掲示板を開き、WEB会員登録を行います。登録済みの方は手順・に進んでください。

！WiRES-IIオーナー専用掲示板規約を読んで会員登録をする」をクリックすると「WiRES-IIオーナー専用掲示板規約」の画面が開き「規約に同意して会員登録をする」をクリックします。
WiRES-II ソフトウェアのユーザー登録とダウンロード（つづき）

「WiRES・オーナー WEB 会員登録」を行ってください。
PASSWORD 以外の入力内容は、WiRES ID 取得時に登録した内容と同じにしてください。
下記の内容を入力し PASSWORD を登録します。
・製品シリアル No.（HRI-100 の底面に貼っているシリアル番号）
・WiRES ID（サーバー-ID 番号と同じ）
・お名前
・E-mail
・メールアドレス
・PASSWORD（半角英数字 8 文字以内で登録）

登録後、「ダウンロード」（下図参照）をクリックし「WiRES・オーナー専用ダウンロードサイト」の画面を開き、WiRES ID と PASSWORD を入力し「ログイン」をクリックします。

ウィーズ-IIオーナー表示画面

ダウンロードサイトに移り、画面に従い WiRES・ソフトウェアをダウンロードしてください。

ヒント

・ダウンロードサイトから、ウィーズ-IID をダウンロードして、任意のフォルダに保存してください。
・任意のフォルダに保存したウィーズ-IID をダブルクリックすると自己解凍が起動し、フォルダが自動的に作成されます。
WiRES- ソフトウェアのインストール

任意のフォルダにダウンロードした WiRES にソフトウェアをパソコンにインストールします。
WiRES のソフトウェアを立ち上げている場合は、インストールする前に WiRES を終了してください。また、他の起動しているアプリケーションも終了してください。
Windows 7 / Windows Vista / WindowsXP / Windows2000 の場合は、コンピューターの管理者権限のあるユーザー（Administrator）でログオンしてください。
フォルダの中にある、WiRES をダブルクリックするとインストールが開始します。
「ようこそ」が画面に現れますので[次へ]をクリックします。

シリアル番号、WiRES ID の入力画面が表示されます。
すでに登録しているシリアル番号、WiRES ID を入力します。
シリアル番号、WiRES ID が確認できると、「ライセンス」が現れます。「使用許諾規約書」の内容を良くお読みいただき、記述内容に同意していただける場合は、使用許諾規約書に同意します。次に[次へ]をクリックします。（使用許諾規約書に同意しません。選択すると、インストールを中断し終了します。）

WiRES がインストールされているディレクトリを確認します。
デフォルトでは、C: \WiRES です。変更されている場合はインストール先を指定してください。
OK をクリックするとインストール開始画面が表示されます。

注 意
WiRES-II ソフトウェアをインストール前に Windows Update を行なっておくことをお勧めします。

注 意
旧バージョンをインストールする必要はありません。
新規インストールをするときには、ID シリアル番号を入力する必要があります。

ヒント
WiRES をクリックすると、インストール作業を中断して、インストールを終了します。
WiRES-II ソフトウエアのインストール（つづき）

次に、接続方法などを選択する画面が現れます。

オートスタートの設定

・コンピューターを立ち上げたときに、WiRES-II プログラムも自動的に立ち上がるようにするには、「オートスタート」にチェックボックスにチェックをつけます。

使用回線の設定

・通常のダイアル電話回線や ISDN などのダイアル回線でお使いになる場合は、「ネットワーク環境」に「ダイアルアップ」にチェックを入れます。ADSL などの常時接続の回線をお使いになる場合は、「ネットワーク環境」の「LAN」にチェックを入れます。フレッツ ADSL やフレッツ ISDN の場合も、「LAN」を選択します。

画面の指示に従って次へことをクリックして行き、WiRES-II プログラムをインストールします。
インストール元を変更することができますが、「WiRES-II インストール」フォルダーにインストールしておくことをお勧めします。

WiRES-II のインストール画面をコピペしてウィンドウに開きます。

お使いのコンピューターによっては、「Windows の再起動」を要求してくる場合があります。その場合は、Windows を再起動させてください。

WiRES-II プログラムのインストールが完了すると、インストールの完了画面が現れます。 「完了」を押してインストールを終了してください。「LAN」でセットアップした場合には「VsLAN」アイコンが、「DialUp」でセットアップした場合は「VsDialUp」アイコンがデスクトップ上にできます。

ダイアルアップが LAN 接続を変更する場合は、再度 Setup.exe を起動して再インストールを行ないません。
ダイアルアップと LAN 接続を使い分ける場合は、WiRES-II のフォルダー内に VsLAN.exe (LAN 接続) と VsDialUp.exe (ダイアルアップ接続) がありますので、デスクトップ上にそれぞれショートカットをおくと便利に使い分けることができます。
WiRES-II.exeを立ち上げる前のご注意

市販のファイアウォールソフトやルーター
UDPポートの4000〜5000のポート間で制御や音声のやり取りを行なっていますので、市販のファイアウォールソフトやルーターを使用している場合は、UDPポートの送受信とも4000〜5000をオープンする設定を行なってください。詳しくは、<URLページ> <URLページ>をご覧ください。

Windows XPのファイアウォール（<URLページ>以降の場合）
Firewallソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。右図はWindows Firewall一例です。

Windows Vistaのファイアウォール
Firewallソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。下図はWindows Firewall一例です。

Windows 7のファイアウォール
Firewallソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。下図はWindows Firewall一例です。
WiRES-II 初期設定 サーバー接続

お使いのコンピューターによっては、「Windows の再起動」を要求してくる場合があります。その場合は、Windows を再起動させてください。

WiRES-II プログラムのインストールが終了すると、インストールの完了の画面が現れます。[終了]を押してインストールを終了してください。

LAN でセットアップした場合は、あらかじめコンピューターをインターネットに接続させ、その後「VsLAN」アイコンをダブルクリックして、WiRES-II プログラムを立ち上げます。

DialUp でセットアップした場合は、「VsDialup」アイコンをダブルクリックすると「WiRES-II Dial-UP」ウィンドウが開きますので、接続先を dial-up List から選び、Dial-Up に接続に必要な User Name と Password を入力します。

バーテックススタンダードのサーバーにアクセスするため、インターネットに接続できる環境にしておきます。

ディスクトップ上に表示されているアイコン（VsLAN または VsDialup）をダブルクリックすると、オープニングロゴが表示され WiRES-II を起動します。

インストール時にスタートアップに登録した場合は、ディスクトップ上にアイコンが表示されませんので、下記を参照して全てのプログラムからスタートアップのうちから VsLAN または VsDialup を選択してください。

WiRES Activation ウィンドウが表示されます。

HRI-100 の製造番号（シリアル番号）を「Serial No.」、スタンダードから通知された ID 番号を「ID No.」に入力してください。

右隣りにある ID/Entry をクリックします。

自動的に WiRES サーバーに接続されます。

「サーバー ID 番号」とシリアル番号が「WiRES 使用許諾書」で登録されたものと一致すれば、ダイアログボックスの左下に「ID Entry Complete」と表示され、Call Sign City State Country が自動的に表示されます。

表示された内容に間違いがないか確認してください。もし登録されたものと一致しない場合は、ダイアログボックスの左下に「Server Entry Complete」が表示されます。

セットアップに登録した場合の WiRES-II 初期起動方法

スタートアップ 全てのプログラム サーバー接続

VsLAN または VsDialup を選択します。

WiRES Activation ウィンドウが表示され、WiRES-II 初期起動画面が表示されます。

上記の手順から操作を行なってください。
WiRES-  初期設定  サーバー接続  (つづき)

WiRES サーバーへの接続が正常に行われると、下記の画面が現れます。」「Serial No.」と「ID No.」の欄はグレーアウトし、「ICON select」「Freq」「SQL Type」「G.Loc」「Comment」「GSL exchange」「Message」「Remote control」の各項目を入力することができます。詳細は下記をご覧ください。

正しく入力できましたら表示されている内容を確認し、[OK]をクリックします（[Cancel]をクリックすると設定は反映されません）。

ヒント
[Call Sign]  [City]
[State]  [Country] が表示されないときは、「サーバーID番号」またはシリアル番号の入力が間違っています。もう一度「サーバーID番号」とシリアル番号を確認してください。

注意
シリアル番号やID番号が合ってても[Call Sign]  [City]  [State]  [Country] が自動的に表示されない場合は、インターネット回線の不良やファイアウォールルーターの設定が確実でない場合があります。再度確認してください。
再度、WiRES サーバーに接続しても[Call Sign]  [City]  [State]  [Country] の情報が自動的に表示されない場合は、WiRES カスタマーサポートにお問い合わせください。

ヒント
メニューバーの[File]  [Set default] を選択すると、WiRESに関する各種設定情報をinstall 選択の初期状態へ戻すことができます。詳しくは[初期設定]参照
メニューバーの[File]  [Retry activation] を選択すると、WiRESの認証を再度行うことができます。WiRESのServer登録情報を変更した場合などに実行します。詳しくは[初期設定]参照

注意
Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます。Freq, Tone, GL, Lat, Lon, を全て入力すると、Comment欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

WiRES-II 取扱説明書 18
WiRES-II 初期設定 ーター接続（つづき）

Location Info window

Latitude を押すとこの画面が表示され、自局 Node の位置情報を入力したり、Active ID window または Group window 上への表示設定を行うことができます。下図は経緯度情報を入力して OK を押すと、自動的に Grid Square Locator を計算し右図のように Personal settings に表示されます。さらに Group Window や Active ID Window に位置情報が表示されます。ここに設定した位置情報は、Ver3.227 以前の Version では Comment 棟に表示されます。

画面の説明は下記の通りです。

- **Latitude**
  緯度情報を度 Degree 分 Minute 秒 Second 北緯 North ／南緯 South で指定します。

- **Longitude**
  経度情報を度 Degree 分 Minute 秒 Second 東経 East ／西経 West で指定します。

補足: 緯度経度情報は、「世界測地系 (WGS-84)」のデータである事を確認してから入力される事をお勧めします。

- **Grid square locator**
  位置情報を Grid Square Locator 形式で表示します。値は緯度情報 Latitude 及び経度情報 Longitude から自動的に計算されます。

- **Show Latitude & Longitude on list**
  緯度情報 Latitude 及び経度情報 Longitude を Active ID window や Group window 上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

- **Show Grid square locator on list**
  Grid Square Locator 情報を Active ID window や Group window 上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

- **button**
  OK を押すと、設定した位置情報が更新されます。
  Cancel を押すと、設定内容が破棄されます。
WiRES-II 初期設定 サーバー接続（つづき）

ICON select
IDリストに表示するアイコンを変更できます。
0〜3の中からお好みのアイコンを指定することができます。
0: OM（送信しているときは、に変わります）
1: YL（送信しているときは、に変わります）
2: DOG（送信しているときは、に変わります）
3: CAT（送信しているときは、に変わります）

Comment
IDリストのComment欄に表示するコメントを入力します。

QSL exchange
チェックボックスにチェックを入れると接続先のWiRES局で画像を登録している場合、画像を表示することができます。また自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA 320×240）指定すると、接続した相手のWiRES局へ自動的に画像を送ることができます。QSLカードを交換する感じで画像を作成してみてください。

Message (MAX 200 characters)
他のWiRES局へ接続したときに表示するメッセージを入力します。また、リストを選択してマウスを右クリック操作によりGet Infoコマンドをクリックしたときに登録したメッセージが表示されます。簡単な自己紹介を入力しておくとよいでしょう。

Remote control
チェックボックスにチェックを入れるとWiRES-II.exeの遠隔操作機能をONすることができます。
ONにすると、リモコン & 音声モニターソフト（wiresmon.exe）から遠隔操作を行う事ができます。戦略どおりに設定時は遠隔操作が出来なくなります。
なお、遠隔操作を行う際によく使うリモコン & 音声モニターソフト（wiresmon.exe）は、必ずVer.1.300以降Windows VistaまたはWindows 7はVer.1.400 以降を使用してください。Ver.1.200以前の旧Versionでは通信できません。

Password
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフト（wiresmon.exe）からリモート操作を行う場合に使用するパスワードをここで設定します。

Port
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフト（wiresmon.exe）Ver.1.300以降からweb monitor機能を利用する時に使うTCP portの番号をここで設定します（40000〜50000までの偶数番号が指定できます）このweb monitor機能により、外部から下記情報を見る事が出来ます。なお、詳細はリモートページをご覧ください。

- Node Log
- Chat Log
- Room Log（Round QSO Room開設時のみ）
- Setting（各種設定情報）

注意
Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Commentの欄を含めて最大80文字（半角英数字）まで入力することができます。
Freq, Tone, GL, Lat, Lon を全て入力すると、Comment欄に入力できる文字は約15文字になります。
WiRES-II ソフトウエア起動方法

スタート [全てのプログラム] で VsLAN を選択します（アナログ電話回線用としてセットアップした場合は、VsDialUP を選択します）。

WiRES-II の起動ロゴ画面が表示され WiRES-II メイン画面が表示されます。
登録している CALLSIGN、Node番号が画面の中に表示されます。
WiRES-II メイン画面の説明は次ページをご覧ください。

ヒント
- LAN でセットアップした場合は、あらかじめコンピューターをインターネットに接続させ、その後「VsLAN」アイコンをダブルクリックして、WiRES-II プログラムを立ち上げます。
- DialUp でセットアップした場合は、「VsDialUP」アイコンをダブルクリックすると「WiRES-II Dial-Up」ウインドウが開きますので、接続先を dial-up List から選び、Dial-UP 接続に必要な User Name と Password を入力します。

ヒント
- Roomを開設すると Room 番号も表示されます。
- WiRES-II メイン画面が表示されると、サウンド関連の検出結果を Log window に表示します。なお、Log 表示の内容は [ログページ] を参照してください。
WiRES-II メイン画面の説明

WiRES-II プログラム（WiRES-II メイン画面）は、11 ブロックで構成されています。

Connect ID window
SRG/FRG の一呼呼び出し AB C D が時、及び、Round QSO Room 接続時の接続者 list を Popup Window 方式で画面を表示します。Connect ID Window の下部（自部門）に現在通話中の Node 番号（Node 番号表示が緑色に灯点）のコールサインが表示されます。

Connecting Node list 表示を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合などに有効です。

Group Window
よく Connect する Node 前... Room 前を表示することができます。File 画面Property 画面Group settings 画面、Node 前... Round QSO Room 前の情報を選択する事があります。

Window の表示内容はリアルタイムには更新されませんが、定期的に自動更新されます。

ヒント
City State Country の順にクリックすると、国別で都市別のアルファベット順でソートすることができます。

リストのID の左横には、のアイコンが表示されます。交信しているときは、アイコンがから変わります。また、Personal ID の ICON SELECT の所で、4 種類のアトコ値から変更することができます。

0: (OM) 1: (YL)
2: (Dog) 3: (Cat)
なお、アイコンを変更すると、その Wires 前のアイコンは変更されたものが他局にも表示されます。
WiRES-Ⅱ メイン画面の説明（つづき）

WiRES-Ⅱは、WiRES-II.exeを実行すると、以下のメニューが表示されます。ウィンドウの右側にあるメニューをクリックすると、各機能が選択されます。

**メニューの説明**

- **[Connect]**: 設定した局のIDを接続します。
- **[Get Info]**: 自己紹介画面を表示します。過去に接続したもののアーカイブを表示します。
- **[Round QSO Room]**: Round QSO Roomにアクセスします。
- **[Active Window]**: Active Windowを開きます。
- **[Group Call]**: Group Callを開きます。
- **[SRG/FRG]**: SRG/FRGを開きます。
- **[Bookmark list]**: Bookmark listを開きます。
- **[ Makelist]**: Makelistを開きます。
- **[Sort]**: 排列順を設定します。
- **[Save]**: 保存します。
- **[Refresh]**: 刷新します。
- **[Close]**: 画面を閉じます。

**ウィンドウの説明**

- **WiRES-II.exe**ウィンドウ: WiRES-II.exeのメインウィンドウです。
- **Get Info**ウィンドウ: 自己紹介画面が表示されます。
- **Active Window**ウィンドウ: Active Windowを開いたウィンドウが表示されます。
- **Group Call**ウィンドウ: Group Callを開いたウィンドウが表示されます。
- **SRG/FRG**ウィンドウ: SRG/FRGを開いたウィンドウが表示されます。
- **Bookmark list**ウィンドウ: Bookmark listを開いたウィンドウが表示されます。

**ウィンドウの操作**

- **WIRES-II.exe**ウィンドウに、設定した局のIDを接続すると、下記のコマンドが実行できます。

**ヒント**

- **Sort**: 並べ替えの処理は、下記動作時にのみ行われます。
  - プログラム起動時
  - 項目名変更
  - MAKE LIST出力動作時

- **Refresh**: 刷新操作時

**MyRoom access list**ウィンドウ：MyRoom access listは、Fileメニューから選択できます。ウィンドウを再度開くと、表示されます。再起動せずに設定した選択肢を反映する操作を行ってください。

WiRES-II  取扱説明書  23
WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

- Window の項目説明 -

**G.ID No:** SRG/FRG/Bookmark list を選択するとID番号の部分に「Group ID No.」が表示されます。SRG/FRG/Bookmark に登録した WiRES 局が表示されます。

**C.ID No:** Connecting Node list を選択するとID番号の部分に「Connect ID No.」が表示されます。現在接続している WiRES 局のID番号を表示します。

**M.ID No:** MyRoom access list を選択するとID番号の部分に「Group ID No.」が表示されます。自分が開設している QSO Room に接続中の Node局のID番号を表示します。

**Tm:** Round QSO Room に接続中の Node局数を表示します。

**CallSign:** 運用ノード局のコールサインが表示されます（Round QSO Room 表示の時は Room Name）。

**City:** WiRES 局が設置されている市区町村名が表示されます。

**State:** WiRES 局が設置されている都道府県名が表示されます（海外局は州情報を表示します）。

**Country:** WiRES 局が設置されている国名が表示されます。

**Freq (MHz):** WiRES 局の運用周波数が表示されます。

**SQL:** WiRES 局運用時のトーンコードスケルチ情報が表示されます。

**GL:** WiRES 局の位置情報が Grid square locator 形式で表示されます。

例 PM95UP

**Lat:** WiRES 局の位置情報の内、緯度情報が表示されます。

表示形式は  "aa.bb.ccX" で、それぞれの内容は下記の通り。

aa: Degree(角度) / bb:Minute(分) / cc:Second(秒) / X: N 北緯、S 南緯

例 35.38.10N 北緯35度38分10秒

**Lon:** WiRES 局の位置情報の内、経度情報が表示されます。

表示形式は  "aa.bb.ccX" で、それぞれの内容は下記の通り。

aa: Degree(角度) / bb:Minute(分) / cc:Second(秒) / X: E 東経、W 西経

例 139.42.20E 東経139度42分20秒

**Comment:** コメントが表示されます。
WiRES- II  取扱説明書

WiRES- II メイン画面の説明（つづき）

Active ID Window
現在接続可能な無線局をリストで表示します。また、各項目名部分をクリックすると、list の並び順を変更（ソート）できます。ソート指定項目は項目名左側に □ □□ □もしくは □ □□の表示が入ります □ □□表示 □ 昇順 □ □□□表示 □ 降順 □ このリストは適宜更新されます。

WiRES局を右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。

- Connect □ 選択した局のIDへ接続要求します。
- Get Info □ 選択したIDの自己紹介画面を表示します。

過去に接続した事のある局で画像データを取得した局については、その画像も表示します。

Window default □ これを選択すると、各 window [ Group window, Active ID window 及び Round QSO Room window の表示数を等間隔( □ 等分)にします。

- Window の項目説明 -
A.ID No. : WlRES局のID番号（Active ID No.）が表示されます。
CallSign : 運用ノード局のコールサインが表示されます。
City : WlRES局が設置されている市区町村名が表示されます。
State : WlRES局が設置されている都道府県名が表示されます（海外局は州情報を表示します）。
Country : WlRES局が設置されている国名が表示されます。
Freq (MHz) : WlRES局の運用周波数が表示されます。
SQL : WlRES局運用時のトーン・コードスケルチ情報が表示されます。
GL : WlRES局の位置情報が Grid square locator 形式で表示されます。
Lat : WlRES局の位置情報の内、緯度情報が表示されます。

例 □ PM95UP

例 □ 35.38.10N (北緯 35 度 38 分 10 秒) □

Lon : WlRES局の位置情報の内、経度情報が表示されます。

例 □ 139.42.20E (東経 139 度 42 分 20 秒) □

Comment : コメントが表示されます。

ヒント
Sort □並べ替え □の処理は、下記動作時にのみ行われます。
- プログラム起動時
- 項目名部分□A.ID No.など□をクリックした場合
- Sort 項目指定時 □
- Refresh 操作時
- MAKE LIST 出力動作時

出力指定したLISTのみ □
項目によっては、値が頻繁に変動するものもあります。
これらの値が変動しても、LIST表示位置はSort直後の位置から動かない様になっています。

指定したSort条件で並べ直したい時には、その都度、手動でConnect ID Windowの
Refresh buttonをクリックしてRefresh操作するか、項目名部分をクリックする等
の操作を行ってください。

ヒント
City □ State □ Countryの順にクリックすると、国別で都
市別のアルファベット順でSortすることができます。

リストのIDの左横には、□のアイコンが表示されます。
交信しているときは、アイコンが□から□に変わります。
また、Personal IDの
ICON selectの所で、4種類のアイコンから変更することが
できます。
0 : □ (OM) 1 : □ (YL)
2 : □ (Dog) 3 : □ (Cat)
なお、アイコンを変更すると、そのWlRES局のアイコ
ンは変更されたものが他局にも表示されます。
WiRES- II メイン画面の説明（つづき）

- Round QSO Room window
現在接続可能なRound QSO Roomをリストで表示します。Connect したRound QSO Roomに常駐している全てのノード局を呼び出すことができます。
また、各項目名部分をクリックすると、list の並び順を変更（ソート）できます。ソート指定項目は項目名左側に “↑” もしくは “↓” の表示が入ります。この表示で昇順・逆順・降順が表示される。
右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。

- Connect: 選択した Round QSO Room 局へ接続要求します。
- Get Info: 管理者のID など自己紹介画面と現在接続中の Node 局のID を表示します。Round QSO Room管理者が画像を設定しているときには、その画像も表示されます。
- Window default: これを選択すると、各 window のGroup window, Active ID window及びRound QSO Room window の表示行数を等間隔（等分）にします。

- Window の項目説明 -
RID No: Round QSO RoomのID番号（Round QSO Room ID No.）が表示されます。
Tm: Round QSO Roomに接続中のNode局数を表示します。
Room Name: Round QSO Roomの名称が表示されます。
City: Round QSO Roomを設置している局の市区町村名が表示されます。
State: WiRES局が設置されている都道府県名が表示されます。
Country: Round QSO Roomを設置している国の国名が表示されます。
Comment: コメントが表示されます。

- View QSL Window
View QSL Window画面をクリックするとQSLの画像データを保存することができ、
Saveをクリックすると接続先のID番号とメールアドレス（半角200文字まで）のテキストを保存することができ、Node局のQSLカードとして交換し保存しておくことができるView QSL機能です。
CloseをクリックでView QSL Windowを閉じることが可能です。
WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

Status indicator
右側上部のブロックは、局の無線機とインターネット上他のWiRES局の動作状態を表示します。

![Status Indicator](image)

：自局のWiRES-IIソフトウェアが、インターネット上の他のWiRES局と接続されていない時、NETが表示されます。インターネット上の他のWiRES局と局が接続されると、ON-AIRが変化します。接続中はこの表示を維持します。他のWiRES局との接続が切断されると、元のON-AIRに戻ります。

：インターネット上の他のWiRES局と接続状態にある時、NET表示が出ていない時、接続中のレビーターレポートからのPTT制御信号により、局が送信状態になると、ON-AIR（緑色反転表示）になります。また、このPTT制御信号がOFF状態になると、ON-AIRに戻ります。なお、LOCAL通信の時は緑色反転表示はなりません。

ON-AIRをマウスでクリックすると、ON-AIRが点灯し送信禁止状態に移行します。この状態時には一切の送信操作が禁止され、そのNodeやRoom等との接続も全て切断されます。この操作をすると、Log windowに、下記のようなメッセージを表示します。

*localhost* ON AIR LOCK

**ヒント**
自局の無線機のスケルチが閉じていて何も受信していない（BUSYではない）ときは、LOCALの状態になります。

ON-AIR LOCK 状態の時に、その表示部分をマウスでクリックすると、送信禁止が解除され、元の様に回線接続や送信を行う様になります。

![Remote Control](image)

：自局の使用状況をここに表示します。表示内容は、HRI-100と自局の無線機にて接続されるSquelch Controlの状態、接続するインターネット上の他のWiRES局との通信状況により変化します。具体的な表示内容は下記の通りになります。

LOCALは自局の無線機が一切使用されていない時（つまりBUSYではない時）。この表示は点灯しません。

LOCALは自局の無線機のSquelch Controlがアクティブ状態になると、この表示が緑色に点灯します。

ON-AIR LOCK 状態の時に、その表示部分をマウスでクリックすると、送信禁止が解除され、元の様に回線接続や送信を行う様になります。
WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

WiRES-IIではInternetを伝送路に使う為、音声伝達の遅延が発生します。この遅延を考慮し、普段から通話と通話の間に、数秒程度の間隔 break timeをとると良いです。

注意

WiRES-IIではInternetを伝送路に使う為、音声伝達の遅延が発生します。この遅延を考慮し、普段から通話と通話の間に、数秒程度の間隔 break timeをとると良いです。

WiRES-IIはHRI-100と正常に通信ができる時、この表示になります。この状態であれば、正常にシステムが動作します。

注意

WiRES-IIはHRI-100とパソコンが通信できない時、この表示になります。この状態ではシステムが正常に作動しません。パソコンとHRI-100の接続に間違いが無いかチェックしてください。COM port No.の確認をしてください。

HRI-100のfirmware上のdataの異常を知る為のindicatorです。HRI-100 statusの右側に3種類の状態表示があり、正常な時には全て緑色点灯します。もし赤色点灯が1カ所でもある場合にはHRI-100側が正常に動作していない可能性があります。

HRI-100の電源を入れ直してください。
WiRES- II メイン画面の説明（つづき）

それでも消灯しない場合は、WiRES カスタマーサポートにご相談ください。WiRES カスタマーサポートの連絡先は [158ページ] に記載されております。

SRG のときは、現在接続している WiRES 局の接続先番号を表示します。Group settings 画面で登録した接続先番号へインターネット回線で接続すると、該当する番号部分が反転表示されます。

FRG のときは、現在接続している WiRES 局の接続先の ID 番号を表示します。

自分で開設した Round QSO Room に接続中の Node 局の総数を表示します。

View [Log] [Round QSO] を選択して Log change 機能  自局 Round QSO Room 専用 log 表示モードにした場合のみ表示されます。

Log window
インターネットの（WiRES サーバーとの）接続状態を表示します。WiRES 局のコールサイン、ID 番号、通信状況、さらにタイムスタンプも随時表示しますので、通信履歴を取るのに便利です。

Chat window
Chat のメッセージなどをこの画面に随時表示します。
日時、送信元、送信先、チャット内容が表示されます。

Text box
チャットを行うときの文字を入力するテキストボックスです。文字によるチャット内容の日時、送信元、送信先が表示されます。
WiRES 局と接続中に文字を入力して、リターンを押すか、をクリックすれば、そのまま接続先に文字を送ることができます。

ヒント
Round QSO Room を開設した場合は、メニューの View Log さらに Node 以外の Round QSO が追加され、Round QSO Room での通信履歴を見ることができます。

Round QSO Room の ID 番号表示のときは、Room に接続中の Node 局数を表示します。

WiRES-II.exe を立ち上げて WiRES-II メイン画面を表示されると、サウンド関連の検出結果を Log window 表示します。
なお、Log 表示の内容は [158ページ] を参照してください。

ヒント
Chat window は半角 3000 文字まで表示することができます。
WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

また、#M番号[4桁数字]のあとにスペースを置くと接続の有無にかかわらず、指定した相手に文字を送ることができます。

をクリックするとChat windowの内容を消去することができます。

また、DTMFで使用するコマンド[DTMF Command]をここに入力して、リテンを押すか、もしくは[CONNECT]をクリックすることで、同様の動作をさせることも出来ます。ここで使用できるコマンドは下記の通りです。

| #0000D / #00000 | 応答コマンド [接続時のみ有効] |
| #5555D / #55555 / #05555 | 自動 Room 接続停止コマンド [未接続時のみ有効] |
| #6666D / #66666 / #06666 | 他の WiRES 局との接続状況を知らせるコマンド [未接続時のみ有効] |
| #7777D / #77777 / #07777 | CQ [ラッピング] [接続コマンド [未接続時のみ有効] |
| #8888D / #88888 / #08888 | 再接続コマンド [未接続時のみ有効] |
| #9999D / #99999 / #09999 | 切断コマンド [接続時のみ有効] |

なお、ここでは、による切断コマンドは使用できません。

ボイスメモリーのアイコン
Chat windowの左下のアイコンは、コンピューター内のボイスメモリーの動作状況を表示します。

WIRES-IIが録音状態になったときに、アイコンが黄色に点灯します。録音が終了すると元のアイコンに戻ります。

- WIRES-IIでは、インターネットを介して相手局に接続されるまでの間「頭切れ」を起こしますので、その間ボイスメモリーに録音を行い「頭切れ」を防止していきます。

- 自局がLOCAL通信を行っているときにインターネットを介して他のWiRES局より呼び出しを受けた場合には、その呼び出しを一旦ボイスメモリーに録音し、LOCAL通信が終了した時点で直ちに再生し送信します。

ボイスメモリーに録音されていた音声信号を再生しているときに、アイコンが黄色に点灯します。再生が終了すると元のアイコンに戻ります。

- 「頭切れ」を防止するために録音された音声を再生しているとき。

- LOCAL通信を行っているときに録音された、WiRES局からの音声を再生しているとき。
WiRES-III メイン画面の説明（つづき）

右側下部のブロックは、コンピューター（サウンドボード）とHRI-100間の音量調整を表示します。レベルバーの右端には、0〜100の数字でレベルを表示します。

**SP LEVEL「Default：60」「WAVE LEVEL「Default：4」**

SP LEVEL はインターネットを経由して相手から送られてきた音声信号をHRI-100へ入力し、自局の無線機から送信する音声レベルを調整します。

WAVE LEVEL は接続先のNodeやRound QSO RoomからInternet経由で送られてくる音声信号や、パソコンから出力するアナウンス等の各種音声等の音量を調整します。

お使いのパソコンによっては、この値を調整すると出力レベル全体が調整されてしまう場合があります。

その場合は、34ページの「ポリュームコントロールの設定」を参照し、再度調整を行ってください。

調整方法は、OSによって変わります（下記参照）。35ページの「ポリュームコントロールの設定」も参照してください。

Windows2000/XP の場合
SP LEVEL はOSのMASTER ポリューム再生と連動します。
WAVE LEVEL はOSのWAVEレベルと連動します。

Windows 2000/XP などの場合には、SP LEVEL を初期値（60）のレベルにしておき、まずは WAVE レベルにて音が歪まない適切な音量に調整し、運用状態に応じて SP LEVEL で微調整する事をお勧めします。
WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

- **Windows Vista** または **Windows 7** の場合
  SP LEVEL は WiRES software (WiRES-II.exe) 専用の再生ポリュームとして動作します。
  WAVE LEVEL のレベルは表示されません。

- **マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する。**
  アプリケーションに WiRES 専用ポリュームが OS に追加され、そのポリュームを SP LEVEL にて制御します。OS 全体のマスターポリュームは制御されません。

- **音量調整は、OS のマスターポリュームにて音が歪まない適切な音量に調整します。**
  SP LEVEL はさわらずに初期値（000）のままにしておきます。

- **運用状態に応じて SP LEVEL で微調整をすることをお勧めします。**

**MIC LEVEL 「Default : 15」**

**LINE-IN LEVEL （LINE 入力の表示）「Default : 15」**

Audio Settings 内の Voice in select で MIC に設定している場合は、無線機で受信した音声信号は、HRI-100 を通過してコンピュータのサウンドカードの MIC LEVEL へ入力されます。

この入力する音量レベルを調整します。また、Windows のポリュームコントロール画面で録音用のマイクと連動しており、WiRES で設定した音量レベルが優先されます。

**注意**

Other を選択した場合は、Other ON OFF と表示し、ポリューム部分はグレースケールの状態になります。

ポリュームの制御はできません。詳細は、81 ページを参照してください。
LEVEL METER button（音量レベルのグラフィック表示）
「Default : ON」ボタンが緑色の状態△レベル調整バーの上にある音量レベルのグラフィック表示を
ON □OFF □にするスイッチです。
□LEVEL METER □レベルメーターが動作します。
□LEVEL METER □レベルメーターは動作しません。
ON にした場合、右下の □SP LEVEL □と □MIC/LINE-IN LEVEL □のレベル調整バーの上に、音量レベルのグラフィック
表示が行われます。

ANNOUNCEMENT
押すと表示がANNOUNCEMENT MUTE に変わり、アナウンス機能を一時停止 MUTE に、音が入らない状態にすることができます。

アナウンスを一時停止 MUTE の状態にしていき、General settings の Announcement 設定はそのまま保持されます。
ANNOUNCEMENT MUTE をクリックすると、接続断 Disconnect 処理が行われると、アナウンスの一時停止 MUTE 状態が解除され、ボタン表示がANNOUNCEMENT に切り替わり、通常状態に復帰します。
なお、回線接続 Connect 時及び、回線切断 Disconnect 時は、ANNOUNCEMENT MUTE の状態に関わらず、Sound settings の設定に従った接続 Connect 音や切断音が出力されます。
また、自動接続 Return to resident Round QSO Room 機能が稼働中は、接続断 Disconnect 処理が行われる時に ANNOUNCEMENT MUTE 状態が解除されてしまう為、従来通り General settings の Announcement 設定を行い、ANNOUNCEMENT MUTE 機能を使わない運用を行う事をお勧めします。
ポリュームコントロールの設定

- **WIRES-IIの粗調整**
  - 11ページのHRI-100の接続を参考にHRI-100にノード用トランシーバとパソコンを接続します。
  - ハンディトランシーバーを用意して、ノード用トランシーバーと周波数を合わせ、信信できるか確認します。
  - **WIRES-IIのアプリケーションを起動します。**
    
    1. File [ ] Property [ ] HRI-100 setup を開きます。
    2. の部分設定を下記の値に設定します。
       - HRI-100 SP ATT=15
       - HRI-100 MIC ATT=15

![Property Screen](image)

- 1. WRITE をクリックして確定します。
- 2. OK をクリックして Property Screen を終了します。

- **WIRES-IIポイスチェックソフト（Voice_ck.dll）のインストール**
  
  通信時の音声レベル調整するソフトで、ポリュームコントロールの設定を行えない。音声レベル調整ソフトのインストールとソフトの使い方を説明します。
  
  - **WIRES-IIのアプリケーションを起動します。**
  - Tool [ ] Plugin set を開くと、WIRES plugin menuの画面が現れますのでAdd Module をクリックします。
  - 「ファイルを開く」が表示され、WIRES-IIのフォルダーの下にあるフォルダーをダブルクリックすると「Voice_ck.dll」が表れます。このファイルを選択し、OK をクリックします。

次のページに続く
ポリュームコントロールの設定（つづき）

WiRES Voice Check が表示されていることを確認し、OK を押します。

音声レベル調整ソフトの画面説明
Tool や WIRES Voice Check を選択するとプログラムが起動します。

下記のような調整画面が現れます。

音声レベルの調整
音声レベルの調整は OS によって操作が変わります。Windows2000/WindowsXP は 35 ページ - 36 ページを参照してください。Windows Vista/Windows7 の調整方法は 36 ページ - 37 ページを参照してください。

ハンディーなどから喋った音声が WiRES-II を通して接続先に到達する音声レベルを調整します。
調整を行う前に WiRES-II のノード用無線機とハンディー機などが通信できることを確認してください。

注意
ON-AIR LOCK 時に音声レベル調整ソフトを起動すると、ON-AIR LOCK 状態は解除されます。

ヒント
・「MIC LEVEL」のポリュームバーが MAX (100) になっても音量が低く適正レベルに調整出来ない場合は、ポリュームコントロールパネルのオプションメニューの録音 マイクトーンの設定 の中にあるマイクプー ストのチェックボックスにチェックを入れてください（マイクにトーンがないとき）。オプションメニューのトーン をクリックして「トー ヌ」にチェックマークを付けてください。
・一部の機種で AGC（Automatic Gain Control）機能を持つものがあり、このタイプのものでは音量が調整できない場合があります。適正音量にならない場合 は AGC 機能を OFF にしてから再度音量調整をしてみてください。
ポリュームコントロールの設定（つづき）

ワイレスII

ハンディートランシーバのPTTを30秒ぐらい押しながらDTMF 1を押し、その間に「MIC LEVEL」のバーにより録音レベルメーターが赤1つか2つ表示するように調整します。

PTTを放すと、Node側のトランシーバが送信状態になり、録音信号の音声がハンディートランシーバから聞こえます。その間に「SP LEVEL」バーは操作せずにデフォルトの1つ固定しておき「WAVE LEVEL」バーを操作して録音した音（受信音）が歪まない適切な音量レベルに調整してください。

ノード用トランシーバへの変調レベル調整（SP/WAVE LEVEL）

注意
CPUの処理速度が遅いパソコンをご使用の場合は、レベルメーターをONするとCPUに負担が掛かり、他の機能の性能を低下させることもありますので、調整が終了したら「LEVEL METER」にしてレベルメーターの動作をOFFにすることをおおすすめします。

「MIC LEVEL」バーを操作してもバーが赤1つか2つ表示するように調整します。

注意
LINE-INに設定した場合はMIC LEVELの部分がLINE-IN LEVELに変更され、MIC LEVELと同様調整します。

ヒント
「MIC LEVEL」のポリュームバーがMAX(100)になっても音量が低く適正レベルに調整出来ない場合は、
マウス右クリックサウンド:「録音：マイク選択」をクリックし、録音を開始します。

ウィンドウ

Windows Vista/Windows 7の調整方法

WiRES-IIメイン画面の右下の[LEVEL METER]が緑に点灯しているか確認します。

[RECORD START]をクリックし、録音を開始します。

ハンディートランシーバのPTTを30秒ぐらい押しながらDTMF 1を押し、その間に「MIC LEVEL」のバーにより録音レベルメーターが赤1つか2つ表示するように調整します。

マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する
ポリュームコントロールの設定（つづき）

PTTを放すと、Node側のトランシーバーが送信状態になり、録音信号の音声がハンディートランシーバから聞こえます。その間に「SP LEVEL」バーは操作せずにデフォルトの間で固定し、【マイク】をマウスの右クリックで「音量ミキサーを開く」を選択します。「マスターポリューム（デバイス スピーカー）」バーを操作して録音した音（受信音）が歪まない適切な音量レベルに調整してください。

マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する

OSマスターポリュームで音が歪まない適切な音量に調整する

WiRES専用ポリュームを微調整する（SP LEVELと連動）

設定をクリックして機能をOFFにします。
録音した信号の送信が全て終了した後、【Close】をクリックしてVoice Checkブラグインを終了します。
これでWiRES-IIの音声調整は全て終了です。

MIC端子からの音声入力が大きすぎて音が歪む場合の設定方法

MIC端子からの音声入力が大きすぎて音が歪む場合、LINE端子がパソコンにある場合は、マイクアンプの入らないLINE端子に接続することにより歪みのない音声に調整することができます。パソコンのポリュームコントロールで設定せずにWiRES-IIのポリュームコントロールで設定することができます。

File【Audio settings】を開きます。
Voice In SelectのLINE-INに【OK】を入れて選択します。
【OK】をクリックしてAudio settingsを終了します。
WiRES-IIソフトが再起動されます。
【LINE-IN LEVEL】のレベル調整バーで音量を調整することができます。なお音量の調整方法は、31ページを参照してください。
簡単な交信（FRGでの交信）

FRGによる通信には大きく二つ、Node局同士の通信とNode局と他の応答局との通信に分けられます。Node局同士の通信は一般的に2種類あります。

１つはNode局同士の通信で、直接に接続して交信する方法です。もう１つは、複数のNode局が同時に接続され、その接続中のNode局間で相互に通話可能になるRound QSO Roomを利用することです。

Round QSO Roomには、CQ呼び出しをして通信を行うよう、いわゆるCQルーム（日本国内の代表的なルームでは#0510Dから、気の合う仲間同士で複数の局とQSOを楽しむ小規模なもので、多様な存在となっています。

Round QSO Roomへの出入りは自由な為、これからは手軽にQSOを行う事ができます。

Node to Node（1対1）での交信例

- HRI-100の接続を念のためご確認ください（11ページ参照）。
- Node局の通信方法はDTMFキーで相手のID番号を押します。
  例えば5109に接続したい場合
  は、#55555555555と押します。
  Wires-IIのメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 5109」と表示されます。

- ハンディトランシーバーのPTTを押す。
- Wiress-IIのメイン画面右上にあるログリストに「Connected to 5109」
  と表示されます。5109 Node局にConnect（接続）されます。また、接続
  と同時に画面右上に接続している他のNode局番号が表示され、さらに
  View QSLが表示されます。

- ハンディトランシーバーのPTTを放す。
- Wiress-IIのメイン画面右上にあるログリストに「Disconnected」
  と表示されます。PTTを強く押し続けると自動的に呼ばれます。

- 交信が終了したら、ハンディトランシーバーのPTTを押す。
- DTMFキーで#9999D（切断コマンド）を押します。「ビビビッ」と
  切断音が鳴りDisconnect（切断）されて交信は終了します。

切断コマンドについて

#9999D以外に#99999または#9999でも切断コマンドとして動作します。
また、Property ScreenのCall optionsの項目でDTMFを選択し、Single digit commandに
チェックを入れると、DTMFの*でも切断コマンドとして動作します。
簡単な交信（FRGでの交信）（つづき）

Round QSO Roomでの交信
CQ呼び出しをして通信を行うような、いわゆるCQルーム（例: #0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局とQSOを楽しむ小規模なRound QSO Roomで交信することができます。下図は例として、複数のNodeが0510 Round QSO RoomにConnectし、5209Nodeを利用するA局がCQを出していると仮定したイラストです。

繁HRI-100の接続を念のためご確認ください（11ページ参照）。
Node局のトランシーバーの周波数を決める。
Node局にアクセスするハンドトランスシーバーを用意します。
ハンドトランスシーバーをNode局と同じ周波数に設定します。
ハンドトランスシーバーのPTTを押したまま、DTMFキーで接続したいRound QSO RoomのID番号を押します。例えばA CQ Roomに接続したい場合は #0510D (F0510D)と押します。WiRES-IIのメイン画面右上のログリストに「Call Start No. 0510」と表示されます。

ハンドトランスシーバーのPTTを放します。
ログリストに「Connected to 0510」と表示されRound QSO RoomにConnect（接続）されます。
接続すると同時に画面左上のConnect ID windowに現在Round QSO RoomにConnectしている局のNode番号が表示されます。さらにView QSLも表示されます。

Round QSO Roomの番号とRoomに入っているNode数を表示

通話中（緑色に点灯している）のNode局のコールサインを表示

ハンドトランスシーバーのPTTを押して、MICに向かって「CQ」をだします（）に分間の送信可能時間をカウントダウン表示します。相手局が応答してくると、一般的な交信と同様に行ないます。
交信が終了したら、ハンドトランスシーバーのPTTを押したまま、DTMFキーで #9999D（切断コマンド）と押します。「ビビビビビビ」と音が鳴りDisconnect（切断）され交信は終了します。
簡単な交信（FRGでの交信）（つづき）

WiRES局に接続する

WiRES局にコネクトする場合は5種類の方法があります。

① トランシーバーのDTMFキーでコネクトしたいWiRES局のID番号（例：1101D）を送出してConnectする。

② Group window，ActiveID windowまたはRound QSO Room windowからコネクトしたいWiRES局を選択し、コネクトメニューの[Connect []]をクリックしてConnectする。

③ コネクトメニューの[Connect []][Connect To]をクリックしテキストボックスにコネクトしたいWiRES局のID番号（例：1101）を入力してConnectする。

④ Group window，ActiveID windowまたはRound QSO Room windowからコネクトしたいWiRES局を右クリックして、Connectのコマンド画面からConnectする。

⑤ チャット機能のテキストボックスにコネクトしたいWiRES局のID番号（例：#1101D）を入力し、[CONNECT]または[SEND]をクリックしてConnectする。

⑥ Group windowはSRG/FRG/Bookmark list表示のときのみ

WiRES局を切断する

WiRES局をディスコネクトするには3種類の方法があります。

① トランシーバーのDTMFキーで切断コマンドを入力してDisconnectします。（*はProperty ScreenのCall optionsの項目でDTMFをDisconnect選択し、Single-digit commandをチェックを入れると切断コマンドとして動作）。

② コネクトメニューの[Connect []][Disconnect]をクリックしてDisconnectする。

③ チャット機能のテキストボックスに切断コマンドを入力し、[SEND]をクリックしてDisconnectする（*の切断コマンドは受け付けません）。
簡単な交信（FRGでの交信）（つづき）

チャット機能

チャット機能としてConnect先に文字を送ることができます。チャット機能はFRG以外の通信（SRG通信やローカル通信）でも使用することができます。

・文字の送り方
Connectの状態でテキストボックスに文字入力し、Enterを押すか、Enterをクリックすると、そのままConnect先に文字を送ることができます。

**注意** 连絡番号44桁半角数字のあとにスペースを任意に指定した相手にチャットすることができます。

例） こんにちはんはん

・Chat windowの消去

 Conversationをクリックするとチャットウィンドウの内容を消去することができます。

・Chat windowでコマンドを操作する

 DTMFで使用するコマンドID（DTMF Command）を任意に指定した相手に送り、Enterを押すか、Enterをクリックすることで、同時に動作をさせることも出来ます（129ページ参照）。

接続先のID番号とコールサイン、交信日時、メッセージ（半角200文字まで）をQSLカードとして交換し保存しておくことができます。さらに、自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA 320 x 240）を任意に指定した相手に送ることもできます。カード交換をする感じで接続した相手のWiRES局へ自作的に画像を作ることができる。

**File** 画面を開き、テキストボックスでファイル名を入力し右の【】をクリックして保存場所を指定することができます。

またQSL exchangeのチェックボックスにチェックを入れると、接続先のWiRES局のQSL画像が表示されます（Raund QSO Roomに常駐している場合はRaund QSO RoomのView QSLを表示）。また、ご自分でQSL画像を作成し登録しておくと、画像を表示することができます。

・Saveをクリックすると接続先のID番号とコールサイン、交流日時、メッセージをTXTで、または画像はbmpで保存することができます。保存先はbmpと同じ場所に保存されます。

・CloseをクリックするとView QSLの画面を消去することができます。
簡単な交信（FRGでの交信）(つづき)

ログリストに表示されるいろいろな情報

ログリストには、Connect:Disconnectに関するいろいろな情報が表示されます。おもな表示については以下のとおりです。詳しくは、付録のログリスト一覧表をご覧ください。ログリストを見ることにより現在の状況を知ることができます。

・Call Start No.5109: 5109へのConnect要求
・Call Start No.5109 (SRG:1): SRG1番の5109へConnect要求
・In-Call from No.5109: 5109からの呼び出し
・In-Call from No.5109 (SRG:1): SRG1番の5109からの呼び出し
・Connected to 5109: 5109へのConnect成立
・end-key detected .. Hangup: Connectの切断
・Conference End.: Connectの切断完了
・Socket Connection Canceled: 0: Connect先が他のWiRES-II局とConnect中で接続できない
・Socket Communication timeOut..Hangup: 相手もしくは自局のインターネット接続のトラブル
・No Answer from Called PC: オンラインになっているがConnect先のコンピュータからの応答がない
・No Entry ON ILS Server: Connect先がオフラインのときまたはサーバーに登録されていないとき
call to Rejected ID No[5109]: reject Listに登録した局を呼び出したとき
・Call Failed: Connect不成立
・MCU Call-Type [B]: FRG Bで一斉呼び出し開始、一斉呼び出しをしたWiRES局のID番号をメイン画面左上のConnect先ディスプレイに表示

なお、この表示以外に「Roomを開設」したり「リモコン&音声モニターソフトuwiresmon.exe
ver1.300以降のWiRES-IIへアクセス」した場合は、WiRES-IIのログ画面に出てくるメッセージが
追加されます。詳しくは、付録のログリスト一覧表をご覧ください。
WiRES-II ソフトウェアの終了方法

WiRES-II ソフトウェアを終了する場合は、下記の手順で行います。

・タスクバーの中にある「VsDialUP」アイコン を右クリックし、ポップアップメニューを表示させます。
・ポップアップメニューの中の Quit を左クリックします。タスクバーの中にある「VsDialUP」アイコン または「VsLAN」アイコン が消えます。

・右クリックし、ポップアップメニューを表示

メニューバーの File で Exit で WiRES-II メイン画面が閉じ、WiRES-II ソフトウェアを終了することができます。
・WiRES-II ソフトウェアを再度立ち上げる場合は、デスクトップ上の「VsDialUP」アイコンまたは「VsLAN」アイコンをダブルクリックします。

ウィンドウ
手順3 のかわりに WiRES-II メイン画面の右上にあるポタンをクリックしても WiRES-II ソフトウェアを終了することができます。

WiRES-II ソフトウェアを起動する

ディスクトップ上に表示されているアイコン 「VsLAN」または「VsDialUP」をダブルクリックして WiRES-II を起動すると、WiRES Activation ウィンドウが表示されます。セットアップに登録してある場合は、スタート の全てのプログラム やスタートアップ でアイコンを選択して WiRES-II を起動してください。

WiRES-II 取扱説明書 43
WIRES-II ソフトウェアのアンインストール

ウィンドウの開き、アプリケーションの追加と削除アイコンをダブルクリックします。
追加と削除の一覧でウィンドウを選択し、変更をクリックします。

初期化中 Wise Uninstall Wizard... が表示されます。

アンインストール画面が表示され、削除を確認するメッセージが表示されます。
自動アンインストール を選択し、次へ（OK） をクリックします。
アンインストール開始画面が表示され、[アンインストール]をクリックします。

アンインストールが完了しましたと表示されたら、[OK]をクリックします。
FRG のインターネット通信及び便利な機能

FRG とは Friendly Radio Group の略で、「仲の良い友達」というような意味で、パーソナルスタンドードのサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、あらかじめ WiRES 局に割り当てられた ID 番号の前に # と D をつけ（#1D 番号 D）6 桁の DTMF 信号を送ると、インターネットを介して通信することができます。一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であれば DTMF 信号を送らなくても相手局とインターネット通信ができます（Property などの General settings で時間設定可能です。Def. おろ）。

複数の決まった FRG 局を一斉に呼び出して通信したい場合は、FRG の無線局をグループ化して DTMF の中的 B C D のそれぞれのグループにして呼び出すこともできます。

また、従来の V/UHF 帯 FM モードと同様に、CQ 呼び出しをして通信を行うような、いわゆる CQ ルーム（例: #0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局と QSO を楽しむ小規模な Round QSO Room を利用して通信を楽しむこともできます。さらに、Round QSO Room は接続されていれば Room の出入口は自由なため、手軽に Room 利用者と QSO を楽しむことができます。

Node to Node (1 対 1) での交信（個別呼び出し）

HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照）。
Node のトランシーバーの周波数を決めます。
Node 局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
ハンディトランシーバーを Node 局と同じ周波数に設定します。
ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで相手の ID 番号を押します。
例えばパーソナルスタンドード東京営業所に接続した場合は #5109D と押します。WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 5109」と表示されます。
ハンディトランシーバーの PTT を押す。
WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Connected to 5109」と表示され 5109 Node 局に Connect (接続) されます。また、接続後画面右上に接続している局の Node 番号が表示され、さらに View QSL が表示されます。

ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって相手局を呼び出してみてください。あとは、一般の交信と同様に行ないます。
交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで #9999D（切断コマンド）と押します。「ビビービビッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。
FRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

1. FRGのグループ一斉呼び出しによる交信
   2. FRGグループの登録
      「File」→「Property」により「Property Screen」の画面が現れます。
      「Property Screen」の「Group settings」を選択し、特にアクセス頻度
      の高い局をB,C,Dの3つのグループに分けて、呼び出したい
      局のID番号をテストボックスに登録します。
      各グループには、最大10局まで登録することができます。

      例としてグループBに、下記のID番号を登録します。
      ①テストボックス1に5109を入力します。
      ②テストボックス2に5209を入力します。
      ③テストボックス3に5709を入力します。
      ④Group IDをGroup windowのSRG/FRG/Bookmark listに
         表示したい場合には、BをクリックしてBにします。
         OKボタンを押し、入力を確定します。
FRGグループの一斉呼び出し

送信時に、呼び出したいグループのDTMF信号（B B B CまたはD D D）を送出すると、そのグループに登録されている全ての局を一斉に呼び出すことができます。操作は、下記の手順で行なってください。

1. HRI-100の接続を念のためご確認ください（11ページ参照）。
2. Node局の接続データーの接続を検証します。
3. ハンディトランシーバーをNode局と同じ接続データーに設定します。
4. ハンディトランシーバーのPTTを押したまま、DTMFキーでグループのDTMF信号（B B B CまたはD D D）を送出します。
   例えばグループBを一斉呼び出ししたいときは、Bと押します。

5. ハンディトランシーバーのPTTを放します。
6. WiRES-IIのメイン画面右上にあるログリストに「MCU Call-Type
FRG GroupグループとNode数を表示」

通話中（緑色に点灯している）のNode局のコールサイドを表示

「[B] Start」と表示され、グループBに登録されているNode局を
一斉に呼び出し（Connect）します。

呼び出し完了すると「Connected」とログリストに表示し、さら
に画面左上にグループ呼び出しした局のNode番号が表示され
ます。

7. ハンディトランシーバーのPTTを押して、MICに向かって相手
局を呼び出ししてみてください（Glassに8分間の送信可能時
間をカウントダウンします）。
8. あとは、一般的の送信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーのPTTを押したま
ま、DTMFキーで#9999D（切断コマンド）と押します。「ビビビ
ビッ」と音が鳴りDisconnect（切断）され交信は終了しました。
**FRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）**

- **Round QSO Roomでの交信**
- **Round QSO Room接続時に便利な機能**

現在ほとんどのWiRESはFRG方式による交信で楽しんでいます。FRG方式でつまこどもポピュラーな設定例を説明します。

WiRES-IIは、デフォルトの設定でも十分通信を楽しむことができますが、さらに設定を変更することにより、よりいっそう便利な運用を楽しみことができます。

ここで説明するような設定を行なうと、下記の機能が追加されます。

- Round QSO Roomに接続中、別のNode局から接続要求を受けたとき、接続中のRound QSO Roomから切断（disconnect）し、自動的に接続要求を受けたNode局に接続したり、この局とQSOが終了すると、元々接続していたRound QSO Roomに自動的に再接続する機能が追加されます。
- Round QSO RoomにConnect中は、接続時間の制限をなくすことができます。
- #66666や#6666Dまたは#0666Dのコマンドを送ると、接続状況以外にログオン中のNode局数をアナウンスする機能が追加されます。
- Connect RequestやRound QSO IN/OUTなどのアナウンスを送出することができます。
- Log WindowやChat Windowに表示される接続情報やChatメッセージをTXTファイルで保存することができます。

メニューバーにある[File]を押した、メニューから[Property]を選択します。

Property Screenウィンドウが表示されますので、[Call options]を選択します。

- [Call options]の設定画面で の部分に を入れます。

[OK]を押します。

ヒント

「Accept calls while in Round QSO Room」にを入ると、Round QSO Roomへ接続中に、別のNode局から接続要求を受け付けます。

「Back to Round QSO after disconnect」にを入ると、Accept calls while in Round QSO Roomsの設定がONであることが条件で、Round QSO Roomで待機中に別のNode局から接続要求があったため、Round QSO Roomから抜けて、そのNode局と交信し、交信が終了したため接続を切断（Disconnect）すると自動的に元々接続していたRound QSO Roomへ再接続します。
FRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

1. 『General settings』を選択します。
2. 『General settings』設定画面で○の部分に✔を入れます。
3. 「Log-file save」のテキストボックスにファイル名を入力し、...を
   クリックして、保存場所を指定します。
4. OKを押します。

![WiRES-II Property Screen](image)

5. 『Sound settings』を選択します。
6. 『Sound settings』設定画面で○のVOICEに●を入れます。
7. OKを押します。

![WiRES-II Property Screen](image)

なお、設定追加した機能の詳細は次ページに記載されております。

注意

Windows 2000で音声アナウンスを利用するには、Microsoft Speech SDK 5.1を
ダウンロードしてインストールする必要があります。

http://www.microsoft.com/speech/download/sdk51
FRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

設定追加した機能の詳細は下記のようになります。

- **Accept calls while in Round QSO Rooms**
  Round QSO Roomへ接続中に、別のNode局から接続要求を受け取ったら、Round QSO Roomの接続を切断して、接続要求を受けたNode局と自動的に接続します。
  なお、Round QSO Roomに接続中で、どの局も送信していないときにのみ動作します。

- **Back to Round QSO after disconnect**
  別のNode局から接続要求を受け付けて、そのNode局と通信した後、リンクを切断した際に自動的に接続していたRound QSO Roomへ再接続します。

- **Unlimited while in Round QSO Rooms**
  Round QSO Room接続中は接続時間を制限しません。
  （Node局とNode局同士対1での運用は、デフォルトが10分になります。）

- **Announcement（DTMF #66666 command）**
  DTMF コマンドに反映してIDアナウンスを送出します。
  (Connected to といったアナウンスを送出します。)

- **Announcement（Connect request message）**
  Connect Requestを受け取った時のアナウンスを送出します。
  (Connect request from といったアナウンスを送出します。)

- **Announcement（Round QSO IN/OUT）**
  Round QSO RoomのIN/OUT時のアナウンスを送出します。
  （ONに設定すると、 Round IN/OUT といったアナウンスを送出します。）

- **Announcement（Room logon node info）**
  Round QSO Roomへ接続した際にログオン中のNode局数をアナウンスする機能が追加されます。
  (Connected to といったNodes といったアナウンスを送出します。)

- **Log-file save**
  チェックを入れると接続情報を表示するログ画面とチャット内容を保存することができます。テキストボックスでファイル名を入力して右にある  をクリックして保存場所を指定します。
FRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

Round QSO Roomでの交信
CQ呼び出しをして通信を行うような、いわゆるCQルーム（例 #0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局とQSOを楽しむ小規模なRound QSO Roomで交信することができます。下図は例として、複数のNodeが0510 Round QSO Roomに接続し、5209Nodeを利用してA局がCQを出していると仮定したイラストです。

ヒント
Round QSO Roomには複数のNodeが接続することができます。5209Nodeを介してA局がCQを出すと、各ノードにA局の音声が届きます。

手順：
1. Node #666DのDTMFコマンドを送出することにより、接続状況を下記のアナウンスで確認することができます。（例：自局がJQ1YBG）
   - 先ID: 0510 RoomにNodeが5局Connectしている場合
   - Nodeが接続：This is JQ1YBG WiRES. connected to 0510 5 Nodes.
   - Nodeが未接続：This is JQ1YBG WiRES. not connected.
   - Nodeとの交信不可：アナウンスなし

HRI-100の接続を念のためご確認ください（11ページ参照）。
Node局用のトランシーバーの周波数を決めます。
Node局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
ハンディトランシーバーをNode局と同じ周波数に設定します。
ハンディトランシーバーのPTTを押しました、DTMFキーで接続したいRound QSO RoomのID番号を押します。例えばJA CQ Roomに接続したい場合は #0510D と押します。WiRES-IIのメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 0510」と表示されます。

Dialogに「Connected to 0510」と表示されRound QSO RoomにConnect（接続）されます。
また接続と同時に画面左上に現在Round QSO RoomにConnectしている局のNode番号が表示され、さらにView QSLが表示されます。

ハンディトランシーバーのPTTを放します。
ログリストに「Connected to 0510」と表示されRound QSO RoomにConnect（接続）されます。

WiRES-II 取扱説明書
FRG のインターネット通信及び便利な機能（つづき）

Round QSO Room の番号と Room に入っている Node 数を表示

通話中（緑色に点灯している）の Node 局のコールサインを表示

ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって「CQ」をだします（〜分間の送信可能時間をカウントダウン表示します）。相手局が応答してきたら、一般の交信と同様に行ないます。

交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで #9999D（切断コマンド）と押します。「ビビビッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。

ヒント
button は Group window の内容を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合など有効です。

ヒント
#9999D以外の#9999または #09999 でも切断コマンドとして動作します。また、Property Screen の Call options の項目で DTMF を Disconnect 選択し、Single-digit command をチェックを入れると、DTMF の 0 でも切断コマンドとして動作します。
SRG のインターネット通信及び便利な機能

SRG とは Sister Radio Group の略で、「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。最大 10 局（自局を含む）までの相手局を登録することができます（登録方法は下記参照）。SRG のグループでは、お互いに同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときは、1桁の DTMF を押すことで簡単にできます。

通信前準備
一度、WiRES 接続が確立したあと、接続をロックする LOCK モードと通信のたびに接続する UNLOCK モードが設定できます（初期値は UNLOCK モードに設定しています）。

なお LOCK の切り換えは、File → Property の「Property Screen」の画面が現れます。「Property Screen」の「Call options」を選択し、一番上の「SRG call lock/unlock」に '✓' を入れると LOCK モードとして動作します（61 ページ参照）。

ウィンドウウィンドウ

注 意
SRG 個別呼び出し後の操作は、SRG の設定によって LOCK モードまたは UNLOCK モードの違いにより動作が異なります。

ヒント
LOCK モードについて
一度接続が確立されるとそれ以後、あらかじめ設定された時間内の通信は、DTMF を送信する必要はありません。すべての通信がインターネットに接続されます。

UNLOCK モードでは、送信の都度同じ DTMF 信号を送信する必要があります。

LOCK モードについて
61 ページを参照してください。
SRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

SRGグループの登録

File → Property により「Property Screen」の画面が現れます。「Property Screen」の「Group settings」を選択し、グループのID番号を「SRG ID」の0〜9のテキストボックスに登録します。登録する間隔全ての局と同じ設定にしてください。例として下記を参照してください。

- テキストボックス1に9876を入力します。
- テキストボックス2に2468を入力します。
- テキストボックス3に3579を入力します。
- Group ID列をGroup window上に表示したい場合には、空白をクリックして入力します。
- 「OK」ボタンを押し、入力を確定します。
SRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

個別呼び出し
2番に登録した2468番の1D番号の局を呼び出したい場合はトランシーバーのPTTを押しながら2のDTMF信号を送出すると、インターネット経由で接続されます。

例
個別呼び出しで呼ばれると、画面右上に接続先のDTMF番号が表示されます（番号が表示されている例）。

一斉呼び出し
トランシーバーのPTTを押しながらDTMF信号のAを送出すると、SRGに登録されている全ての局を一斉に呼び出すことができます。

一斉呼び出しをされて、応答するとき
UNLOCKモードのとき･･･送信の初めにDTMF信号のAを送出から話します。
LOCKモードのとき･･･DTMF信号を送出せず、そのまま送信して話します。

一斉呼び出しから個別呼び出しに変更する
DTMF信号のAを送出することで、SRGに登録されている全ての無線局に個別応答することができますが、応答するときにDTMF信号の#0000Dまたは#00000を送出することで、最初にアクセスしてきた局に「1対1」で接続することができます。
その後の通信はFRG通信のLOCKモードとなり、それ以後はあらかじめ設定したロック時間の間は接続状態を維持されます。送信時にDTMF信号の送出は不要となり、PTT操作だけで通信を行ることができます。
設定時間内に接続を中止する場合（#99999）の場合は#99999または#9999Dを送出します。

WiRES-II 取扱説明書 56
### SRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

---

#### VX-7のインターネットキーでSRG（UNLOCKモード）を運用する

インターネットキーを利用すると、送信の始めに毎回DTMFキーを押して送出する必要が無く、快適に運用することができます。例としてVX-7を使用したときの運用方法を説明します。

1. VX-7の（）を押しながら電源を入れます（ディスプレイに・' unregister'が表示されます）。
2. を押したままDIALを左右どちらかにまわし、交信したい相手のSRG番号を表示させ（）を離します。
3. PTTスイッチを押して確定します。
4. PTTスイッチを押してSRG番号を自動的にDTMFの信号で送出後、受信状態にします。
5. PTTスイッチを押しながらマイクに向かって話します（PTTスイッチを押すたびにDTMF信号が送出されます）。

---

#### FRG通信とSRG通信を同時に行う

FRG通信で TODAYの状態になっているときにDTMF信号の（）を送出すると、相手局のSRG局を一斉に呼び出すことができます。この場合は送信の初めに、つねにDTMF信号の（）を送出します。

たとえば、サーバID番号（#2400D）からサーバID番号（#3200D）の局をFRG接続で呼び出し、接続後サーバID番号（#2400D）の局からDTMF信号の（）を送出すると、サーバID番号（#3200D）の局に設定されているすべてのSRG局と通信をすることができます。

たとえば、DTMF信号（#2345D）で「IDナンバー」（2345D）の局を呼び出し、接続後にDTMF信号（A）を送出すると、「IDナンバー」（2345D）の局のSRGに接続された無線局を一斉に呼び出すことができます。

---
各種の動作状態や運用状態などを設定する画面です。
WiRES-II メイン画面で表示されている状態で、ツールバーにある「File」をクリッ
クし、その中にある「Property」をクリックするとこの画面が現れます。

インターフェースボックス の HRI-100 と無線機間、 の HRI-100 とコンピュータ間の、
接続条件などを設定するホルダーです。

HRI-100 setup

Volume (ATT)
- HRI-100 SP ATT (音声レベルのアッテネーター) 「Default : 15」
  パソコンの SP 端子から出力される音声を HRI-100 の SP 端子へ入力
  し、HRI-100 内を通って Radio 端子に出る音声信号を自局無線機
  [MiniDin 端子の MIC 入力等] へ送る事で、無線機から音声が送信さ
  れます。
  この流れで無線機で送信される音声信号の音量を HRI-100 内部で
  調整する事が出来ます。
  通常は初期値のままで構いませんが、画面右下にある Volume Control
  [SP LEVEL/WAVE LEVEL] で調整しきれない場合に値を調整してみ
  てください。[音量調整は Attenuator (減衰) 方式ですので、数字を大き
  くすると減衰量が大きく、音量が小さくなります。]

- HRI-100 MIC ATT
  (インターフェースレベルのアッテネーター) 「Default : 15」
  自局無線機で受信された音声を HRI-100 の MIC 端子へ入力し、HRI-
  100 内を通って HRI-100 の MIC 端子に出る音声信号をパソコン
  の MIC 端子もしくは LINE-IN 端子へ入力すると、パソコン上で data
  化され、接続先 Node 端へ data として送られます。
  この流れで無線機で受信した音声信号の音量を HRI-100 内部で調整す
  る事が出来ます。
  通常は初期値のままで構いませんが、画面右下にある Volume Control
  [MIC LEVEL/LINE-IN LEVEL] で調整しきれない場合に、この値
  を調整してみてください。
HRI-100 setup（つづき）

例として、下記の症状が出る場合は調整すると効果があります。
例 LINE-IN 入力端子から信号を入れても音量過大になる場合
例 MIC 入力端子から信号を入れても音量が小さすぎる場合
（音量調整はAttenuator 増衰方式ですので、数字を大きくすると減衰量が大きくになり、音量が小さくなります。）

PTT Ground（送信切替信号の設定）「Default：Active Low」
無線機のPTT 端子の極性 (Active Low または Active High) にあわせて設定します。
無線機とインターネットワークス HRI-100 を接続した後、無線機の電源を ON にしたときに、無線機が送信状態になる場合はこの設定を変更してください。

BUSY Ground（受信切替信号の設定）「Default：Active High」
無線機の BUSY 端子の極性 (Active Low または Active High) にあわせて設定します。
無線機とインターネットワークス HRI-100 を接続した後、無線機の電源を ON にしてスケルチを OFF にして（SQL ツマミを反時計方向にまわしたとき）WiRES画面の「BUSY」がグレーになる場合は、「BUSY」表示が緑色になるように設定を変更してください。

Call cancel（呼び出しキャンセルスイッチ）

受信したDTMF信号を無効にするスイッチです。
WiRES-IIでは、送信の初めにDTMF信号を送出することにより接続先のNodeを指定しますが、このスイッチで無効にすることによりConnect動作を無効にすることが可能です。たとえば、SRGの「一斉呼び出し（DTMF信号のAで行う呼び出し操作）を受け付けたくないときには、Aのスイッチをクリックして、スイッチが押し込まれた状態にします。この状態では、DTMF信号のAを受け信してもConnect动作は行われず、SRGの「一斉呼び出し」は無効になります。同様に、SRG番号09の無線局の個別呼び出しを受け付けたくないときには、9のスイッチをクリックして、スイッチが押し込まれた状態にします。

Call cancel delay time 「Default：100ms」

上記のスイッチで、送信の初めに送られてくるDTMF信号を無効にした場合、次に送られてくるDTMF信号が有効になるまでの時間を設定します。設定できる時間は0（1ms）から1000ms（1秒）までです。通常は、初期値（Default）のままで使用します。

HRI-100 Information  Button
インターネットワークス HRI-100 のメモリーに書き込まれている、
HRI-100 setup オプションの設定内容を確認するボタンです。
このボタンをクリックすると、インターネットワークス HRI-100 のメモリーに書き込まれている現在の状態をプレビューしている部分に表示します。なお、スイッチ表示部は、有効に設定されている場合はスイッチ無効に設定されている場合はスイッチに表示されます。

WiRES-II 取扱説明書 59
HRI-100 setup（つづき）

HRI-100 setup [ホルダーの設定内容を、インターフェースボックス
HRI-100 のメモリーに書き込むボタンです。]

HRI-100 setup [ホルダー内の各項目値を「設定」または「変更」した際
には必ず、このボタンを押して設定値をインターフェースボックス/HRI-
100 のメモリーに書き込んでください。]

書き込みが行われると、グレーアウトした部分に書き込んだ内容が表示
されます。なお、0 [9 A B D x] スイッチ表示部
は、有効に設定されている場合は □ □ □ □ 無効に設定されている場合は
□ □ □ □ が表示されます。
Call options

WIRES-II無線局の呼出方法などを設定するホルダーです。

SRG call lock/unlock（SRGの接続後の状態を選択）「Default：OFF」SRG（Sister Radio Group）に登録された局間での個別通信の式を切り替えます。

ON 通信モードをLOCKモードにする。
OFF 通信モードをUNLOCKモードにする。

LOCKモード
SRG無線局を呼び出すためのDTMF信号は、最初に呼び出すときにのみ必要で、一度接続が確立した後はDTMF信号の送信は必要ありません。LOCKモードでは、インターネット接続がタイムアウトタイマー（TOT）General settings（ホルダーで設定します、67ページ参照）により自動的に切断されるが、切断コマンドである「#9999D」の送信により強制的に接続を切断するまでは、接続先の切り替えが、新たな接続を行うことはできません。

UNLOCKモード
SRG無線局を呼び出すためのDTMF信号を、送信の初めに毎回送信する必要があります。UNLOCKモードでは、通話の最初でも、送信の初めに違う番号のDTMF信号を送信することにより、通信ごとに接続先を簡単に切り替えがでます。例えば、SRG番号3の無線局と交信した直後に、DTMF信号の04を送信すると、瞬時にSRG番号4の無線局と接続をすることが可能です。また、DTMF信号のAを送信することで、一斉呼び出しも可能です。

例 VX-7のインターネットキーでSRG（UNLOCKモード）を運用する
インターネットキーを利用すると、送信の始めに毎回DTMFキーを押して送信する必要がなく、快適に運用することができます。例としてVX-7を使用したときの運用方法を説明します。

① VX-7のDCFを押しながら電源を入れます（ディスプレイにDCFが表示されます）。
② DCFを押したままDIALを左右どちらかにねじって、交信したい相手のSRG番号を表示させDCFを離れます。
③ PTTスイッチを押して確定します。
④ PTTスイッチを押してSRG番号を自動的にDTMFの信号で送出後、受信状態にします。
⑤ PTTスイッチを押しながらマイクに向かって話します（PTTスイッチを押すたびにDTMF信号が出されます）。
Call options（つづき）

Single digit command
（一桁コマンドの使用設定）「Default：ON」
SRG [0-9] によるグループ呼び出し [A-D] の一桁のコマンドを自
局無線機で受信した際の動作をここで設定します。
・チェックボックスにチェックマークを入れるとON設定です。
  ON：1桁コマンドを有効にする。
  OFF：1桁コマンドを無効にする。
なお、OFFにすると、[A-9]での切換えコマンドが使用できなくなるため、
SRG、FRG、RGRの一桁呼び出し [A-D] も使用できなくなります。

FRG transmit（FRGの接続を有効にする）「Default：ON」
FRG（Friendly Radio Group）の個別呼び出しコマンドを自局無線
機で受信した際の動作をここで設定します。
  ON：#0001DのようなFRGによる呼び出しを有効にする。
  OFF：FRGによる呼び出しを無効にする。
FRGの個別呼び出しを [0-9] にすると、WiRESのホームサーバーに登
録されている全てのWiRES無線局の中から1局を選んで呼び出すことができる。
呼び出しは、「#****D」または「#*****」の6桁のDTMF信号で行
います。
詳細な使用方法は、46ページの「FRGの個別呼び出し」の項目をご
覧ください。

FRG group dispatch
（FRGのグループ呼び出しコマンドを有効にする）「Default：ON」
Group settings 内の「FRG ID」ポルダーで登録した、FRGグループの
一斉呼び出しコマンド [0-9] を自局無線機で受信した際の動作をこ
で設定します。
  ON：一斉呼び出しコマンドを有効にする。
  OFF：一斉呼び出しコマンドを無効にする。
設定がONの時には、[B-C-D] のいずれか1つのグループに登録
されている全ての無線局を一斉に呼び出すことができます。なお、グ
ループ番号 ([B-C-D]) はDTMF信号の [B-C-D] に対応しており、送信の初めにDTMF信号の [B-C-D] をキーや送るとグループ
[B-D] に登録されている無線局が一斉に呼び出されます。詳細な使用方法は、47ページの「FRGのグループ呼び出し」の項目をご覧ください。

FRG receive（インターネットサーバーからのFRG呼び出しを受ける）
「Default：ON」
他のWiRES局から、Internet経由でFRG呼び出しを受けた際の動作
をここで設定します。
  ON：他のWiRES局からの自局ID宛の呼び出しを受け付ける。
  OFF：他のWiRES局からの自局ID宛の呼び出しを受け付けない。
ON設定でも、SRG、FRG、RGRに登録されている局からの呼び出しは受
け付けます。
ただし、Reject IDsに登録してある局からの呼び出しに対しては、設定に
関わらず全て拒否されます。
Call options (つづき)

Accept group calls
(インターネットサーバーからの一斉呼び出しを受ける)「Default: ON」
他のWiRES局から、Internet経由で、SRG,FRGグループの一斉呼び出しコマンドIDによる呼び出しを受けた時の動作を設定します。

ON：この呼び出しを受け付ける。
OFF：この呼び出しを受け付けない。

Round QSO Room connection (ON:Permit/OFF:Reject)
( Round QSO Room への接続要求の可否)「Default: ON」
Round QSO Roomへの接続要求を受け取った際の動作を設定します。
ON Permit Round QSO Roomへ接続する。
OFF Reject Round QSO Roomに接続しない。

Accept calls while in Round QSO Rooms
(別のNode局からの接続要求の可否)「Default: OFF」
Round QSO Room接続中に、別の Node局から接続要求を受け取った時の動作を設定します。

ON 口 別のNode局からの接続要求を受け付ける。
Round QSO Roomとの接続を切断してから、Node局と接続する。

OFF 口 別のNode局からの接続要求を受け付けない。
Round QSO Roomとの接続を維持する。
なお、Round QSO Roomチェックイン時、どの局も送信していないときにのみ動作します。

Back to Round QSO after disconnect 「Default: OFF」
Accept calls while in Round QSO Rooms設定がONで、別のNode局から接続要求を受け付けて、そのNode局と接続後、接続を切断 Disconnectした後も動作を設定することができます。

ON もともと接続されていたRound QSO Roomへ再接続します。
OFF Round QSO Roomへの再接続は行いません。

Return to resident Round QSO Room
(指定したRound QSO Roomへ自動接続する)「Default: OFF」
指定したRound QSO Roomsへ自動接続させる為の機能です。

ON 口 指定したRound QSO Roomへ自動接続する機能を動作させます。

OFF 口 指定したRound QSO Roomへ自動接続する機能を動作させません。
パソコンの画面内でチェックボックスを操作する以外に、DTMFの#55555または#55555コマンドでも状態を変更する事ができます。
DTMFの#55555コマンドにより、状態をOFFからONに変更した場合、Resident Room ID & Timerの各設定も全てEnable IDN状態になります。

注意
Return to resident Round QSO Room機能を持っている場合、条件により設定が無効になります。詳細は、Resident Round QSO Room接続の条件についてhelpを参照してください。

ヒント
Resident Room ID & Timerで指定された時間内に、指定されたRound QSO Roomに接続すると自動接続状態となります。Connectコマンドによる手動接続時でも、指定時間内であれば自動接続状態となります。
逆に、それ以外の接続は全て通常接続となります。
Resident Room ID & Timer
（自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続時間帯を最大 3カ所まで設定可能）

「Default : OFF」

自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続させておく時間帯 Timer を最大 3カ所まで設定する事が出来ます。Enable チェックボックスへリ点を入れると設定した Round QSO Room へ希望の時間に自動接続することができます。

ON 指定した時間帯に設定した Round QSO Room へ自動接続を行います。
OFF 自動接続は行われません。
自動接続が出来なかった場合、Return to room No.$ [XXXX] count over. が表示されます。
再度自動接続させたい場合、パソコンの設定画面上でチェックを入せるか、DTMF の #5555D #55555 または #05555 コマンドを使い、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

ID
自動接続したい Round QSO Room の ID 番号を指定します。
最大 3カ所設定でき、同じ時間帯で複数の接続先を指定する事も可能です。

Timer StartTime EndTime
自動接続される時間帯を 5 分単位で指定します。
最大 3カ所設定でき、同じ接続先で複数の時間帯を指定する事も可能です。
24 時間、常に自動接続させたい場合には、00:00 - 24:00 を指定します。

Resident TOT（通話中監視時間の設定）

parameter=0~300 Default : 0 sec
Resident Room ID & Timer で設定した Round QSO Room へ接続すると、Disconnect 操作 DTMF コマンド等や通信路トラブル等が無ければ、Timer の指定時間内は接続を維持します。

Timer の指定時間が過ぎたら、まず、INTERNET 点灯状態にならないか監視し、監視時間内に INTERNET 点灯状態にならなければ自動接続を解除 Disconnect します。この監視時間を設定することができるです。
もし、監視時間内に INTERNET 点灯状態になった場合は、通話中であると判断し、自動接続を解除せず、接続状態を維持します。（Resident TOT 0 sec の場合は除く）
INTERNET 点灯状態から、LOCAL 消灯に戻った所で、再度監視を行います。
Call options（つづき）

Return time（自動接続を実行するまでの待機時間の設定）
「parameter=10~3600 Default:30 sec」
Return to resident Round QSO Room の設定が ON の時、IDLE 状態になってから、自動接続を実行するまでの待機時間をここで設定します。
長い時間を設定する際には、下記数値を参考にしてください。
10分 100分 300秒
5分 50分 300秒
2分 20分 60秒
1分 10分 60秒

Return counter（自動接続の実行回数設定）
「parameter=1~30 Default:10」
Return to resident Round QSO Room の設定が ON の時の自動接続実行回数をここで設定します。
指定した回数の自動接続を実行しても、接続が出来なかった場合、Return to room No.S [XXXX] count over がログ上に出ています。自動的に Residents Room ID & Timer 内の該当する接続設定のチェックを外します。OFF 状態に移行します。
OFF 状態になった自動接続設定を再度機能させたい場合、パソコンの設定画面でチェックを入れると、DTMF の #5555D #5555 または #05555 ロマンドを使い、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

DTMF #55555[Return Room cancel Command
（Round QSO Room の自動接続を ON/OFF する設定）
「Default:ON」
DTMF の #5555D #5555 または #05555 ロマンドの動作を ON/OFF します。
Return to resident Round QSO Room を停止 に移動させる為の DTMF コマンドの動作を下記の通り設定します。
ON または OFF コマンドを有効にする。受付けない
OFF または ON コマンドを無効にする。受付けない

DTMF（DTMF のキーの動作を選択）「Default:Disconnect」
DTMF のキーの動作を選択します。初期値は #9999D 和 #99999 と同じ切断要求 Disconnect として動作します。
Response を選択すると、SRG で呼び出しをしたとき、*を前置して応答します。また、SRG グループ呼び出しを受けた場合、*を前置して応答すると呼び出しをした ID の局へ応答し、その後は LOCK になり通常の交信を行うことができます。

Note
Return timeで短い時間を設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信する事となり、あまり好ましくありません。Return counter の設定とあわせ、他局に迷惑がかかる程度の適切な値を指定するようにしましょう。

ヒント
3つの設定箇所の内、接続先が【箇所だけ Enable:ON の状態だった場合は、#5555D または #05555 ロマンドを使いOFF に設定し、再度 #5555D で ON に設定すると、3つの設定が全て ON の状態になります。

OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

WiRES-II 取扱説明書 65
### General settings

**WIRES-IIの接続条件等を設定するホルダーです。**

![WIRES-II Property Screen](attachment:image)

**COM Port No.** (COM ポートの設定) 「parameter=1~256 Default: 1」

インターフェースボックス HRI-100 を接続したパソコンの「COM Port」番号を選択します。

**注意**

押した時に、COM Port 番号の右側に「Invalid COM port.」と表示される場合には、設定が正しくない可能性があります。また、WIRES ソフトウェア WiRES-II.exe 起動直後や、COM Port の設定を変更した際に、「COM: # # # Invalid Port No or Port was already open # # #」は COM Port の番号#というメッセージがログ画面に表示される場合があります。このメッセージが表示される場合でも、COM Port の設定が正しくない可能性があります。これらのエラーが出る場合には、OS のデバイスマネージャー画面から、COM Port 番号を調べ、正しく設定する様にしてください。

WiRES ソフトウェア WiRES-II.exe のメイン画面右上にある、「HRI-100」の表示が赤色に点灯する場合には、パソコンと HRI-100 の間で通信が出来ていません。

この場合には、COM Port 番号の他に、HRI-100 の電源、パソコンと HRI-100 との接続なども確認してください。

**SRG delay time**

(UNLOCK モード時による Connect 状態の保持時間の設定) 「parameter=10~300 Default: 30sec 30秒」

SRG 通信で通話モードが UNLOCK モードのとき、無線機からの「送信コマンド」がなくても、設定した時間だけ Connect 状態を保持します。この時間内に送信を再開すると、DTMF 信号がなくてもそのままつながっていた相手局と Connect 状態を保持し続けます。設定できる時間は 10 秒から 300 秒までです。
General settings（つづき）

TX ON delay time（頭切れ防止時間の設定）
「parameter=0~3000 Default: 0ms 0秒以下の無線機を送信状態にした後、インターネットから受け取った音声やアナウンス、IDなどを出力し始めるまでの遅延時間を設定します　頭切れ防止が会話やアナウンス、IDなどの最初が頭切れするような場合には、設定時間を長くします。設定できる時間は 0ms （0秒）から 3000ms （3秒）までです。

TX OFF delay time（切断時間の設定）
「parameter=100~3000 Default: 500ms 0.5秒以下の無線機の PTT が OFF に設定になった後の「送信ディレイ時間」を設定します。インターネット経由の「送信コマンド」がなくなっていて、設定した時間だけ自局の無線機は送信状態を保持します。会話の最後が途切れるような場合は、設定時間を長くします。設定できる時間は 100ms （0.1秒）から 3000ms （3秒）までです。

TOT（Time Out Timer）（FRG/SRG ロック時間の設定）
「parameter=5~60 Default: 10min 10分以下の FRG 通信や Round QSO Room での NET 接続状態を終了する時間を設定します。また、SRG 通信でも、通話モードが LOCK モード のとき、連続して通話できる時間も設定します。設定した時間が過ぎると、自動的に disconnect 切断されます。設定できる時間は 5 分～60 分までです。通話モードの選択は Call Options ホルダーで行います（65ページ参照）。

Unlimited while in Round QSO Rooms（Round QSO チェックイン時の時間制限解除）
「Default: OFF (Limited)」
Round QSO Room へ接続時の TOT Time Out Timer の時間制限機能の動作を設定します。
ON Unlimited Round QSO Room 接続中は接続時間を制限しません。
OFF Limited Round QSO Room 接続中でも接続時間を制限します。

Voice memory（ボイスメモリー機能を使わない）「Default: ON」
コンピューター内のボイスメモリーの動作を ON/OFF するスイッチです。ボイスメモリーの動作 ON にすると、チェックボックスにチェックマークを入れると、無線局がローカル動作しているときにインターネットを介して他の無線局から呼び出しを受けると、一時的に内容を録音し、ローカル動作が終了した時点で録音した内容を再生します。通常はこの状態（ボイスメモリー ON）で使用します。

注意
HRI-100 にも TOT 機能と同様なハードウェアタイマー機能が内蔵しており、無線機の連続送信が 3 分以上続くと自動的に PTT を OFF にして受信状態に戻ります。連続送信が 3 分以上ならならないようにご注意ください。

環境設定

注意
TOT 機能は、Unlimited while in Round QSO Rooms の設定が OFF Limited 設定になっている場合のみ有効です。
TOT機能やUnlimited while in Round QSO Rooms機能は Return to resident Round QSO Room機能を使用すると、条件により設定が無効になります。詳細は。Resident Round QSO Room 接続の条件について help を参照してください。
General settings (つづき)

PTT-protocol ON: RTP OFF: UDP
(UDP/RTPコントロール)「Default: OFF (UDP)」
PTT コマンドのプロトコルを切り替えるスイッチです。
OFF(UDP): 处理負荷の軽い UDP: User Datagram Protocol で動作
ON(RTP): 送受信切替のタイミングを優先的に処理する RPT: Realtime Transport Protocol で動作。

通常は、チェックボックスにチェックマークが入っていない UDP で使用しますが、PTT コマンドが遅い場合には、RTP に切り替えます。なお、RTP に切り替えると、まれに音声が途切れる場合がありますので、その場合は、UDP に戻してください。

Announcement (DTMF #66666 command)
(ID アンウンス送出設定) 「Default: ON」
DTMF の #66666 コマンドの動作を ON/OFF します。
ON に設定すると、DTMF コマンドに反応して ID アンウンスを送出します。

Announcement (Connect request message)
(コネクトリクエストのメッセージを出力) 「Default: OFF」
Connect Request を受け取った時のアンウンス送出を ON/OFF します。
ON に設定すると、Connect request from といったアンウンスを送出します。

Announcement (Round QSO IN/OUT)
(Round QSO Room 利用時にチェックインアウトの ID アンウンスを出力)
「Default: OFF」
Round QSO Room の IN/OUT 時のアンウンス送出を ON/OFF します。
ON に設定すると、IN/OUT といったアンウンスを送出します。

Announcement (Room logon node info) 「default = off」
Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 個数をアンウンスする機能が追加されます。
この設定は、NET 接続時の Sound settings で Voice 指定時に #66666 コマンド実行時及び、ID settings で Voice ID 指定時のアンウンス内容にそれぞれ影響します。

OFF は Round QSO Room と Node の接続によるアンウンスの差はありません。
例: This is J1YBG Wires. Connected to 0510.
ON は接続した Round QSO Room にログオン中の Node 個数をアンウンスに追加します。
例: This is J1YBG Wires. Connected to 0510. 3 Nodes.

#66666 コマンドを一度送出すると、20 秒間は再送出できません。再度送出するときは 20 秒経過してから送出してください。

ヒント
Announcement 機能は、Microsoft Speech やインストールされている時のみ動作します。なお、このアンウンス音声の音量は、Sound settings の Voice の Volume 調整バーにて行います。
General settings (つづき)

Announcement (Freq info) 「default = off」
アナウンスに周波数情報を追加する機能です。
（この設定は、NET 接続時 Sound settings で Voice 指定時 #66666 コマンド実行時及び、ID settings で Voice ID 指定時のアナウンス内容にそれぞれ影響します。）
OFF 周波数情報をアナウンス内容に付加しません。
例 ［This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx.］
ON 周波数情報をアナウンス内容に付加します。
例 ［This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. 438.02MHz.］

Announcement (Tone info) 「default = off」
アナウンスにトーン コードスケルチ情報を追加する機能です。
（この設定は、NET 接続時 Sound settings で Voice 指定時 #66666 コマンド実行時及び、ID settings で Voice ID 指定時のアナウンス内容にそれぞれ影響します。）
OFF TONE情報をアナウンス内容に付加しません。
例 ［This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx.］
ON TONE情報をアナウンス内容に付加します。
例 ［This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. 88.5Hz.］

Log-file save（ログ画面とチャット内容を保存）「Default：OFF」
チェックを入れると接続情報を表示するログ画面とチャット内容を保存することができます。テキストボックスでファイル名を入力して右にある「」をクリックして保存場所を指定します。

OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。
Sound settings

Connect時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメータ[CW pitch とか Voice の音量など]はID settingsの選択音声にも影響します。

Test（音または音声の出力確認）
設定したWAV, CW, VOICEの内容を音声出力して確認することができま
す。無線機から送信される音声を確認したい時に使用します。なお、Test ボタンによる再生は、IDLE 状態時のみ動作します。別の WiRES 局と接続中には動作いたしません。

OFF（接続時の音または音声の送信禁止）「Default: OFF」
接続時の CW ID の音または WAV, VOICE の音声を送信しないようにできます。ただし、切断時の音、接続コマンドが受け付けられなかった時のエラー音は接続先 Node が、通話中もしくはインターネット接続していない状態の時などは消すことはできません。

WAVE FILE（インターネット接続確認音）
WiRESでは、NodeやRound QSO Roomとの接続が確立したことを音で
確認することができます。この項目は、そのときに送出する、「接続
確認音」を選択します。
「接続確認音」は自局の無線機にのみ送出され、接続先の無線局には送出されません。
「接続確認音」は、パソコンに登録されている WAV ファイルであれば、どのような音（例えば自局のコールサイン）でも使用できます。
右端のボタン（）を押すとfile 選択画面が開きますので、希望の WAV ファイルが登録しているディレクトリを選択します。

WiRES-II 取扱説明書 70
Sound settings（つづき）

CW（接続時にモールス符号で送信）

CW（モールス符号）により接続時に送信することができます。
自分が接続した場合、または相手が接続した場合は【TEXT】に入力したテキストをCWで送信します。初期設定：OFF

Text：送信する文字を入力します。下記の文字を全て半角に戻すと
対応します（全角で入力すると正常な符号が出ません）
記号：……ponsors} 〇 〇)</p>
数字：ＡＢＣ

Rate：CWのスピードを可変できます。
（切断音などのスピードも変わります）

Volume：CWの送信音量を調整します。

Pitch：CW音のトーンピッチを可変することができます。切断音などのトーンピッチも変わります。

VOICE（接続時に音声で送信）

接続時に音声によるアナウンスを送信します。
自分が接続操作をした場合
This is 登録しているコールサイン WiRES. Connected to 相手のID
相手が接続した場合
This is 登録しているコールサイン WiRES. Connect from 相手のID

Voice：音声の種類を選択します

Rate：音声のスピードを可変できます

Volume：音声の音量を可変できます

Format：音のピットレートを確認できます

☆ 注意 ☆

CWのRate, Volume, Pitch
の設定値は、1D settings内のCW IDの出力にも影響します。
CWの送信は第3級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

☆ 注意 ☆

Voice, Rate, Volume, Formatの各設定値は、1D settings内のVOICE IDの出力にも影響します。
VoiceはMicrosoft Speechがインストールされている場合のみ有効です。
Windows XP/Vista/7は、OS標準の音声合成機能にて対応可能です。
Windows 2000では音声アラームを利用するには、Microsoft Speech SDK 5.1をダウンロードしてインストールする必要があります。

OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。
ID settings

定期的にIDを送出する機能に関しての設定を行います。

![ID settings screen]

**Test** ボタン（音または音声の出力確認）
設定したWAVE ID、CW ID、VOICE IDの内容を音声出力して確認することができます。無線機から送信される音声を確認したい時に使用します。なお、Testボタンによる再生は、IDLE状態時ののみ動作します。別のWiRES局と接続中には動作いたしません。

**OFF**（ID送出の送信禁止）「Default: OFF」
定期的にIDを送出する機能を動作させない時に選択します。

**WAVE ID**（Wave FileでのID送出供給）
定期的に送出するIDをWave Fileで供給する場合に選択します。ここで使う音声データは、パソコンに登録されているWAVファイルであれば、どのような音（例えば自局のコールサイン）でも使用できます。
右端のボタン（）を押すとfile選択画面が開きますので、希望のWAVファイルが登録してあるディレクトリを選び、選択します。

**CW ID**（CWでのID送出供給）
定期的に送出するIDをCWで送出する場合に選択します。

**TEXT**：送信する文字を入力します。下記の文字が全て半角のみ対応します。全角で入力すると正常な符号が出ません。
記号：。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・•

なお、Rate,Volume,Pitchの各パラメータは、Sound settingsのCW設定に準じます。必要であれば、Sound settingsのCW設定を変更してください。

**注意**
この機能を使用する際には、Nodeを運用する周波数において、他局に混信を与えない様に、細心の注意を払って運用を行って下さい。
Voice ID (VOICEでのID送出供給)
定期的に送出するIDをアナウンスします.
なお、Voice, Rate, Volume, Formatの各パラメータは、Sound settingsのVoice設定に準じます必要であれば、Sound settingsのVolume設定を变更してください。
出力される内容はIDコマンド（DTMFの #66666）と同じものが出来されます。

- 自局がJQ1YBGの時の例 -
不接続時 □ This is JQ1YBG WiRES. Not connected. □
接続時の例 (Node to Node) □
□ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 5109. □
接続時の例 (RoomにNodeが3局Connectしている場合） □
□ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510 3 Nodes. □

Identifier settings (つづき)

注意
VoiceはMicrosoft Speechがインストールされている場合のみ有効です。Windows XP/Vista/7では、OS標準の音声合成機能にて運用可能です。
Windows 2000では音声アナウンスを利用するには、Microsoft Speech SDK 5.1をダウンロードしてインストールする必要があります。

ID timing (ID送出間隔の設定)
「parameter=5~60 [Default : 10 min]」
ID送出間隔を5分毎に60分まで1分単位で設定します。

ID timing reset every 0 minutes
（ID送出PC時計連動機能）「Default : OFF」
IDの送信タイミングをパソコン内蔵時計と連動させる機能について設定します。
OFF □ 時計と連動しない。
ON □ 時計と連動させる。
OFF設定では、設定完了直後もしくは、WiRES software/WiRES-II.exe起動直後にタイマーをリセットし、その時刻からInterval timeが経過する時刻毎にIDを送信します。
ON設定では、毎時00分00秒から数えて、Interval timeが経過する時刻毎にIDを送信します。

ID timing (自局の送信音声に重ねてIDを送信）「Default ：MIX」
IDを送信する時刻に自局が送信中だった場合のID送信動作について、下記のどちらかに設定します。
OFF (Wait）自局の送信が終了するまで待ってからIDを送信する。
ON (Mix）送信時刻になったら、自局の送信音声に重ねてIDを送信する。
なお、信号受信中等の理由により、無線機のSQLが開いた状態になりLOCAL緑点灯状態時は送信できない場合には、この設定に関わらず、SQLが開じて送信できる状態になるまでID送信を待ちます。

環境設定編

WiRES-II 取扱説明書 73
ID TX mode (ID の送出設定) 「Default : Always」
ID を送信するタイミングが来た時の、他の WiRES 局との接続状態による ID 送信機能の動作について設定します。
Always 接続中に関わらず ID を送信する。
Only connected 接続中 [NET 点灯時] のみ ID を送信する。
[未接続] DLE 表示 時には ID 送信機能を停止します。
Only Not connected 未接続 DLE 表示 状態時のみ ID を送信する。
[接続中] NET 点灯時 には ID 送信機能を停止します。

OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

ID settings（つづき）
Group settings

SRG (Sister Radio Group)や FRG (Friendly Radio Group) の ID list の設定と、Group Window にさらに表示したい局の list (Bookmark ID list) の設定等をおこないます。

なお、Group settings で指定した内容を Group window 上に表示する為には、Group window 設定を SRG/FRG/Bookmark list にしておく必要があります。

SRG ID (SRG 登録画面)

SRG (Sister Radio Group) の登録を行うホルダーです。最大 10 個 (自局を含む) まで登録することができます。

リストボックスに、登録したい WiRES-II 無線局の「サーバーID番号」を入力します。
例として、リストボックス 1 に「サーバーID番号 5109」、リストボックス 2 に「サーバーID番号 5209」、リストボックス 3 に「サーバーID番号 5309」を入力する場合は、

リストボックス 1 に 5109 を入力します。
リストボックス 2 に 5209 を入力します。
リストボックス 3 に 5309 を入力します。

ボタンを押し、入力を確定します。

同様に SRG を運用する仲間のリストボックスにも同じ番号を入力します。

SRG は「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。最大 10 個 (自局を含む) までの相手局を登録することができます。SRG のグループ内では、お互い同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときには、1 柄の DTMF を押すことで簡単にできます。一度インターネット接続が確立したあと、接続をロックする LOCK モードと通信のたびに接続をリセットする UNLOCK モードが設定できます。
Group settings (つづき)

なお、リストボックスの番号がSRG個別呼び出し時の「アクセス番号」になります。
例えば、リストボックス1に登録した無線局を呼び出すときは、送信時に、トランシーバーからDTMF信号の1を送出することで呼び出すことができます。また、送信時に、トランシーバーからDTMF信号のAを送出することで、SRGに登録されている全ての無線局を一斉に呼び出すことができます。

Ａ Button
SRGの各Listに指定した局をGroup window上に表示するかどうかを設定します。ボタンが押されると、緑色反転表示Aになります。この状態にすると、そのGroupID局がGroup window上に表示されます。
ボタンが押されていないとGroup window上には表示しません。

FRG ID (FRGのグループ登録画面)
FRGグループの中で、アクセス頻度の高い無線局をB C D の3つのグループに分けて登録することができます。各グループには最大10局の無線局を登録することができます。
リストボックスに、サーバーに登録されている無線局の「サーバーID番号」を入力します。
たとえばグループBに「サーバーID番号5209」、「サーバーID番号5309」、「サーバーID番号5609」の無線局を登録する場合は、

button B列のリストボックス1に5209を入力します。
button B列のリストボックス2に5309を入力します。
button B列のリストボックス3に5609を入力します。

Button押すと、人力を確定します。

なお、サーバーに登録されている無線局の「サーバーID番号」は、（株）バーチャルスタンダードのホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）で公開していますので、そちらを参照してください。

Call Options ホンダーのFRG group dispach機能を有効に設定すれば、送信の初めに各グループに対応するDTMF信号（B C D）を送出することで、そのグループに登録されている無線局を一斉に呼び出すことができます。

「FRG group dispach」の設定は62ページの項目をご覧ください。
また、FRGグループの一斉呼び出しの運用は47ページをご覧ください。

ヒント
FRGとはFriendly Radio Groupの略で、「仲の良い友達」というような意味で、バーチャルスタンダードのサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、送信時に6桁のDTMF信号を送ることが必要です。一度、インターネット接続が確立すれば、あらかじめ設定画面で設定した時間内で相手局とのインターネット接続がロック状態となり続けるまで、一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であればDTMF信号を送らなくても相手局とインターネット通信できます。

複数のFRG局と通信をする場合は、FRGの無線局グループ化してDTMFのB C D のそれぞれのグループに入ることができます。たとえば、トランシーバーのDTMF=Bを押すと、あらかじめB列のリストボックスに登録してあるBグループを一斉に呼び出すことができます。
Group settings（つづき）

Book mark ID [Book mark ID の登録画面]
Group window 上に追加表示したい WIRES 値の番号や条件を入力します。
ID 番号の条件は下記のように指定できます。
・個別 指定 □ 5109 □ 5109 を Group window 上に表示
・複数 指定 □ 5209,5309,5609 □ 5209 5309 5609 を Group window 上に表示
・範囲 指定 □ 6800 6999 □ 6800〜6999までの局を Group window 上に表示
・個々 指定 □ □ 1070 □ □ 1000 1010 □ □ 1080 1090 を Group window 上に表示

OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。
Rejected IDs

接続拒否したいWiRES局のID番号もしくはその条件をList上に入力します。

自分で開設したRound QSO Roomへの接続拒否は、Round QSO Room reject ID機能を使用してください。
（93ページ参照）

番号の条件は下記のように指定できます。

・個別 指定 □□ 5109 □□ 5109との接続を拒否する。
・複数 指定 □□ 5209, 5309, 5609 □□ 5209 5309 5609との接続を拒否する。
・範囲 指定 □□ 6800〜6999 □□ 6800〜6999までの局との接続を拒否する。
・□□ □□ □□ 1070 □□ 1000 1010 □□ 1080 1090との接続を拒否する。

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。
Audio settings の設定

Audio制御用の Sound driver に関する設定を行います。
設定変更時には、WiRES software (WiRES-II.exe) を再起動する必要があります。

Windows Vista/7 の環境では、Audio settings 内の設定内容を確定させる前に、OS のサウンド設定画面を DS sound property ボタンから呼び出す画面を閉じる必要があります。
・OS のサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。

Audio setting

Voice In Select (Node 無線機からの音声入力端子の設定)
無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。
さらに、MIC LEVEL/LINE-IN LEVEL のレベル調整バーで制御する端子も同様に切り替えます。

Other (default = off)
サウンドデバイスの制御方法を設定します。
音源設定及び音量調整は 81 ページ参照してください。

Other = ON の時は、
OS のサウンド機能にて入出力端子選択及び音量調整を行います。
この設定の時には、DSP LEVEL / WAVE LEVEL 及び、MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL のレベル調整バーによる制御を一切行いません。
OS のサウンド機能にて各種設定を行ってください。

Other = OFF (default) の時は、
WiRES software (WiRES-II.exe) の機能で入出力端子選択及び音量調整を行います。
この設定の時には、Voice in select 機能と Sound device 機能の設定で、入出力端子を選択し、WiRES software (WiRES-II.exe) の Volume control 機能にて音量を調整します。
この設定の時には、入力端子を下記から選択します。

MIC を選択する
MIC 端子からの音声入力を選びます。
LINE-IN を選択する
LINE-IN 端子からの音声入力を選びます。

ヒント
複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、HRI-100 と接続されているサウンドデバイスが正しく選択される様に、Sound device の設定も確認してください。
Audio setting（つづき）

Sound Device（パソコン上のサウンドデバイスの設定）
HRI-100 と接続する、パソコン上のサウンドデバイスを選択します。複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、適切に設定を行う必要があります。

Mixer
WiRES software (WiRES-II.exe) から、音量を制御したいサウンドデバイス（HRI-100 と接続されるサウンドデバイス）を選択します。

IN（入力デバイス設定）
無線機からの音声信号を入力する録音端子（MIC 端子や LINE-IN 端子）があるサウンドデバイスを選択します。
この設定は、Voice in select 機能の影響を受けます。
先に Voice in select 機能にて、MIC 端子か、LINE-IN 端子を選択してからこの設定を行います。

OUT（出力デバイス設定）
無線機へ音声信号を出力したい再生端子（SP 端子）があるサウンドデバイスを選択します。

Sound （default = Auto）
音声の入力端子及び出力端子を選択します。
HRI-100 と接続されるサウンドデバイスを選択します。
通常は、Auto のままで構いません。
Mixer 設定に従い動作します。

OS sound property button
このボタンを押すと、OS のサウンド設定画面を呼び出します。
Voice in select 機能の Other 設定が ON の場合など、このボタンから OS の設定画面を呼び出して各種設定を行うことができます。

OK button
OK ボタンを押すと、変更した設定内容が反映されます。

Cancel button
キャンセルボタンを押すと変更した設定は反映されません。

Help button
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

注意
Voice in select 機能の Other 設定が ON の場合には、Sound device 機能は設定できません。
Mixer 部に、「System default」と表示されます。
この場合には、Mixerのサウンド機能にて各種設定を行って下さい。

注意
Sound 設定はごくまれに、Mixer 設定が正しく行われていないとき、音声入力もしくは出力が正常に行えない場合があります。
Auto の設定で、正常に音声入力もしくは出力ができない場合、この設定を変更する事で正常に動作する場合があります。

注意
Windows Vista/7 の環境では、Audio settings 内の設定内容を確定させる前に、OS のサウンド設定画面を閉じてください。
OS のサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。

注意
設定変更時には、WiRES software (WiRES-II.exe) を一旦終了したのち、再起動してください。
VsLAN や VsDialup を使用していれば、自動的に再起動が行われます。
Audio setting（つづき）

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき（Other による設定 WindowsXP 編）
Voice In Select の MIC/LINE-IN を使用せずに Other にチェックを入れた場合には、WiRES-II 側からのサウンド制御をせず、直接 OS のサウンド機能を使用して入出力端子選択及び音量調整を行います。この設定にした場合は、WiRES-II の SP LEVEL [WAVE LEVEL 及び, MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL のレベル調整パーソナリフィー] による制御を一切行いません。OS のサウンド機能にて各種設定を行ってください。OS のサウンド機能はパーソナル設定によって設定方法が変わります。例として WindowsXP, WindowsVista の環境で音源設定と音量調節を行う方法を説明します。

音源設定は下記の手順で行います。

・ Audio settings 画面の OS sound property をクリックします（第 1 図参照）。
  OS のサウンド画面を開きます（第 1 図参照）。
・ 「オーディオ」タブを選択します。
・ 「音の再生」と「録音」の「既定のデバイス」を選択して OK をクリックしてサウンド画面を開います（第 1 図参照）。
・ Audio settings 画面の Voice In Select の Other をレシピを入れると Sound Device がグレースケールになり、OK をクリックします（第 1 図参照）。
・ WiRES-II Message 画面が開き OK を押します（第 1 図参照）。
WiRES software WiRES-II.exe の再起動が行なわれます。

ヒント VsLAN もしくは VsDialUP が動作していない場合は、WiRES-II.exe を終了した後、手動で再起動してください。

・ 次に音量調整を行います。
  よページを参照してください。
WiRES-IIソフト側からサウンド制御をしたくなったとき

(Otherによる音量調整 WindowsXP編)

音量調整は下記の手順で行います。

1. タスクバーの通知領域にあるスピーカーのアイコンを右クリックして、「ポリュームコントロールを開く」をクリックします（第図参照）。
2. OSの「マスタ音量」画面が開きます（第図参照）。

調整方法は右記のように行います。

・OSマスターポリュームを真中に設定します。
・WAVEポリュームで音が歪まない適切な音量に調整します。

状況によってはOSマスターポリュームで音量を微調整します。

MIC側音量調整

1. 「マスタ音量」画面のオプションをクリックすると、「プロパティ」画面が開きます（第図参照）。
2. 「プロパティ」画面の「録音」ボタンをクリックし、○をクリックします（第図参照）。
3. 「録音コントロール」画面が開きます（第図参照）。
4. マイクまたはライン入力を選択します。

マイクのレベルはこのバーにより調整します（第図参照）。

WiRES-II 取扱説明書 82
WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき（Other による設定 Windows Vista 編）

Windows Vista の音源設定は下記の手順で行います。

Audio settings 画面の OS sound property をクリックします（第 1 図参照）。
OS のサウンド画面が開きます。

再生デバイスを選択して OS sound device の再生デバイスを選択します（第 2 図参照）。

OS sound device の再生デバイスを選択して Voice In Select の再生デバイスを選択します（第 3 図参照）。

Audio settings 画面の Voice In Select 的 Other を選択すると、Sound Device がグレースケールになり、OK をクリックします（第 4 図参照）。

WiRES-II Message 画面が開き OK をクリックします（第 5 図参照）。
WiRES software の再起動が行なわれます。

VsLAN もしくは VsDialUP が動作していない場合は、WiRES-II.exe を終了した後、手動で再起動してください。

次に音量調整を行います。

ページを参照してください。

注意 
手順 の OK をクリックせずに、サウンド画面を開いた状態で手順 へ進もうとすると下図のエラーメッセージ画面が表示されます。必ずサウンド画面を閉じてから手順 へ進んでください。
Audio setting (つづき)

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき
(Other による音量調整 Windows Vista 編)

音量調整は下記の手順で行います。
再生側音量調整

- タスクバーの通知領域にある を右クリックして、「音量ミキサを開く」をクリックします（第 1 図参照）。
- OS の「音量ミキサ」画面が開きます（第 2 図参照）。

調整方法は右記のように行います。
- WiRES 専用ボリュームを真中に設定します。
- OS マスターボリュームで音が歪まない適切な音量に調整します。

状況に応じて WiRES 専用ボリュームで音量を微調整します。

MIC 側音量調整

- タスクバーの通知領域にある を右クリックして、「録音デバイス」をクリックします（第 3 図参照）。
- OS の「サウンド」画面が開きます（第 4 図参照）。
- 「録音」の選択されている既定のデバイスをクリックして、 をクリックします。
- 「マイクのプロパティ」画面が開きます（第 5 図参照）。
- 「レベル」タブを選択しマイクレベルバーを表示させます。

マイクのレベルはこのバーにより調整します（第 6 図参照）。

MIC 側の音量調整します
Personal setting

Serial No.
初期設定時（WiRES Activation 入力時）に登録したHRI-100のシリアル番号が表示されます。

Call sign
サーバーに登録されているコールサインが自動的に表示されます。

ID No.
初めて起動した時に入力した自分のID番号が表示されます。

City, State, Country
最初にサーバーへの登録が完了すると、サーバーに登録されている都市名にCity・State・国名・Countryが自動的に表示されます。

ICON Select
IDリストに表示するアイコンを変更できます。
0～3の中からお好みのアイコンを指定することができます。
0: 🐚 OM (交信しているときは、جزيرةに変わります)
1: 🐬 YL (交信しているときは、جزيرةに変わります)
2: 🐕 DOG (交信しているときは、جزيرةに変わります)
3: 🐱 CAT (交信しているときは、جزيرةに変わります)

注意
Ver.3.100以降をご使用の際のみ指定したアイコンが表示されます。
Personal settings (つづき)

Freq
WiRES-II による運用を行っている運用周波数情報を入力します。
入力した情報はIDリスト上に表示されます。

SQL Type
WiRES-II による運用で使用している無線機に設けるトーンコードスケルチの情報を入力します。
入力した情報はIDリスト上に表示されます。
トーンコードの種類は、ToneSQL、DCS、NoToneから選択し、ToneSQLの場合にはTone周波数、DCSの場合にはDCSコードを選択します。

G.Loc
WiRES-II の自局Nodeの位置情報をGrid Square Locator形式及び緯度経度で表示します。
表示されている位置情報はActive ID windowやGroup window上に表示させる事ができます。

Location Info window
Location を押すここの画面が表示され、自局Nodeの位置情報を入力したり、
Active ID windowやGroup window上への表示設定を行うことができます。
下図は緯度情報を入力して下図を押すと、自動的にGrid Square Locatorを計算し右図のように
Personal settings に表示され、さらに Group WindowやActive ID Windowに位置情報が表示されます。ここに設定した位置情報は、Ver3.227より前のVersionではComment欄に表示されます。

画面の説明は下記の通りです。

□ Latitude

□ Longitude

□ Grid square locator
位置情報をGrid Square Locator形式で表示します。値は緯度情報 [Latitude]及び経度情報 [Longitude]から自動的に計算されます。

注 意
Freq、Tone、GL、Lat、Lon、Commentの欄を含めて最大80文字（半角英数字）まで入力することができます。
Freq、Tone、GL、Lat、Lonを全て入力すると、Comment欄に入力できる文字は約15文字になります。

ヒント

Lat：
Location Info window画面で設定した自局Nodeの緯度情報 [Latitude] を表示します。

Lon：
Location Info window画面で設定した自局Nodeの経度情報 [Longitude] を表示します。

ヒント
緯度経度情報は、「世界測地系 (WGS-84)」のデータである事を確認してから入力される事をお勧めします。
Personal settings (つづき)

- Show Latitude & Longitude on list
  緯度情報 Latitude 及び経度情報 Longitude を Active ID windowやGroup window 上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

- Show Grid square locator on list
  Grid Square Locator情報をActive ID windowやGroup window上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

Comment
IDリストのComment欄に表示するコメントを入力します。

QSL exchange
チェックボックスにチェックを入れると接続先のWiRES局で画像を登録している場合、画像を表示することができます。また自分で作成したビットマップ (BMP) 画像 (QVGA 320 × 240 指定すると、接続した相手のWiRES局へ自動的に画像を送ることができます。QSLカードを交換する感染で画像を作成してみてください。

Message (MAX 200 Charactors)
他のWiRES局へ接続したときに表示するメッセージを入力します。また、リストを選択してGet Infoをクリックしたときも登録したメッセージが表示されます。簡単な自己紹介を入力しておくとよいでしょう。

Remote control Password
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフト [wiresmon.exe]からリモート操作を行う場合に使用するパスワードをここで設定します。

Remote control Port
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフト [wiresmon.exe] Ver.1.300以降 [から web monitor 機能を利用する時に使う TCP port の番号をここで設定します 40000 〜 50000 までの偶数番号が指定できます ]。

この機能を使う場合、UDP:40000-50000ポート以外に、ここで設定するTCP port でも通信出来るように、PC やルーターのファイアーウォール機能で、指定するTCP port の解放設定を行う必要があります。

この web monitor 機能により、外部から下記情報を見る事が出来るようになります。なお、詳細は [このページ] をご覧ください。
- Node Log
- Chat Log
- Room Log (Round QSO Room 開設時のみ)
- Setting (各種設定情報)

OK Button
このボタンを押すと設定が反映されます。

Cancel Button
このボタンを押すと設定は反映されません。

注 意
Freq,Tone,GL,Lat,Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます。Freq,Tone,GL,Lat,Lon を全て入力すると、Comment 欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

ヒント
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフトとは
別の場所で稼働している WiRES-II system [WIRES-II.exe] をインターネット経由で遠隔地から監視、制御をする為のモニタソフトです。
このモニタソフトにより、遠隔地から下記の操作が可能になります。
- NET 接続時の通話音声のモニタ
- PTT 制御/送信禁止及び解除
- WIRES-II.exeの再起動
- Web Monitor機能
WiRES 設定情報をバックアップ

Export / Import settings

Windows Registry 内に登録されている WiRES に関する各種設定情報を file に保存したり、保存した file の設定情報を Windows Registry 上に書き込み、一括設定をする機能です。
一通消费Propertyなど各種設定が終了しましたら、Export settings でバックアップを取っておくことをおすすめします。
なお、保存できる内容は下記の通りです。

- Personal settings の設定内容
- Audio settings の設定内容
- Property screen の下記設定内容
  - HRI-100 setup
  - Group settings
  - Rejected IDs
  - Call options
  - General settings
  - Sound settings
  - ID settings
- Font 設定情報
- Group window 表示選択情報
- Make list file の設定内容 [HTML header / footer 情報除く]
- Plugin で取り込むプログラムモジュール名情報
  プログラムモジュール自体の設定内容は含まれません。
- Round QSO Room settings 設定内容 [Round QSO Room 開設時のみ]
- MCU/Room-Info 設定内容 [Round QSO Room 開設時のみ]

File ☐ Export settings ☐

WiRES に関する Windows Registry 情報を file で .wsv に保存します。
テキストボックスにファイル名を入力して "保存" をクリックします。

File ☐ Import settings ☐
WiRES に関する各種設定情報を登録した file で .wsv を選択して、Windows Registry へ読み込みます。
"保存" をクリックすると、各種設定情報を Import する事が出来ます。
WiRES software [WiRES-II.exe] の再起動が行われます。

注意
下記内容については保存されません。
・ 各 window 毎のソート条件
・ Status bar チェック状態
  起動時、常に ON
・ Log 選択 [Node log / Room log] 状態
  起動時、常に Node log
・ Make list file 機能の HTML header / footer 情報の部分は、別 file に保存されません。

注意
下記項目に関して、file 内の情報と Windows Registry 情報が一致しない場合、file の設定情報の読み込みができません。
ID 番号と Serial Number

注意
VsLAN もしくは VsDialUP が動作していない場合は、WiRES-II.exe が終了します。

ヒント
WiRES を初期状態に戻すには！
File ☐ Set default ☐
WiRES に関する各種設定情報をインストール直後の初期状態へ戻ります。
(103ページ参照）

WiRES の再認証をするには！
File ☐ Retry activation ☐
WiRES の認証を再度行う事ができます。WiRES の Server 登録情報を変更したいときに使用します。
(104ページ参照）
Round QSO Roomの開設

Round QSO Roomは、井戸端会議のようにひとつのRoomへ多数の局がチェックインして自由に会話できるシステムです。

現在、WiRES-IIから始まるID番号で多数のRound QSO Roomが開設されています。代表的なRound QSO Roomを下記に紹介しております。なお、WiRES-IIホームページのRound QSO Roomリストで現在開設しているRound QSO Roomを確認することができますのでご覧ください。

- #01DのID: ALL US CQ Room(0110)
- #04DのID: Asia and Oceania CQ Room(0410)
- #05D〜#06DのID: (例、#0510D Japan CQ Room) Japan(0510)
- #07DのID: Europe and Africa CQ Room(0710)

Round QSO Roomの開設

WiRES-IIホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレスを登録します。登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが書かれたメールが届きますので、「1. Round QSO Room IDの取得申請」のアドレスへアクセスし、必要事項を入力してIDの取得申請を行ってください。

Round QSO RoomのIDが届きましたら、WiRES-IIホームページからRoundQSO.exeファイルをダウンロードして、適当なフォルダに保存してください。

WiRES-IIアプリケーションを必ず終了して、保存したRoundQSO.exeを起動します。

Round QSO Room Setupプログラムが起動しますので、WiRES ID、登録しているHRI-100のSerial No.、今回発行されたRound QSO RoomのID番号を入力し、注）ボタンをクリックします。

認証が完了すると、下のラインにRound QSO Room Entry Completeと表示されます。

さらに下記Windowも表示されます。を押して、Round QSO Room Setupプログラムを終了します。もしも、登録できない場合は、ID、Serial No.などをご確認ください。

次ページに続きます。

注意
Round QSO Roomオーナー登録をしない方は、Round QSO Room setupをすることができません。オーナー登録をしてからSetupを行ってください。

ヒント
Firewallソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。下図はWindows Firewall（XP SP2以降）の例です。

ルーム開設編
Round QSO Room の開設（つづき）

ウィレス-II アプリケーションを起動して初期設定を行います。
[File] [Round QSO]を選択すると下記の画面が表示されます。

![Round QSO Room settings](image)

- **ID No.**：Round QSO Room Setupで設定した、すでに登録されているIDが表示されます。
- **Room name**：名称を半角英数字20字以内でご記入ください（20字以上入力してもウィレス-IIのリストには表示されません）
- **Maximum stations**：最大許容チェックイン局数を入力（2から249局まで）
- **Enable/Disable**：RoomをスタートするときはEnable、一時的に停止するときはDisableをクリックします。
- **Comment**：Roomリストに表示されるコメントを記入します。
- **Confidential ID**：チェックを入れると一時的にList上から非表示になります。
- **QSL exchange**：Roomへ接続してきたIDへ登録した画像を送信します。画像の登録方法はPersonal IDと同様です。
- **Message**：Roomへ接続してきたウィレス局へ送るメッセージを入力します。

**ヒント**

自局でRound QSO Roomを開設すると
[View] [Group window] [MyRoom access list]
Round QSO Roomへアクセス中の全ノード局の情報を表示します。Group windowの表示内容はリアルタイムに更新されるため、定期的に自動更新されます。

Round QSO Room settingsのEnableボタンをクリックして選択を変更したときはウィレス-IIの再起動が必要です。
ウィレス-II の開設（つづき）

--- 運用上のご注意 重要 ---

Round QSO Room では、チェックインしている局のすべてが送信状態になります。そのため、多くの局が利用している状況では、チェックインしている WiRES 局が送信に近い状態になることがあります。また、HRI-100はハードウェアで連続送信のタイマー機能があります。すぐに応答すると WiRES ではそのまま、送信状態になることもあります。そのため、従来の QSO よりも多少長めにブレーキングタイムを取って QSO していただくよう、Room オーナー様からも利用者に対してご案内していただくようお願いします。

開設しているオーナー様ご自身も自分の Round QSO Room にてチェックインすることができます。

Round QSO Room を動作しているときは、Room オーナー様ご自身が随時、監視して問題が生じたときには、停止するようにしてください。監視できないときには、一時停止するよう心がけてください。

運用日時などは、あらかじめ WiRES 揭示板などで告知してください。

Round QSO Room は、Room オーナー様が設置している WiRES-II アプリケーションが起動しているコンピュータ内で同時に動作します。単独では、動作しないことをご了承ください。

インターネット回線の状況、Room チェックイン人数、コンピュータの負荷などにより音声品質の劣化、WiRES-II プログラムの動作が不安定になることがあります。最初は、最大 10 局程度に設定して、少しずつ増やしていき、最大許容局数を設定することをお勧めします。

Round QSO Room の ID 番号は一時的に非公開にすることができますが、SRG, FRG リストに登録してある場合は、Round QSO Room に表示されます。

ご利用者同士のトラブルにつきましては、当社は一切関知いたしませんので、あらかじめご了承ください。

チェックインしている局のスケルチトラブルや、WiRES 運用中であることを知らないローカル局がでてくるとチェックインしているすべての WiRES 局が送信状態になり迷惑がかかることがあります。このような場合、Room オーナー様は、Round QSO Room から問題となる ID を Room の Reject (View MCU/Room-Info) から一時的に停止し、禁止することができます。なお、この場合、問題となる局に対して、禁止した旨を CHAT などにより知らせておくようにしてください。

Round QSO Room の開設登録を解除したいときには、お手数ですが WiRES カスタマーサポートセンターまでお知らせください。

株）バーテックススタンダード WiRES カスタマーサポート
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8
TEL: 03-5725-6153
FAX: 03-3793-5726
E-Mail: wires@vxstd.com
Round QSO Room を開設すると追加される機能

Round QSO Room を開設すると5種類の機能が追加されます。この機能は、自局で開設している Room を監視しやすいように用意された機能です。この機能設定画面は、Round QSO Room を開設設定した時にのみ表示されます。

追加される機能

- Round QSO Roomの各種設定を行います。
- Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定をします。
- Round QSO Room エアスプレッド中の Node 局情報を表示します。
- Round QSO Room の運用状況、地局からの Room 接続切断、Reject 動作、自局 Room 内の chat メッセージなど を表示します。
- Round QSO Room にログオンしている Node 局の総数 接続中の Node が html 形式、xml 形式、CSV 形式で出力する設定画面です。
- Tool で make list file で MyRoom logon ID

追加される機能の詳細

- File で Round QSO

Round QSO Room の初期設定画面と同じ画面です。
各種の内容を変更したいときに設定します。
ID No 以外の項目を変更することができます。

ヒント

Comment 欄は最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます。
Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）

・Remove Button / Mute Button
画面左下のテキストボックスに、自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局のID番号を入力し、Remove ボタンをクリックすると、そのID局との接続を強制的に切断します。また、Mute ボタンをクリックした時、その WiRES 局の音声配信を中止します。

・Round QSO Room reject ID
運用中の自局 Round QSO Room へ接続させたくない WiRES 局のID番号やその条件を入力します。

・Round QSO Room reject remove ID list 「 Default:OFF 」
上記 Remove 操作を行うと、このチェックボックス下のテキストボックス [Remove ID list] にそのID番号が自動的に入力されます。それらのID局のREJECTするかどうかをここで設定します。OFF [Remove ID list] 上のNode局をREJECTしない。再接続許可 ON [Remove ID list] 上のNode局をREJECTする。再接続拒否

・Round QSO Room mute ID list
このテキストボックスには、自局Room内において、音声配信をさせたくないID一時的に配信停止させたいWiRES局のIDや、その条件を入力します。ここでは指定したWiRES局を自動的に自動的にMUTEします。
なお、MuteボタンによりID番号を指定すると、自動的にこのlist上に追加されます。

・Log-file save Round QSO Room 「 Default:OFF 」
チェックを入れるとRound QSO Room専用ログに表示される情報を保存することができます。テキストボックスでファイル名を入力して右にある[ ] ボタンをクリックして保存場所を指示します。通常Nodeのlog保存は別fileを指定します。

・SAVE Button
このボタンを押すと設定が反映されます。

・Close Button
このボタンを押すと設定画面を閉じます。

ヒト

・[Round QSO Room reject ID], [Round QSO Room reject Remove ID list], [Round QSO Room Mute ID list]のID番号の条件は下記のように指定できます。
個別 指定 ¥ [5109] ¥ 5109 との接続をREJECTまたはMUTEする。
複数 指定 ¥ [5109:6800] ¥ 5109 6800 6900 との接続をREJECTまたはMUTEする。
範囲 指定 ¥ [6800:6999] ¥ 6800 ～ 6999 までの局との接続をREJECTまたはMUTEする。
?: 指定 ¥ [1070] ¥ 1000 1010 ¥ 1080 1090 との接続をREJECTまたはMUTEする。
Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）

この表示指定の時には、ID 番号の所が、下記のような表示になります。各項目名部分をクリックすると、List の並び順を変更できます。ソート表示機能。ソート指定項目は項目名左側に点鎖もしくは点鎖の表示が入ります。昇順、降順表示、降順のリストは適宜更新されます。

WiRES 局をマウスで右クリックすると、下記コマンドが実行できます。

- Get Info を選択した ID の自己紹介画面を表示します。過去に接続した事のある局で画像データを取得した局については、その画像も表示します。
- Window default を選択すると、Group window / Active ID window / Round QSO Room window ルームを開設した場合の表示行数を等間隔（等分）にします。
- Refresh Group list を Group window の内容を最新の状態に更新します。
- Reject を自局 Round QSO Room 内に接続中の WiRES 局を右クリックで選択し、このコマンドを選択すると、Reject（回線切断）されます。MCU/Room Info 画面上の [Remove] button と同じ動作をします。なお、Reject の解除等は、MCU/Room Info 画面から行ってください。
- Mute を自局 Round QSO Room 内に接続中の WiRES 局を右クリックで選択し、このコマンドを選択すると、その WiRES 局を Mute 状態にする事ができます。MCU/Room Info 画面上の [Mute] button と同じ動作です。Mute した WiRES 局のリスト ID 部分に [Mute] が表示されます。Mute 状態を解除したい場合は、Mute 状態になっている WiRES 局を右クリックで選択します。なお、Mute 状態の詳細な設定については、MCU/Room Info 画面から行ってください。
**Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）**

- **View** ▶ **Log** ▶ **Round QSO** ▶
  自局で開設している Round QSO Room の運用状況 他局からの Room 接続切断、Reject 動作、自局 Room 内の chat メッセージなど表示します。

  Log を Round QSO に切り換えた場合
  (Room に 5 個 Node が Connect している時の表示)

Round QSO Room の運用状況を表示

なお、表示される内容は、古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。

- **Tool** ▶ **Make list file** ▶ **MyRoom logon ID**
  このタブ sheet 内は、自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 局の情報を html 形式、xml 形式もしくは CSV 形式で出力する設定画面です。
  下記項目が data として出力されます。

  - Tm ▶ 自分で開設中の Room に接続中の Node 局総数を出力します（xml 時では出力されません）。
  - NodeList ▶ 接続中の Node のをスペース区切りで出力します。
    - [Enable list out] ▶ ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。
    - [XML Style] ▶ [Enable list out] にチェックを入れ、さらに [XML Style] にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。

ヒント

Round QSO Log の内容を保存したい場合には、**View** ▶ **MCU/Room-Info** の Log-file save を Round QSO Room で機能を使います。
Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）

- HTML Name / XML Name
  HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子は html）。
  XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子は xml）。

- HTML Header / XML Header
  HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Header: xml 形式でスタイルシート情報を入力します。
  スタイルシートは ページ参照

- HTML Footer / XML Footer
  HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Footer: 空欄にしてください。

- Table layout
  html 出力の形式を選択します。xml 形式では選択不可能です。
  チェックした場合には、テーブルレイアウト tr td タグ使用で出力します。
  チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

- Save CSV format
  ここにチェックすると、html 形式または xml 形式の他にカンマ区切りテキスト csv 形式の file も出力します。
  file 名は Name 部で指定した html または xml の拡張子を csv に変更したものになります。

- Notify window title
  Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
  通常は空欄のままにしておきます。

- Button
  このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

ヒント
xml で Tableレイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Room.xsl）は Tableレイアウト構成です。
例 Make List を html 形式で作成する方法

自分で開設している Round QSO Roomにログオンしている Node局の情報をhtml形式で出力することができます。html形式に出力する方法を例をあげて説明します。

1. WIRES-II ソフトウェアを起動します。
2. Tool の Make list file を開くと、左図の画面が表示されます。
3. MyRoom logon ID を選択します。
4. Enable list out に  を入れ、data 出力機能を ON にします。
5. Name に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し をクリックします。
6. HTML Header に MyRoom logon ID List のタイトルになる部分を html のコマンドタグを入力します。
7. HTML Footer に html のコマンドタグを入力します。
8. Table layout に  か入っているか確認します。
9. OK をクリックすると、Make List が生成されます。

例として、

<table>
<thead>
<tr>
<th>NAME</th>
<th>Node List</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>TM</td>
<td>Node List</td>
</tr>
<tr>
<td>007</td>
<td>5000 5109 5209 5309 5509 5709 5809</td>
</tr>
</tbody>
</table>
例 Make Listをxml形式で作成する方法

自分で開設しているRound QSO RoomにログオンしているNode毎の情報をxml形式で出力することができます。xml形式で出力する方法を例をあげて説明します。

1. WiRES-IIソフトウェアを起動します。
2. Tool⇒[Make list file]を開くと、左図の画面が表示されます。
3. [Active ID]を選択します。
4. [Enable list out]に☑を入れ、data出力機能をONにします。
5. [XML Style]に☑を入れ、xml形式を選択します。
6. [Name]に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し[...をクリックします。
   例として、MyRoom logon ID Listを入力します。
7. [XML Header]に呼び出したいスタイルシートの情報を入力します。
   例として、
    xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"
    XML Schema等を入力します。
8. [XML Footer]は空欄にします。
9. [OK]をクリックすると、Make Listが生成されます。
   [Name]で指定したファイルをダブルクリックするとInternet Explorerなどのwebブラウザが起動し、生成されたMy Room logon ID Listが表示されます。

ヒント ▶SaveCSV Formatにも☑を入れると、同時にカンマ区切りテキストのcsv形式のfileも出力します。
Round QSO Room 利用時に有益な機能

Call options   | File   | Property   | Call options |
---             | ---    | ---        | ---          |

Round QSO Room connection  「Default: ON」
Round QSO Roomへの接続要求を受け取った際の動作をここで設定します。
ON   Round QSO Room へ接続する。
OFF  Round QSO Room に接続しない。

Accept calls while in Round QSO Rooms  「Default: OFF」
Round QSO Room へ接続中に、別のNode局から接続要求を受け取った時 の動作をここで設定します。
ON   別のNode局からの接続要求を受け付ける。
OFF  別のNode局からの接続要求を受け付けることができない。

Back to Round QSO after disconnect  「Default: OFF」
Accept calls while in Round QSO Rooms 設定がON で、別のNode局 から接続要求を受け付けて、そのNode局と通信した後、リンクを切断し た後の動作をここで設定します。
ON   自動的に接続していた Round QSO Room へ再接続します。
OFF  Round QSO Room への再接続は行いません。

Return to resident Round QSO Room  「Default: OFF」
指定した Round QSO Room へ自動接続させる為の機能を設定します。
ON   Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させます。
OFF  Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させません。
この設定は、パソコン画面上でチェックボックスを操作する以外に、 DTMF の #55555 コマンドでも状態を変更する事ができます。
DTMF の #55555 コマンドにより、状態を OFF から ON に変更した 時、Resident Room ID & Timer の各設定も全て Enable となります。
Round QSO Room 利用時に便利な機能（つづき）

- **Resident Room ID & Timer 「Default : OFF」**
  自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続させておく時間帯 Timer を最大 3 分まで設定する事が出来ます。Enable チェックボックスへ チェックを入れると設定した Round QSO Room へ希望の時間に自動接続することができます。

  - **ON** : 指定した時間帯に設定した Round QSO Room へ自動接続を行います。
  - **OFF** : 自動接続は行われません。

  自動接続が出来なかった場合、Return to room No.$[XXXX]$ count over. が log 上に出た場合は、自動的にこのチェックは外れます。OFF 状態に移行します。

  再度自動接続させたい場合、パソコンの設定画面でチェックを入れるか、DTMF の #5555D #5555S または #05555 らマジックを発信、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

  ID
  自動接続したい Round QSO Room の ID 番号を設定します。

  最大 3 分所設定でき、同じ時間帯で複数の接続先を設定する事も可能です。

  Timer ：StartTime ～EndTime
  自動接続させる時間帯を 5 分単位で設定します。

  最大 3 分所設定でき、同じ接続先で複数の時間帯を設定する事をも可能です。

  24 時間、常に自動接続させたい場合には、00:00 ～ 24:00 を指定します。

- **Resident TOT 「Default : 0 sec」**
  Resident Room ID & Timer で設定した Round QSO Room へ接続すると、Disconnect 操作 DTMF コマンド等が通信時にトラブル等が無ければ、Timer の指定時間内は接続を維持します。

  Timer の指定時間を過ぎたら、まず、INTERNET 点灯状態にならないか監視し、監視時間内に INTERNET 点灯状態にならなければ自動接続を解除 Disconnect します。この監視時間を設定することができるます。

  もし、監視时间内にINTERNET 点灯状態になった場合には、通話中であると判断し、自動接続を解除せず、接続状態を維持します Round TOT 0 sec の場合は除く。

  INTERNET 点灯状態から、LOCAL 消灯に戻った所で、再度監視を行います。

- **Return time 「Default: 30 sec」**
  Return to resident Round QSO Room 設定が ON の時、IDLE 状態になってから、自動接続を実行するまでの待機時間をここで設定します。

  長い時間を設定する際には、下記数値を参考にしてください。

  - 1 分 8 分 16 分 32 分 64 分
  - 2 分 16 分 32 分 64 分
  - 4 分 32 分 64 分
  - 8 分 64 分
  - 16 分

  注意
  Return time で短い時間を設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信することとなり、あまり好ましくありません。Return counter の設定とあわせ、他局に迷惑がかからない程度の適切な値を指定するようにしましょう。
Round QSO Room 利用時に便利な機能（つづき）

Return counter 「Default：10」
Return to resident Round QSO Room 設定が ON の時の自動接続実行回数をここで設定します。指定した回数接続を試みても接続が確立できなかった場合には、そこで自動接続機能を一時的に停止します。
- 時停止状態に移行した後、DTMF の #5555 コマンド機能で再度自動接続機能を動作させる事が可能です。

DTMF #5555 (Return Room cancel command 「Default: ON」)
DTMF の #5555 コマンドの動作を ON/OFF します。
ON に設定した場合、DTMF の #5555 コマンドを受信すると、Return to resident Round QSO Room 機能を一時的に停止します。また停止時にこのコマンドを受信すると機能を再稼動させることができます（トグル動作）。ただし接続時（NET 時）は使えません。OFF 設定時は、DTMF の #5555 コマンドを無効にします。

General settings  File  Property  General settings

- Unlimited while in Round QSO Rooms 「Default：OFF」
Round QSO Room へ接続時の TOT（Time Out Timer）による時間制限機能の動作をここで設定します。
ON で Round QSO Room 接続中は接続時間を制限します。
OFF で Round QSO Room 接続中でも接続時間を制限をします。

- Announcement（Round QSO IN/OUT）「Default：OFF」
Round QSO Room の IN/OUT 時のアナウンス送出を ON/OFF します。
ON に設定すると、#5555 IN/OUT といったアナウンスを送出します。Announcement 機能は、Microsoft Speech がインストールされている時のみ動作します。なお、このアナウンス音声の音量は、Sound Settings の Voice の Volume 調整バーにて行います。

- Announcement（Round logon node info）「Default：OFF」
Round QSO Room へ接続した際にログオン中の合計数をアナウンスする機能が追加されます。

WiRES-II 取扱説明書 101
メニューバーの説明

ファイルメニュー

ファイルショートカット

File:
[Alt] [F]
Personal ID:
[Alt] [F] [I]

注 意

Round QSO [R] は、Round QSO Room を開設すると追加されます（95ページ参照）。

Personal settings

Serial No. Call sign JI No. City State Country

[Q] QNAMEしい

Freq SQL Type G.Loc

SQL exchange (SIZE: SVGGA 35x x240 byte)
Message (MAX 200 Character)

Remote control

Password
IPPort (TCP 4000-5090, EVEN)

OK Cancel

ID number validated

WiRES-II 取扱説明書 102
メニューバーの説明（つづき）

【File 】Round QSO
Round QSO Room の各種設定を行います。
なお、この設定画面は、Round QSO Room を開設設定した時にのみ
表示します。
設定内容は、「ID」、「Room name」、「Maximum stations」、「Enable」、
「Disable」、「Comment」、「Confidential ID」、「QSL exchange」、
「Message」です。詳しくは、95 ページを参照してください。

【File 】Import settings
WiRES に関する各種設定情報を登録した file に wsv を選択して、
Windows Registry への読み込みます。
下記項目に関して、file 内の情報と Windows Registry 情報が一致し
ない場合、file の設定情報の読み込みができません。
【ID 番号と Serial Number】

【File 】Export settings
WiRES に関する Windows Registry 情報を file に保存します。

【File 】Set default
WiRES に関する各種設定情報をインストール直後の初期状態へ戻
します。
なお、下記設定値については、初期化されません。
【Personal settings の下記設定値】
【Serial No. 、Callsign , D No. 、City 、State 、Country】
【HRI-100 setup 内の全ての設定値】
【Volume バーの下記設定値】
【SP LEVEL 、WAVE LEVEL 、MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL】
【Make list 】機能の Header/Footer 情報
この部分は、別 file に保存されます。
メニューやーの説明（つづき）

【File ー Retry activation】
WiRESの認証を再度行うことができます。WiRESのServer登録情報を受け変更した場合などに実行します。
このコマンドを実行すると、WiRESソフトウェアの再起動時にWiRES Activation認証画面が現れ、WiRESの再認証を行う事が出来ます。
なお、このコマンドを実行する事、下記設定値のみ変更され、それ以外の各設定値はそのまま維持されます。
　・Personal settingsの下記設定値
　　Serial No., Callsign, D No., City, State, Country
　・Round QSO Room settingsの下記設定値
　　Room ID No.

【File ー Audio settings】
Audio制御用のSound driverに関する設定を行います。

Voice in select
無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。
さらに、MIC LEVEL / LINE-IN LEVELのレベル調整バーで制御する端子も同様に切り替えます。詳しくは③ページを参照してください。

Sound Device
HRI-100と接続する、パソコン上のサウンドデバイスを選択します。
複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、適切に設定を行う必要があります。詳しくは③ページを参照してください。

【注意】
Retry activationについて
Round QSO Roomを運用していた場合、このコマンド操作によりRound QSO RoomのID番号と運用状態のみが解除されます。
Round QSO Room settingsやMCU/Room-Infoの値などの各設定値は、このコマンドでは消去されません。
再度、Round QSO Roomを運用したい場合には、取扱説明書の「Round QSO Roomの開設」を参照しROUNDQSO.exを全てやり直してください。
なお、このコマンドを実行する際には、WiRESソフトウェアのWiRES-II.exeの再起動が必要になります。

【注意】
設定変更時には、WiRESソフトウェアのWiRES-II.exeを再起動する必要があります。
Windows Vista/7環境では、Audio settings内の設定内容を保存させる前に、OSのサウンド設定画面のOS sound propertyボタンから呼び出す画面を開じる必要があります。
OSのサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。
メニューバーの説明（つづき）

File → Property

File → Property → HRI-100 setup

HRI-100の各種動作に必要なパラメータを設定します。詳しくは、58ページを参照してください。

ウィンドウの設定

Call options

WiRES無線局の呼び出し方法などを設定するホルダーです。詳しくは、61ページを参照してください。

カーボンショートカット

Property:

[Alt] [F] [P]
メニューバーの説明（つづき）

**File □ □ Property □ □ General settings □
**WiRES-II の接続条件等を設定するホルダーです。
詳しくは、66 ページを参照してください。

**File □ □ Property □ □ Sound settings □
**Connect 時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメーター CW pitch や Voice の音量などは ID settings の選択音声にも影響します。
詳しくは、70 ページを参照してください。
メニューバーの説明（つづき）

File [ ] Property [ ] ID settings [ ]
定期的にIDを送出する機能に関しての設定を行います。
詳しくは、72ページを参照してください。

File [ ] Property [ ] Group settings [ ]
SRG（Sister Radio Group）やFRG（Friendly Radio Group）のID listの設定と、Group Windowにさらに表示したい局のlist Bookmark ID listの設定等をおこないます。
詳しくは、75ページを参照してください。
## メニューバーの説明（つづき）

### File ▼ Property ▼ Rejected IDs ▼
接続拒否したいWiRES局のID番号もしくはその条件をlist上に入力します。
詳しくは、78ページを参照してください。

### File ▼ Refresh list ▼
IDリストは、数分毎にリストをリフレッシュしていますが、最新のリストを取得することができます。起動時や、一度リフレッシュすると一定時間を経過しないと、リストをリフレッシュすることはできません。

### File ▼ Exit ▼
WiRES-II プログラムを終了します。

### ヒント
ID番号の条件は下記のように指定できます。

- 個別指定 ▼
  5109 ▼ 5109との接続を拒否する。

- 複数指定 ▼
  5109 ▼ 6800 ▼ 6900 ▼ 5109 6800 6900との接続を拒否する。

- 範囲指定 ▼
  6800 ▼ 6999 ▼ 6800～6999までの接続を拒否する。

- ? ? 指定 ▼
  1070 ▼ 1000 1010 ▼ 1080 1090との接続を拒否する。

### キーボードショートカット

Exit:
[Alt] ▼ [F] ▼ [E]
メニューの説明（つづき）

ウィンドウの説明

ウィンドウ

ウィンドウの説明

メニューエメニュー

View  View

各ウィンドウの演出、画面の表示を、このウィンドウの設定で变更できます。MCU/Room-Infoウィンドウは、Round QSO Roomを開設すると追加されます。

View View

フォントサイズを大きくすれば、見やすくなることがあり、画面解像度にあわせてフォントサイズを選択してください。

View View

フォントを変更すると下記の部分も変更されます。

VsLANもしくはVsDialUPが動作していない場合は、WiRES-II.exeを終了した後、手動で再起動してください。
メニューバーの説明（つづき）

【View ▶ Status Bar ▶
Status Barにレ点を入れると画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。

【View ▶ MCU/Room-Info ▶ Room開設時のみ）
運用中の自局Round QSO Roomに接続しているWiRES局の情報表示や各種設定をします。詳細は[0ページ]を参照してください。

---

キー・ショートカット
Status Bar:
[Alt] ▶ [V] ▶ [S]
MCU/Room-Info:
[Alt] ▶ [V] ▶ [M]

---

ヒント
この設定画面は、自局にてRound QSO Roomを開設設定した時にのみ表示する事できます。

---

ヒント
Node Logの内容を保存したい場合 ▶ General settingsのLog-file save機能［Node］を使います。
Round QSO Logの内容を保存したい場合には
【View ▶ MCU/Room-Info ▶ のLog-file save（Round QSO Room）機能を使います。

---

【View ▶ Connect ID window ▶
Round QSO Room接続時もしくは、SRG/FRGの一斉呼び出しA ▶ B ▶ C ▶ Dによる接続が確立した時、その接続局のID listがpopup window形式で画面上に表示されます。
このConnect ID windowの表示が下記のような理由で閉じられていた場合に、このViewメニューを使い表示させる事が可能です。
・CLOSE操作によってConnect ID windowを閉じた場合
・WiRES softwareのwiRES-II.exeが画面上で最小化状態時に接続
Connect操作が実行され、Connect ID windowが表示できなかった場合
なお、Round QSO Roomや一斉呼び出による接続が行われていない場合、このメニューは使用できません。

【View ▶ Group window ▶ SRG/FRG Bookmark list ▶
Group settingsで指定したNode局もしくはRound QSO Room局の情報を表示します。

【View ▶ Group window ▶ Connecting Node list ▶
接続先のNode局や、接続先のRound QSO Room局に接続中の局情報などを表示します。

【View ▶ Group window ▶ MyRoom access list ▶ Room開設時のみ）
自局Round QSO Roomへアクセス中のNode局情報を表示します。
メニューバーの説明（つづき）

View Log Node
通常の Node 運用時の情報 WiRES サーバーとの接続状況、呼出や通信の状況、chat のメッセージ等を表示します。

View Log Round QSO Room 開設時のみ
自局で開設している Round QSO Room の運用状況 他局からの Room 接続 リ切断、Reject 動作、自局 Room 内の chat メッセージなども表示します。

ヒント
表示される内容は、どちらを選択した場合でも、古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。
メニューバーの説明（つづき）

コネクトメニュー

Connect: [Alt] [C]
Connect: [Alt] [C] [C]
Connect To: [Alt] [C] [T]
Disconnect: [Alt] [C] [D]

例

5109をConnectしたい場合は、下記のように入力しOKをクリックします。
ツールメニュー

Tool □ □ PNG to BMP □

QSL Exchange機能により接続先Nodeから送られてきた画像は、PNG形式で保存されます。このPNG形式の画像を、BMPピットマップ▷形式に変換する事ができます。

PNG Fileテキストボックスに変換したい PNG ファイルを指定します。
BMP Fileテキストボックスには、生成したいBMPファイル名を指定します。
それぞれ指定したら、OKをクリックすると、変換が行われます。

Tool □ □ Make list file □

Group window、Active ID window及び、Round QSO Room window上に表示されているオンライン局の情報をhtml▷Hyper Text Markup Language形式▷テーブルレイアウト形式かタブ区切り形式▷もしくは、xml▷Extensible Markup Language形式で出力します。また、個別にカンマ区切りテキスト▷csv▷形式の data の出力も可能です。

なお、出力 data の順序は、list画面で指定するsort▷並べ替え▷条件の影響をそのまま受けます▷画面表示と同じ順序で出力されます▷
Group windowはGroup ID▷選択、Active ID windowはActive ID▷選択、Round QSO Room windowはRound QSO Room▷を選択します。詳細は□□ページ参照してください。
メニューバーの説明（つづき）

Tool \ Make list file \ Group ID
このタブ sheet 内は、Group ID window の情報出力の設定画面です。
下記項目が data として出力されます。
ID No. Tm Callsign もしくは RoomName City State、
Country Freq(MHz) SQL GL Lat Lon Comment

ヒト
Notify Window Title:
Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新された事を他のアプリケーションに通知する事ができます。通常は空欄のままにしておきます。

注意
MyRoom logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒト
サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは HTMLページ参照）。

ヒト
xml で Tableレイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Group.xsl）は Tableレイアウト構築です。

HTML ヘッダー / XML ヘッダー
HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
XML Header: xml 形式で使用するスタイルシート情報を入力します。

HTML フッター / XML フッター
HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。

Table layout
html 出力の形式を選択します。xml 出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト tr td タグ使用形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

WiRES-II 取扱説明書 114
メニューバーの説明（つづき）

・Save CSV format
ここにチェックすると、html 形式または xml 形式の他にカンマ区切りテキスト、tsv 形式の file も出力します。file 名は Name 部で指定した html の拡張子を csv に変更したものになります。

・Notify window title
Make list file 関連により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。通常は空欄のままにしておきます。

・Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。
メニューバーの説明（つづき）

Tool ▶ Make list file ◀ Active ID ▶
このタブsheet内は、Active ID windowの情報出力用の設定画面です。下記項目がdataとして出力されます。
ID No. Callsign City State Country Freq MHz, SQL GL Lat Lon Comment

・Enable list out
ここにチェックを入れると、data出力機能が動作します。
・XML Style
Enable list outにチェックを入れ、さらにXML Styleにチェックを入れると、XML形式でスタイルシートを作成することが可能です。
・HTML Name / XML Name
HTML Name: 保存したいdataのファイル名を指定します（拡張子は.html）。XML Name: 保存したいdataのファイル名を指定します（拡張子は.xml）。
・HTML Header / XML Header
HTML Header: html形式で出力する際のdataの先頭に書きたいHTMLタグを入力します。
XML Header: xml形式で使用するスタイルシート情報を入力します。
・HTML Footer / XML Footer
HTML Footer: html形式で出力する際のdataの後方に書きたいHTMLタグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。
・Table layout
html出力の形式を選択します。xml出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウトをタグでタグ使用形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注意
MyRoom logon IDは、Round QSO Roomを開設すると追加されます。

ヒント
サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートはページ参照）。

ヒント
xmlでTableレイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Active.xsl）はTableレイアウト構成です。
メニューバーの説明（つづき）

・「Save CSV format」
ここにチェックすると、html 形式または xml 形式の他にカンマ区切りテキスト 「csv」 形式の file を出力します。file 名は Name 部で指定した html または xml の擴張子を csv に変更したものになります。

・「Notify window title」
Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。通常は空欄のままにしておきます。

・「OK」 Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・「キャンセル」 Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。
メニューバーの説明（つづき）

Tool □ "Make list file □ "Round QSO Room □
このタブ sheet 内は、Round QSO Room Window の情報出力用の設定画面です。下記項目が data として出力されます。
・ID No. □ Tm □ RoomName □ City □ State □ Country □ Comment □ が出力されます。
なお、各項目毎の設定方法はどちらかのタブでも同じで、下記の通りになります。

・[Enable list out □
ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。
・[XML Style □
[Enable list out □ にチェックを入れ、さらに [XML Style] にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。
・[HTML Name/XML Name □
HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 html）。
XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 xml）。
・[HTML Header/XML Header □
HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
XML Header: xml 形式で使用するスタイルシート情報を入力します。
・[HTML Footer/XML Footer □
HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。
・[Table layout □
html 出力の形式を選択します。xml 出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト □ ttr □ td □ タグ使用 □ 形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注 意
My Room logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒント
サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは [URL] 参照）。
メニューの説明（つづき）

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html形式またはxml形式の他にカンマ区切りテキスト形式のfileも出力します。file名はName部で指定したhtmlまたはxmlの拡張子をcsvに変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。通常は空欄のままにしておきます。

・OK Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・キャンセル Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。
メニューバーの説明（つづき）

![Tool] [Make list file] [MyRoom logon ID]

このタブ sheet 内は、自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 個情報出力用の設定画面です。
下記項目が data として出力されます。

- Tm 自分で開設中の Room に接続中の Node 個数を出力します（html 方式のみ）。
- NodeList 接続中の NodeID をスペース区切りで出力します。

![Make list file]

- Enable list out ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。
- XML Style Enable list out にチェックを入れ、さらに XML Style にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。
- HTML Name / XML Name HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 html）。
  XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 xml）。
- HTML Header / XML Header HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Header: xml 形式で使用するスタイルシート情報を入力します。
- HTML Footer / XML Footer HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Footer: 空欄にしてください。
- Table layout html 出力の形式を選択します。xml 出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
  チェックした場合には、テーブルレイアウト tr th td タグ使用形式で出力します。
  チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注 意
MyRoom logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒント
xml 形式を選択してサンプルのスタイルシート（MyRoom.xsl）で出力を行うと、Node 個数を含む MakeList 出力することができます。

ヒント
サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは <DOC> ページ参照）。

ヒント
xml で Tableレイアウトしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（MyRoom.xsl）は Tableレイアウト構成です。
メニューバーの説明（つづき）

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html 形式または xml 形式の他にカンマ区切りテキストの csv 形式的 file も出力します。file 名は Name 部で指定した html または xml の拡張子を csv に変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

・[OK] Button
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・[キャンセル] Button
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。
例 Make List を html 形式で作成する方法

Active ID List、Round QSO Room List 及び、Group List のオンライン局の情報を html 形式で出力することができますが、ここでは Active ID List を html 形式で出力する方法を例をあげて説明します。

1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. Tool を開くと、左図の画面が表示されます。
3. Active ID を選択します。
4. Enable list out に「✓」を入れるデータ出力機能を「✓」にします。
5. Name に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し「✓」をクリックします。
   例として、「WIRES-II Active ID.html」を入力します。
6. HTML Header に Active ID List のタイトルになる部分を html のコマンドタブに入力します。
   例として、
   HTML
   Body
   CENTER
   WIRES-II Active ID List
   ...
7. HTML Footer に html のコマンドタブに入力します。
   例として、
   HTML
   body
   ...
8. Table layout に「✓」が入っているか確認します。
   テーブルレイアウト形式で出力され、見やすいリストが自動的に生成されます。
9. OK をクリックすると、Make List が生成されます。
10. Name で指定したファイルをダブルクリックすると Internet Explorer 等の web ブラウザーソフトを起動し、生成された Active ID List が開き確認することができます。
11. Saves CSV format にも「✓」を入れると、同時にカンマ区切りテキスト csv 形式の file も出力します。
例 Make List を XML 形式で作成する方法

Active ID List, Round QSO Room List 及び, Group List のオンライン局の情報を xml 形式で出力することができるが、ここでは Active ID List を xml 形式に出力する方法を例をあげて説明します。

1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. Tool [Make list file] を開くと、左図の画面が表示されます。
3. [Active ID] を選択します。
4. [Enable list out] に [ ] を入れ、data 出力機能を ON にします。
5. [XML Style] に [ ] を入れ、xml 形式を選択します。
6. [Name] に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し[ ] をクリックします。

この部分を変更

他の [ ] の場合は赤文字部分を変更してください。

Group ID List の場合は [ ]
Round QSO Room List の場合は [ ]
MyRoom logon ID list の場合は [ ]

[XML Header] に呼び出したいスタイルシートの情報を入力します。
例として下記のように入力します。

この部分を変更

Active.xsl は標準添付されているスタイルシートのサンプルファイルです。また、赤文字の部分を変更だけで他の List にも対応できます。

Group ID List の場合は [ ]
Round QSO Room List の場合は [ ]
MyRoom logon ID list の場合は [ ]

[XML Footer] は空欄にします。

[OK] をクリックすると、Make List が生成されます。

[Name] で指定したファイルをダブルクリックすると、Internet Explorer 等のソフトが起動し、生成された Active ID List が開き確認することができます。

注意
xml 形式による表示結果は、使用する web ブラウザーソフトによって異なる場合があります。
メニューバーの説明（つづき）

Tool □ Plugin set □
WiRES-II.exe専用の拡張プログラムの動作設定を行います。

拡張プログラムソフトの詳細は随時、株式会社バーテックススタンダードWiRESホームページで紹介します。
http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html

ここでは、「WiRES-II ボイスチェックソフト」例に説明します。

- Button
WiRES-II.exeを拡張するプログラムソフトを本体プログラムに取り込みます。取り込み方法は次のように行います。

  □「Add Module」をクリックします。
  □「ファイルを開く」が表示され、「Voice_ck.dll」をファイルから選択し、「OK」をクリックします。

プログラムが取り込まれると、Plugin modules画面内にプログラム名が表示されます。

□「OK」をクリックします。

次のページに続く
メニューバーの説明（つづき）

[ウィンドウの図]

Toolボタンを選択するとプログラムが起動します。

- Tool
  WIRES Voice Checkを選択するとプログラムが起動します。

  ![ウィンドウの図]
  WIRES Voice Check

- Delete Module Button
  拡張プログラムを本体プログラムから切り離します。

- Property Button
  Add Moduleで本体プログラムに取り込んだプラグインソフトの各種設定を行います。取り込んだプラグインソフトをAddin modules画面内から選択し、このボタンを押すと、そのプラグインソフトに関する設定画面が表示されます。設定項目が存在しないプラグインソフトの場合には何も機能しません。□

- Version Info Button
  本体プログラムに取り込んだプラグインソフトのバージョン情報を表示します。

  ![ウィンドウの図]
  Version

  WIRES Voice Check Plug-IN
  Version 1.00
  OK
ヘルプメニュー

Help

Help Topics

WiRES-II のすべての機能について、画面上で解説を確認できるようにしたものです。
WiRES-II の機能や操作方法がわからないときや、操作中に困ったときなどにご利用ください。
目次、キーワード、テキスト検索と3種類の検索方法があります。目的や状況に応じて使い分けると、より効率的にヘルプを利用することができます。

WIRES-II online help

Welcome to the WIRES-II online help

ウィザーズ（ウィザーズ）は、Wi-Fi/Wireless Internet Router Extender Enhancement Systemの一部で、アマチュア無線業者をインターネットで接続して、Wi-Fiのハンドイントロードサーバーで利用中のアマチュア無線局と通信が可能になるインターネットを用いたシステムです。

WIRES-II は、通常のインターネット回線とパーソナルコンピュータに接続すれば、無線局を無線でインターネットに接続することができます。複数の無線局を別々に設定している場合、複数の無線局を無線でインターネットに接続することができる。インターネットを楽しむためのための無線局を纏め上げることができます。

このオンラインヘルプでは、Wi-Fi/Wireless Internet Router Extender Enhancement Systemの機能を詳細に説明しています。各機能の詳細は、はじめに説明したキーワードの説明に書き出されることあります。

Help Topics（ヘルプトピック）

WIRES Web Site

ブラウザーソフトウェア Internet Explorer 等を用い、株式会社バーテックススタンダード WiRES ホームページの Web サイトを表示します。

http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html

About

WiRES software 及び、HRI-100 の firmware のバージョンを表示します。
メイン画面一覧表  [詳細は③ページ参照]

- SRG/FRGの一斉呼び出しAGIDID時に表示。Round QSO Room接続時のノード番号とノード局のコールサインを表示。インターネットからの音声送出中のノードは緑色に表示。
- Group Windowで「[] Group Window」の画面を更新。[x]をクリックでConnect ID windowを開じる。
- Group WindowはSRG/FRG Bookmark list、Connecting Node list、My Room Access listとRoomを開設時に表示可能。下記の「[]」と同様に、リストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。
- Active ID Windowは、現在接続可能なNode局をリストで表示。各項目品部分をクリックでリストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。
- Round QSO Room Windowは、現在接続可能なRound QSO Roomをリストで表示。ConnectするとRound QSO Roomに接続中のノード局を一斉に呼び出すことが可能。各項目品部分をクリックすると、リストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。
- 「[]」をクリックでDIDの画像データ保存、「[]」をクリックで接続先のID番号とコールサイン、送信日時、メッセージ（半角ドット文字まで）を保存。Node局のQSLカードとして交換し保存しておくことができるView QSL機能。「[]」をクリックでView QSL画面を開じることが可能。
- 自局の無線機とインターネットフェースボックスHRI-100IFの動作状態を表示。[ON-AIR]を押すと表示が[OFF]に変わり接続中止とON-AIRを禁止することが可能。3分間のTOT Counterで自局NODEの送信、受信可能な残り時間をカウントダウン。
- Log WindowはインターネットのWiRESサーバーとの接続状態等を表示。
- WiRES局のコールサイン、ID番号、通信状況、さらにタイムスタンプも随時表示。通信履歴を取るのに便利（Room開設時には開設Room専用のLog表示もある）。
- Chat WindowはChatのメッセージなどをこの画面に随時表示。日時、送信元、送信先、チャット内容が表示。
- コンピュータ内のボイスメモリーの動作状況を表示。
- チャットを行うときの文字を入力するテキストボックス。
- コンピュータ（サウンドボード）とHRI-100IFの音量調整を表示。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。レベルの右横には、0〜100の数字でレベルを表示します。
- [ON-AIR]を押すと、表示が[OFF]に変わりGeneral settingsで設定したAnnouncementを一時的にミュート。
キーボードショートカット一覧表

<table>
<thead>
<tr>
<th>Command</th>
<th>Shortcut</th>
<th>Description</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>File</td>
<td>[Alt] F</td>
<td>画面を開きます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Personal ID</td>
<td>[Alt] F [I]</td>
<td>初期設定や公開する情報を入力するホルダーです。</td>
</tr>
<tr>
<td>Round QSO</td>
<td>[Alt] F [R]</td>
<td>Round QSO Roomの各種設定を行なう画面です。</td>
</tr>
<tr>
<td>Property</td>
<td>[Alt] F [P]</td>
<td>各種の動作状態や運用状態などを設定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Exit</td>
<td>[Alt] F [E]</td>
<td>WiRES-II server プログラム WiRES-II.exe を終了します。</td>
</tr>
<tr>
<td>View</td>
<td>[Alt] V</td>
<td>リスト表示のフォントを変更します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Font</td>
<td>[Alt] V [F]</td>
<td>画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Status Bar</td>
<td>[Alt] V [S]</td>
<td>運用中の自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定。</td>
</tr>
<tr>
<td>MCU/Room-Info</td>
<td>[Alt] V [M]</td>
<td>リピートの最も近くに、SRG/FRG の一斉呼び出し A / B / C / D による接続が確立した時、その接続局の ID list が pop up window形式で画面上に表示されます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Connect ID window</td>
<td>[Alt] V [I]</td>
<td>IDリスト中にあるIDを選択してConnect IDをクリックすると指定したIDに接続要求をします。</td>
</tr>
<tr>
<td>Connect</td>
<td>[Alt] C</td>
<td>接続元のIDを入力する画面が表示され、ID番号を指定してOKをクリックすると接続要求をします。</td>
</tr>
<tr>
<td>Connect To</td>
<td>[Alt] C [T]</td>
<td>拡張機能の設定ができます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Disconnect</td>
<td>[Alt] C [D]</td>
<td>拡張機能の設定ができます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Tool</td>
<td>[Alt] T</td>
<td>help を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Help</td>
<td>[Alt] H</td>
<td>WiRES software 及び、HRI-100 の firmware のバージョンを表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Help Topics</td>
<td>[Alt] H ['A]</td>
<td>help を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>About</td>
<td>[Alt] H ['A]</td>
<td>WiRES software 及び、HRI-100 の firmware のバージョンを表示します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### DTMF Command 一覧表

次のDTMF信号を受信すると、WiRES-II は以下のような動作をします。

<table>
<thead>
<tr>
<th>コード</th>
<th>コマンド</th>
<th>効果</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>#0000D</td>
<td>RESPONSE command</td>
<td>SRG呼び出しを着信したときにこのコマンドで応答すると、SRGの呼び出し元のIDに対して応答することができます。</td>
</tr>
<tr>
<td>#00000</td>
<td>RETURN ROOM cancel command</td>
<td>RETURN TO RESIDENT ROUND QSO ROOM機能（Round QSO Roomへの自動接続機能）を一時的に停止させるコマンドです。自動接続の場合、PCの設定画面上でチェックを入れるか、DTMFコマンド（#5555）を使い、3つのReturn to resident Round QSO RoomをONにすることで、ルールが適用されません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| #5555D | ID command             | 他のWiRES局との接続状況を知るためのコマンドです。このコマンドは、Microsoft Speechがインストールされている時のみ有効です。XP以降は標準実装である。このコマンドを受信すると、下記のようにアナウンス音声と確認音を送出します。
| #55555 | CQ command             | オンラインリスト表示中からランダムに選択したWiRES局のIDへ接続要求します。 |
| #06666 | RECONNECT command      | 直前に接続していたWiRES局のIDへ再接続します。ただし、直前の接続が一音呼び出しによる場合は、一音呼び出しの前に接続していたIDへ再接続します。 |
| #9999D | DISCONNECT command     | 接続を切断するときのコマンドです。切断すると「ビビビッ」と切断音を出して知らせます。ただし、* はCall options設定が下記の場合のみ有効です。
| #99999 |                         | （DTMF *でDisconnectを選択している場合で、かつ、Single-digit commandをON [Enable]にしている場合） |
| #09999 |                         | （General settings [ANNOUNCEMENT [Room logon node info]にチェックを入れた場合、上記例のようにRound QSO Roomへ接続した際にログオン中のNode個数をアナウンスする機能が追加されます。チェックを入れない場合は、上記例の[Call options]対応他のアナウンスと同じ内容になります。） |

WiRES-II 取扱説明書 129
ログリスト一覧

XXXXXX(####) IN.
接続中の お名前 お名前 お名前 に接続してきた お名前 局の情報。

XXXXXX(####) OUT.
接続中の お名前 お名前 お名前 から切断した お名前 局の情報。

*localhost* ON AIR LOCK
ラジオのメイン画面上から、ON AIR LOCK状態を設定した。

*localhost* ON AIR UNLOCK
ラジオのメイン画面上から、ON AIR LOCK状態を解除した。

*localhost* ON AIR LOCK (Plugin)
プラグインソフトの起動によるON AIR LOCK状態が設定された。

*localhost* ON AIR UNLOCK (Plugin)
起動中のプラグインソフトが終了され、ON AIR LOCK状態が解除された。

Call Change Start(SRG:#)
SSR お名前呼び出し お名前呼び出し による接続中に、その中の1局 お名前 お名前を個別に呼び出した。お名前 お名前のいずれか。

Call Failed (code=xx)
不成立の場合はエラーメッセージ。不成立の内容は下記の通り。
無効なコマンドを受け付けた。
例 お名前 呼び出し で外して お名前 呼び出し による接続の場合
再接続に有効なコマンドが記憶されていない。
例 お名前 お名前 登録直後に お名前 コマンド実行した場合

00:DTMF
— á:FRG Group Dispatch
01:IDリスト
— á: WiRES-II.exe
02:リジェクトリスト
— á:FRG Group Dispatch
03:ID登録
— á:FRG Group Dispatch
04:Round QSO Room Connection
— á:FRG Group Dispatch
05:IDグループ
— á:FRG Group Dispatch
06:FRG
08:Round QSO Room Connection
— á:SRGlist
09:ID
— á:FRG Group Dispatch
10:WiRES-II—p
— á:FRG Group Dispatch
11:ID
— á:FRG Group Dispatch
12:PC
— á:FRG Group Dispatch
13:FRG
— á:FRG Group Dispatch
14:音声データ
— á:FRG Group Dispatch
15:音声データ
— á:FRG Group Dispatch
ログリスト一覧（つづき）

Call Start No.XXXX
接続要求した。

Call Start No.XXXX (SRG:#)
接続要求した。SRGのいずれか。

call from Rejected ID_No[XXXX]
接続要求した。叫出中のいずれか。

call to Rejected ID_No[XXXX] (Call Failed (code=02))
接続要求を出そうとした。

Connected to XXXX.
接続が確立した。

Conference End.
切断処理が完了した。

Connect Request From XXXX
接続要求を受けたが、接続中等の理由により対応できなかった。

COM:### Invalid Port No or Port was already open
設定したが、他に設定されている。

DO NOT CONNECT TO ROUND QSO ROOM No.#### (Call Failed (code=04))
設定しているに設定されている時は、接続要求コマンドを受けた。

end-key detected .. Hangup
切断処理を実行した。

Group Call From (XXXX). Reject
接続要求を受けた。

In-Call from No.XXXX
接続要求を受けた。

In-Call from No.XXXX (SRG:)
接続要求を受けた。

MCU Call-Type[#]
MCUのいずれか。

MCU-Call Type[#] from [XXX]
MCUのいずれか。

No Answer from called PC. (Call Failed (code=11))
要求先の接続要求がなかった。
ログリスト一覧表（つづき）

No Entry On ILS Server. (Call Failed (code=03))

Outside Call In Round QSO from No.XXXX

Outside Call In Round QSO from No.XXXX(SRG:#)

Outside MCU Call In Round QSO from No.XXXX

return to room No.$ [XXXX] count over.

TX Timeout(over 3min).

return to room No.$ [XXXX] last ## count.

Round QSO Room [####] Member ... xxxxxx(####),xxxxxx(####)

Round QSO Room [####] ... Room is empty

Socket Connection Canceled [] Code=0 (Call Failed (code=09))

Socket Communication timeOut..Hangup

There are no controls associated with the selected line.(Volume)

WiRES-II 取扱説明書 132
ログリスト一覧（つづき）

- サウンド関連で表示するログリスト

**Number of sound devices**
検出された サウンド デバイスの数

**Set Mixer Device**

- ① 入力用 デバイス設定
- ② 出力用 デバイス設定

参考

設定が初期値の場合 ① ② の設定を 1 度も変更していないため、自動検出処理を行い、1 つめに検出された音源を制御します。自動検出処理が行われた場合、この値は、0 になります。
音源を外した場合など、① ② が設定されている場合でも、自動検出処理が行われます。
1 つしか音源を実装していない場合では、この状態でも動作しますが、複数の音源を実装している場合には、正常に動作しない場合があります。この場合には、① ② の設定内容を確認してください。

**Input Mixer No=#: $$$ (Type=%%%)**

- # 実際に選択された入力用 サウンド デバイスの ID
- $$$ 実際に選択された入力用 サウンド デバイスの ID

**Output Mixer No=#: $$$**

- # 実際に選択された出力用 サウンド デバイスの ID
- $$$ 実際に選択された出力用 サウンド デバイスの ID

**Set Sound Device**

- ① 入力用 デバイス設定
- ② 出力用 デバイス設定

**Input Sound = # : $$$**

- # 実際に選択された入力用 サウンド デバイスの ID
- $$$ 実際に選択された入力用 サウンド デバイスの ID

**Output Sound = # : $$$**

- # 実際に選択された出力用 サウンド デバイスの ID
- $$$ 実際に選択された出力用 サウンド デバイスの ID

**Input/Output Sound Device = System default**

この表示が表示されている時には、このサウンド機能に音量等の調整を行って下さい。
ログリスト一覧（つづき）

- リモコン＆音声モニターソフト使用時に表示するログリスト
  
  Browser connected from [ xxxxx ] IP:xxx.xxx.xxx.xxx
  - ブラウザーによるアクセスが受信された。
  - 以下のブラウザーの情報を受信した。
  - IPアドレス

  Monitor Connected (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - リモコン＆音声モニターソフトから接続を受け付けられ、リモコン状態になった。
  - IPアドレス

  Monitor Disconnected (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - リモコン＆音声モニターソフトとの接続が切断された。
  - IPアドレス

  Monitor ON AIR LOCK (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - リモコン＆音声モニターソフトから、ON-AIR LOCK状態を設定された。
  - IPアドレス

  Monitor ON AIR UNLOCK (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - リモコン＆音声モニターソフトから、ON-AIR LOCK状態を解除された。
  - IPアドレス

  Monitor Voice ON (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - 接続中のリモコン＆音声モニターソフトから音声モニター機能の使用を開始した。
  - IPアドレス

  Monitor Voice OFF (xxx.xxx.xxx.xxx)
  - 接続中のリモコン＆音声モニターソフトからの音声モニター機能の使用が停止された。
  - IPアドレス

- Room 開設用ログリスト
  - 自局で開設している Round QSOの管理画面に表示される内容。

  XXXXXX(####) IN.
  - 自局と接続された局が接続された。

  XXXXXX(####) OUT.
  - 自局と接続された局が接続を切断した。

  XXXXXX(####) Node Mute.
  - 指定した局からの音声配信を禁止された。
  - ボタン操作や、画面操作から割り当てるまでの操作を行おうとする表示されます。

  XXXXXX(####) Node Mute released.
  - 指定した局の音声配信禁止設定を解除した。
  - ボタン操作や、画面操作から音声配信禁止設定を解除すると表示されます。

  XXXXXX(####) Node Remove.
  - 指定した局を強制的に切断しました。
  - ボタン操作や、画面操作から切断された局情報を見る操作を行うと表示されます。
ログリスト一覧（つづき）

XXXX>#### test
　自局 XXXXへの送信履歴。

XXXXXX(####) TX Timeout(relay stopped.) (over 3min).
　連続送信が3分以上続いた為、該当 XXXX局からの音声配信を中止しました。

Connect Request From XXXX Reject.
　自局 XXXXへの接続拒否設定をしている局からの接続要求を受けた。
　接続拒否メッセージの処理を行い、上記メッセージを XXXXに出力します。

Connect Request From XXXX but connect MAX.
　自局 XXXXへの接続中の局数が上限に到達している状況
　で、さらに別の局から接続要求を受けた。
　上限値を越える場合、接続拒否メッセージの処理を行い、上記メッセージを XXXXに出力します。

Mute ID list update [XXXX,####],[None]
　Mute/Saveの操作時や、Mute/Saveの設定を解除した
　からのMute操作時
　該当する XXXX局が存在しない場合には、None表示。

Reject remove ID list update [XXXX,####,...]
　Permit/Rejectの操作時に、Permit/Rejectの設定
　からの操作時
　Permit/Rejectの設定のチェックボックスの設定により、
　Permit/Rejectの設定のPermit/Rejectの設定
　Permit/Rejectの設定のPermit/Rejectの設定
　Permit/Rejectの設定のPermit/Rejectの設定
　該当する XXXX局の番号を表示する。該当する XXXX局が存在しない場合には、None表示。
Remote monitorで制御できる機能

WIRESMON.EXE（WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト）で、遠隔地から下記の操作を制御することができます。

- NET 接続時の通話音声のモニター
- 接続先の表示
- PTT 制御（送信禁止及び解除）
- WIRES-II.exeの再起動
- web monitor機能
なお、詳細はWIRESMON.EXE（WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト）に添付されている取扱説明書（WIRESMONI1402j.TXT）または該当バーテックススタンダードのWiRESホームページをご覧ください。

WiRES-II 本体の設定
- あらかじめWIRES-II.EXEを立ち上げ
- File
- Personal SettingでPersonal settings画面にします。
- 赤枠内のRemote controlにチェックを入れ、PasswordとPortを入力し、OKをクリックします。

WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトのインストールとの設定
WiRES-II本体と違うパソコンにWiRES-II リモコン＆音声モニターソフトをインストールしてください。
- ダウンロードサイトから、wiresmon1402j.exeをダウンロードして、任意のフォルダに保存します。
- wiresmon1402j.exeをダブルクリックするとwiresmonフォルダが自動的に作成され、そのフォルダ内にプログラムが自己展開されると、インストールが完了します。

インストールされるファイル
- WIRESMON.EXE　WiRES-II remote monitor本体
- WIRESMONI1402j.TXT WiRES-II remote monitor環境設定file
- WiRESMON.I1402j.TXT WiRES-II remote monitor manual

wiresmonフォルダ内に展開された、wiresmon1402j.exeを起動すると、WiRES-II Remote Monitorの画面が開きます。
- Personal settingsで入力したPassword、Port、ノード局のシリアル番号、ID番号、コールサインの情報をあらかじめ入力しておきます。Save Passwordにチェックを入れると、パスワードを保存することができます。
- モニターソフトの終了は、画面右上の[X]をクリックします。
- WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトの使い方は次ページを参照してください。
- アンインストール
上記のインストールされるファイルとwiresmonフォルダを削除してください。

注 意
PasswordはRemote monitorとWiRES-II本体と同じ内容になっている事を確認してください。
PortはRemote monitorとWiRES-II本体が同じ46080になっているか確認してください。40000～50000であれば違うPortを指定することもできます。
WiRES-II 取扱説明書

Remote monitor で制御できる機能（つづき）

OS が Windows 2000 / XP の場合

WiRES-II Monitor
接続先の表示をします。
[Connect / Dis Connect] Button
あらかじめ決めてある Node 局を Connect または Dis Connect することができます。
[SOUND MONI] Button
NET 接続時の通話音声のモニターをします。
[ON-AIR ACTIVE] Button
PTT 制御 送信禁止及び解除 をします。
[App Quit] Button
WiRES-II.exe の再起動をします。
[Web Monitor] Button
Web ブラウザー（Internet Explorer 等）で表示します。

注意
Sound Volume Control のレベル調整は、あくまでもモニタソフト上で再生音のレベル調整であるため、WiRES-II 本体側の音声レベルには影響しません。
WiRES-II リモコン & 音声モニターソフトは Node to Node 専用です。 Round QSO Room には使用できません。
この注意事項は、WiRES-II リモコン & 音声モニターソフトも同様です。

OS が Windows Vista / 7 の場合

WiRES-II Monitor
接続先の表示をします。
[Connect / Dis Connect] Button
あらかじめ決めてある Node 局を Connect または Dis Connect することができます。
[SOUND MONI] Button
NET 接続時の通話音声のモニターをします。
[ON-AIR ACTIVE] Button
PTT 制御 送信禁止及び解除 をします。
[App Quit] Button
WiRES-II.exe の再起動をします。
[Web Monitor] Button
Web ブラウザー（Internet Explorer 等）で表示します。

モニタソフトを動かしているパソコンのモニタ音声レベルを調整します。
MASTER 送信モニタソフト用パソコン上のマスターボリュームを調整します。
WAVE モニタソフトパソコン上の WAVE 音声のボリュームを調整します。

モニタソフトを動かしているパソコンのモニタ音声レベルを調整します。
Speaker WiRES monitor software WiRESMON.exe 専用の再生ボリュームとして動作します。

Windows Vista/7 の場合には、アプリケーション毎に専用ボリュームが OS から用意され、その専用ボリュームを に制御します OS 全体のマスターボリュームは制御されないので、あらかじめ OS 全体のマスターボリュームは調整しておく必要があります。
Web monitorで監視できる機能

WIRESMON.EXE（WiRES-II リモコンおよび音声モニターソフト）で、別の場所で稼働しているWiRES-II system（WiRES-II.exe ver3.300以降）またはインターネット経由で遠隔地から監視や各設定の確認をすることができます。

Remote MonitorのWeb MonitorをクリックするとInternet Explorer等が立ち上がりメニュー画面が表示されます。例としてSettingsをクリックするとPersonal settings画面が表示されるので監視することができます。

なお、詳細はWIRESMON.EXE（WiRES-II リモコンおよび音声モニターソフト）に添付されている取扱説明書（WIRESMONI1402j.TXT）または関連テックススタンダードのWiRESホームページをご覧ください。

このweb monitor機能により、監視や設定の確認をすることができる内容は以下のようになります。

- **Node Log**
- **Room Log**（Round QSO Room開設時のみ）
- **Chat Log**
- **Audio settings**
  - Voice in select
  - Mixer In
  - Sound In
  - Mixer Out
  - Sound Out
- **Settings**（各種設定情報）
  - **Personal settings**の下記設定内容
    - ID-No
    - Callsign
    - City/State/Country
    - Freq
    - SQL Type/Tone
    - Grid square locater
    - Grid square locater On list
    - Latitude
    - Longitude
    - Latitude&Longitude On list
    - Comment
    - QSL exchange/image name
    - Message
    - Remote Control

付録

Serial No./Remote controlのpassword/portはCP.IIの内容は出力されません。
Web monitor で監視できる機能（つづき）

- **Group settings** の下記設定内容
  - SRG-list
  - FRG-B/FRG-C/FRG-D
  - Bookmark ID

- **Rejected IDs** の設定局 ID list

- **Sound settings** の下記設定内容
  - Sound ... OFF / WAVE [FILE 名] / CW [text] / VOICE の選択状態表示
  - CW Rate
  - CW Volume
  - CW Pitch
  - Voice Volume
  - Voice Rate

- **ID settings** の下記設定内容
  - Sound ... OFF / WAVE [FILE 名] / CW [text] / VOICE の選択状態表示
  - Interval time
  - ID timing reset every 0 minutes
  - ID timing
  - ID TX mode

- **HRI-100 setup** の下記設定内容
  - HRI-100 SP ATT
  - HRI-100 MIC ATT
  - PTT Ground
  - BUSY Ground
  - Call cancel
  - Call cancel delay time

- **Call options** の下記設定内容
  - SRG call lock/unlock (ON:lock)
  - Single digit command (0-9,A-D, □/ ON:Enable)
  - FRG transmit (ON:Enable)
  - FRG group dispatch (ON:Enable)
  - FRG receive (ON:Enable)
  - Accept group calls (ON:Enable)
  - Round QSO Room connection
  - Accept calls while in Round QSO Rooms
  - Back to Round QSO after disconnect
  - Return to resident Round QSO Room
    - No=Enable/D/Start-End (Resident Round QSO Room ID & timer)
  - Resident TOT
  - Return time
  - Return counter
  - DTMF #55555 (Return Room cancel) command
  - DTMF □ Disconnect
  - DTMF □ Response

- **General settings** の下記設定内容
  - COM Port No.
  - SRG delay time
  - TX ON delay time
  - TX OFF delay time
  - TOT (TimeOut Timer)
  - Unlimited while in Round QSO Rooms
  - Voice memory
  - PTT-protocol ON:RTP OFF:UDP
  - Announcement (DTMF #66666 command)
  - Announcement (Connect request message)
  - Announcement (Round QSO IN/OUT)
  - Announcement (Room logon Node info)
  - Announcement (Freq info)
  - Announcement (Tone info)
  - Log-file save/Log-file name

- **Round QSO settings** の設定内容 (Round QSO Room 開設時のみ)

- **MCU/Room-Info** の設定内容 (Round QSO Room 開設時のみ)
WiRES-Ⅱ 用語集

A
Active ID Window
画面左の真ん中のWindowには、WiRESサーバーと接続されているIDの一覧が表示されます。この画面ではオンラインになっているすべての局を表示します。
また、各項目名部分をクリックすると、Listの並び順を変更できます。Sort表示機能
Sort指定項目は項目名左側に★・もしくは☆・の表示が入ります。
・表示 垂順 ○・表示 降順

Announcement (#66666 コマンドのIDアラームを送出する ON/OFF)
DTMFの#66666コマンドの動作をON/OFFします。
ONに設定すると、DTMFコマンドに反応してIDアラームを送出します。

Announcement (Connect Request MSG)
Connect Requestを受け取った時のアラーム送出をON/OFFします。
ONに設定すると、Connect request from といったアラームを送出します。

Announcement (Round QSO IN/OUT)
Round QSO RoomのIN/OUT時のアラーム送出をON/OFFします。
ONに設定すると、Round IN/OUT といったアラームを送出します。

B
Bookmark ID
Group window上に追加表示したいWiRES局IDの番号や条件をテキストボックス内に入力します。
ID番号の条件は下記のように指定できます。
個別 指定：ID番号を指定 上に表示
複数 指定：ID番号を指定 上に表示
範囲 指定：ID番号を指定 上に表示

Chat Window
文字によるチャット内容の日時、送信元、送信先が表示されます。
半角英数字3000 文字 全角漢字で1500 文字まで表示可能
なお、表示される内容は古いお告関連番号に消えています。またプログラムを起動すると起動前的内容は表示されなくなります。
この内容を保存したい場合には、General settingsのLog-file save機能を使います。

Call options
WiRES無線局の呼出方法などを設定するホルダーです。

COM PORT No.
インターネット通信ボックス内のHRI-100 を接続したコンピュータの「COM Port」番号を選択します。
WiRESメイン画面の「HRI-100」が赤色に点灯するときは、有効なCOMポートを設定してください。

Connect ID list
SRG/FRGの一斉呼び出しA・B・C・D時、及び、Round QSO Room接続時の接続局listを画面
上上の領域にPOPUPで表示します。
表示される接続局の内1局が送信すると、その局のIDを緑色反転表示します。

Convert PNG to BMP
QSL exchange機能により接続先Nodeから送られてきた画像は、PNG形式で保存されます。このPNG形式の画像を、BMPビットマップ形式に変換する事ができます。
WiRES-用語集（つづき）

CW ID
定期的に送出するIDをCWで送出する場合に選択します。
TEXT:送信する文字を入力します。（欧文・数字・記号のみ）
なお、Rate/Volume/Pitchの各パラメータは、Sound settingsのCW設定に準じます。
必要であれば、Sound settingsのCW設定を変更してください。
注意:CWの送信は第3級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

Export settings
WiRESに関するWindows Registry情報をfile名wsvに保存します。

Font
各ID list(group window, Active ID window, Round QSO Room window)の表示文字の書体FONTを変更できます。

Group Window
Group Window表示設定で指定されたNode局やRound QSO Room windowに接続しているNode局が表示されます。
また、各項目名部分をクリックすると、listの並び順を変更できます。[Sort]表示機能。
----:指定項目は項目名左側に表示せずもしくは[ ]の表示が入ります。
昇順: 表示 降順: 表示 降順

Group settings

HRI-100 SETUP
この画面では、HRI-100の各種動作に必要なパラメータを設定します。

ID settings
定期的にIDを送出する機能に関しての設定を行います。

Import settings
WiRESに関する各種設定情報を登録したfile名wsvを選択して、Windows Registryへ読み込みます。
下記項目に関して、file内の情報とWindows Registry情報が一致しない場合、fileの設定情報の読み込みができません。
ID番号とSerial Number

Log Window
WiRESサーバーとの接続状況やWiRES局の呼出や通信の状況などをこの画面に随時表示します。
なお、表示される内容は古い物から順番に消えています。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。
この内容を保存したい場合には、General settingsのLog-file save機能を使います。
なお、Round QSO Roomを開設している場合には、Round QSO Room管理用のlog画面に切り替えられます。切替は、View-Logのlog changeから行います。

Make List File
Group window, Active ID window及び、Round QSO Room window上に表示されているオンライン局の情報をhtml形式でテーブルレイアウト、もしくはタブ区切りもしくはxml形式で出力します。また、カンマ区切りテキスト形式出力する事も可能です。
なお、出力dataの順序は、list画面で指定するsort[並べ替え]条件の影響をそのまま受けます。[画面表示]と同じ順序で出力されます。

WiRES-II 取扱説明書 141
WiRES-Ⅱ 用語集（つづき）

MCU/Round QSO Room Info
運用中の自局 Round QSO Roomに接続しているWiRES局の情報表示や各種設定をします。
なお、この設定画面は、Round QSO Roomを開設設定した時にのみ表示します。

Personal settings
初期設定や公開する情報を入力するホルダーです。

PTT-Protocol
PTT コマンドのプロトコルを切り替えるスイッチです。
OFF UDP で処理負荷の軽いUDP: User Datagram Protocolで動作
ON RTP で送受信切替のタイミングを優先的に処理するRTP: Realtime Transport Protocolで動作。
通常は、チェックボックスにチェックマークが入っていないUDP で使用しますが、PTT コマンドが遅い場合には、RTP に切り替えます。なお、RTP に切り替えると、まれに音声が途切れる場合がありますので、その場合は、UDP に戻してください。

QSL exchange
チェック BOX にチェックを入れると接続先のWiRES局で画像を登録している場合、画像を表示することができます。View QSL window機能
また自分で作成したピットマップ（BMP）画像（QVGA 320×240を指定すると、接続した相手のWiRES局へ自動的に画像を送ることができます。QSL カードを交換する感じで画像を作成してみてください。
なお、あまり大きな画像を設定すると、NET 接続に時間がかかる場合があります。
また、チェック BOX にチェックを入れた場合で、fileを指定しなかった場合、起動ログに使用されている画像が使われます。

Rec & Play Indicator
Chat Windowの左下のアイコンで、音声信号の録音、再生の状態を表示します。

Refresh List
IDリストは、数分ごとにリフレッシュしていますが、最新のリストを取得することができます。起動時や、一度リフレッシュすると一定時間を経過しないと、リストをリフレッシュすることはできません。

Rejected IDs
接続拒否したいWiRES局のID番号もしくはその条件を入力します。
ID番号の条件は下記のように指定できます。
☑ 個別 指定 ☑ 5109 ☑ 5109との接続を拒否する。
☑ 複数 指定 ☑ 5109 6800 6900 ☑ 5109 6800 6900との接続を拒否する。
☑ 範囲 指定 ☑ 6800 6999 ☑ 6800→6999までの局との接続を拒否する。
☑ ☑ ☑ 指定 ☑ 1070 1000 1010 1080 1090との接続を拒否する。

Round QSO Room rejected ID
運用中の自局 Round QSO Roomへ接続させたくないWiRES局のID番号やその条件を入力します。
ID番号の条件は下記のように指定できます。
☑ 個別 指定 ☑ 5109 ☑ 5109との接続を拒否する。
☑ 複数 指定 ☑ 5109 6800 6900 ☑ 5109 6800 6900との接続を拒否する。
☑ 範囲 指定 ☑ 6800→6999までの局との接続を拒否する。
☑ ☑ ☑ 指定 ☑ 1070 1000 1010 1080 1090との接続を拒否する。
WiRES- 日用語集（つづき）

Round QSO Room rejected Remove ID list
上記 Remove操作を行うと、このチェックボックス下のテキストボックス内Remove ID listにそのID番号が自動的にに入力されます。それらのIDをREJECTするかどうかをここで設定します。OFF Remove ID list上のNode局をREJECTしない。再接続許可
ON Remove ID list上のNode局をREJECTする。再接続拒否。

Round QSO Room log change
自局でRound QSO Roomを開設している場合に、log windowに表示する情報を内容を切り替えます。

Round QSO Room settings
Round QSO Roomの各種設定を行います。
なお、この設定画面は、Round QSO Roomを開設設定した時にのみ表示します。

Round QSO Room Window
画面左下のWindowには、Round QSO RoomのIDが一覧表示されます。
また、各項目名部分をクリックすると、listの並び順を変更できます。Sort表示機能。
Sort指定項目は項目名左側に△□もしくは□△の表示が入ります。
△□表示 △昇順 □△□表示 △降順□

Sound Level Control
このレベルバーの調整により、コンピュータのサウンドカードの入出力音声の音量レベルを調整します。レベルバーの横には、0〜100のレベルが数字で表示されます。

Sound settings
Connect 時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメータ（CW pitch とかVoice の音量など）はID Settingsの選択音声にも影響します。

SRG delay time
SRG接続でUNLOCK MODEの時internet上のWiRES局との接続状態（NETの状態）をPTT OFF状態のまま維持する時間を設定します。PTT OFFの状態が連続してこの設定時間以上続くと、自動的に接続を切断して、IDLE状態に移行します。

Status Bar
画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。

Status Indicator
画面右側の部分で、WiRES softwareの通信状態を表示します。

TOT
FRG通信やRound QSO Roomでのインターネット接続を継続する時間を設定します。
またSRG通信でも通話モードがLOCKモードのとき、連続して通話できる時間を設定します。
設定した時間が過ぎると、自動的にインターネット回線は切断されます。

TX on delay time
無線機を送信状態にさせた後、internetから受け取った音声を出力し始めるまでの遅延時間を設定します。遅延切れ防止。

TX off delay time
無線機のPTTがOFFになってからの送信遅延時間を設定します。
インターネット経由の送信コマンドが無くなっても、設定した時間だけ送信状態を保持します。
会話の最後が途切れるような場合には、設定時間を長くします。
WiRES II 取扱説明書

Unlimited while in Round QSO Rooms
Round QSO Room への接続時の TOT Time Out Timer による時間制限機能の動作をここで設定します。
ON Unlimited □ Round QSO Room 接続中は接続時間を制限しません。
OFF Limited □ Round QSO Room 接続中でも接続時間を制限をします。
なお、RETURN TO RESIDENT ROUND QSO ROOM 機能を使用している場合、条件により設定が無効になります。

VOICE ID
定期的に送信する ID をアナウンス [Voice] で送信する場合に選択します。
なお、Voice, Rate, Volume, Format の各パラメータは、Sound settings の Voice 設定に準じます (必要であれば、Sound settings の Voice 設定を変更してください)
出力される内容は DTMF の #66666 コマンドと同じものが送信されます。
【自局】Q1YBG の時の例 □
未接続時 □ This is Q1YBG WiRES. Not connected. □
接続時の例 □ This is Q1YBG WiRES. Connected to 0510. □
注意 [VOICE] は Microsoft Speech がインストールされている場合のみ有効です。

Voice in select
無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。
さらに、MIC/LINE-IN LEVEL のレベル調整バーで制御する入力デバイスも同様に切り替えます。
MIC □ MIC 端子からの音声入力を使います。
LINE-IN □ LINE-IN 端子からの音声入力を使います。

Voice memory
コンピューター内のボイスメモリーの動作を ON/OFF するスイッチです。
ボイスメモリーの動作を ON にすると (チェックボックスにチェックマークを入れると)、無線局がローカル動作しているときにインターネットを介して他の無線局から呼び出しを受けると、一時的に内容を録音し、ローカル動作が終了した時点で録音した内容を再生します。通常はこの状態 (ボイスメモリー ON) で使用します。

WAVE ID
定期的に送信する ID を Wave File で供給する場合に選択します。
ここでの音声データは、コンピュータに登録されている WAV ファイル □ であれば、どのような音 (例えば自局のコールサイン) でも使用できます。右端のボタンを押すと file 選択画面が開きますので、希望の WAV ファイルが登録してあるディレクトリを選び、選択します。

Web monitor
リモコン & 音声モニターソフト (wiresmon.exe) を起動し、Web Monitor ボタンを押すと、Remote monitor 用 PC 上で Web ブラウザーソフト (Internet Explorer 等) が起動し、ブラウザーソフト上から Wires softwareWiRES-II.exe の稼働状態 log や設定値 パラメータ を確認する事ができるようになります。

WiRES Plugin Menu
WiRES-II.exe 専用のプラグインソフトの動作設定を行います。
接続・インストール編
Q1 : ケーブルは WIRES- ‑ キットに付属していますか？
Q2 : LAN 接続なのに DIAL UP でインストールしてしまいました。
Q3 : HRI-100 の電源として市販の DC12V の AC アダプターを使用できますか？
Q4 : 無線機側で何か設定する必要はありませんか？
初期設定編
Q5 : WIRES 画面の HRI-100 のインジケーターが点灯します。
Q6 : WIRES 画面の HRI-100 インジケーター側のエラーインジケーターが赤く点灯します。
Q7 : WIRES 画面の LOCAL インジケーターが トランシーバーの受信の有無に関係なく連続点灯します。
Q8 : トランシーバーが PTT に関係なく送信送信になります。
Q9 : WIRES 個人登録ができません。
Q10 : Property で設定した内容が反映されません。
Q11 : グローバル IP が 1 つで、2 台の HRI-100 同時に使うことができますか？
Q12 : SRG, FRG に ID を登録したけど左側にリストが出ません。
Q13 : ルーターの設定方法はどのようにすればよいですか？
Q14 : サーバーオーバルソフトの設定方法はどのようにすればよいですか？
Q15 : ルーターを設定しても使用できません。
Q16 : ケーブルテレビでも使用できますか？
Q17 : 固定 IP が必要ですか？
運用編
Q18 : 通話中、相手側からの電波が切れています。
Q19 : 頻繁に通話の後ろが途切れます。
Q20 : 音声が途切れるあ、または声が聞こえません。
Q21 : A さんから B さんへは呼び出し可能、しかし B さんから A さんを呼び出すことができません。
Q22 : 呼び出し時に、相手からの応答が無く [MCU Call Canceled] というメッセージが表示される。
Q23 : 呼び出し時に、相手からの応答が無く [Socket Connection Canceled] [Code=0] というメッセージが表示される。
Q24 : 呼び出し時に相手からの応答が無く [No answer from called PC] と表示されます。
Q25 : 相手側から音が小さいまたは通話中設定になっていると言われました。
Q26 : 相手側の音が小さいときは音が大きな。
Q27 : 他の WIRES- ‑ 同士の QSO がそのままそのまま聞こえています。
Q28 : WIRES- ‑ を使用していない局は勝手に音が聞こえさせてしまいます。
Q29 : 交信途中でリンクが切れてしまいます。
Q30 : Comment 欄に日本語は使用できますか？
Q31 : WIRES- ‑ の運行周波数はどこにすれば良いのでしょうか？
Q32 : ローカルの WIRES- ‑ 局と同じ周波数で運用することはできますか？
Q33 : リモコン & 音声モニターソフト (ver1.400) 以前の WIRES- ‑ をドライバを使用することもできますか？
Q34 : ログ画面に新しいメッセージが追加されました詳細は？
登録編
Q35 : 自宅で変動先でそれぞれ ID 登録を行いたいのですが可能ですか。
Q36 : 旧 WIRES- の WIRESmon.exe で WIRES- ‑ ヘアクセスしたら、ログ画面に新しいメッセージが追加されました詳細は？
Q & A

接続、インストール編

Q1 ケーブルはWiRES-II？キットに付属していますか？
A HRI-100とHRI-100を接続するRS-232CケーブルとMIC/SPケーブル、HRI-100とトランシーバー間を接続するパケット（DATA）ケーブル、DC電源ケーブルを付属しています。ただし、DATA端子の無いトランシーバーに接続する場合、トランシーバーに合わせてケーブルを作成してください。ただし、トランシーバー内部からスケルチ信号を取り出す場合、各社の責任において行ってください。また、技適機種により免許されている場合は、改造に伴いTSSの保証認定にて変更申請が必要になることもあります。詳細は、改造した内容を要約の上、TSSへお問い合わせください。端子のない端子については、市販のシリアルコンバーターを利用することも可能です。当社のサポート外ですので、各メーカーにお問い合わせください。

Q2 LAN接続なのにDIAL UPでインストールしてしまいました。
A 再度、インストールしLAN接続を選択してください。

Q3 HRI-100の電源として市販のDC12VのACアダプターを使用できますか？
A 電圧、電流など異なる場合、本体に損傷を与える、正常に動作しないことがありますので、使用することはできません。安定化電源または、オプション専用電源NC-72Aをご使用ください。

Q4 無線機側で何が設定する必要がありますか？
A 使用する無線機によって設定が必要になることもあります。特にオールモード機では、以下のことご注意ください。

WiRES-II インターフェイス：HRI-100にFT-857、FT-897を接続する場合は、同機のモードは「FM」、メニュー画面「COM Port No.022 CW AUTO MODE」は「OFF」の状態でご利用ください。なお、この機能が「ON」になっていると、無変調になり、サイドトーンの音がします。

WiRES-II インターフェイス：HRI-100にFT-817を接続する場合は、同機のモードを「PKT」の状態でご利用ください。FMモードのままで、無変調になります。

初期設定編

Q5 WiRES画面のHRI-100のインジケーターが赤色に点灯します。
A HRI-100の電源は入っていますか。シリアルケーブルは抜けていませんか。
General Settingタブの「COM Port No.」は合っていますか。
以上を確認の上、設定を変更したときは、WRITEをクリックして一度WiRESソフトを再起動してください。

Q6 WiRES画面のHRI-100インジケーター横のエラーアンジケーターが赤く点灯します。
A WiRES画面の「File」→「Property」で各種設定画面を表示して、「HRI-100 Setup」タブの左下にある「HRI-100 Information」をクリックしてください。設定を確認してWRITEをクリックしてOKにして、右上の「X」をクリックするとWiRESソフトが再起動します。

Q7 WiRES画面のLOCALインジケーターがトランシーバーの受信の有無に関係なく連続点灯します。
A 無線機のスケルチが開いていませんか。スケルチが開いても解消しないときは、WiRES画面の「File」→「Property」で各種設定画面を表示してHRI-100 setupのBUSY Groundの項目をLOWの場合はHIGH、HIGHの場合はLOWに変更してください。設定後は、WRITEをクリックしたあとOKをクリックして設定画面を開じてください。
Q8 トランシーバーが PTT に関係なく連続送信になります。
A WiRES 画面の【File】と【Property】で各種設定画面を表示して HRI-100 Setup タブの PTT の項目が LOW の場合は HIGH、HIGH の場合は LOW に変更してみてください。

Q9 WiRES 個人登録ができません。
A WiRES Activation の入力画面の下に Server or ID Not Found、ID unmatch などのエラーが出るときは、登録したシリアル番号と 4 枚の ID 番号をもう一度確認してください。
入力後 ID ENTRY をクリックしましたか？
また、インターネット接続ができない場合や ルーターをご使用の場合のルーターの設定や PC のファイアウォール機能により通信が制限されている場合も、登録できないことがあります。後述のルーター、ウィルス対策ソフトの設定に関する説明も参照してください。

Q10 Property で設定した内容が反映されません。
A 各設定値を変更した場合は必ず、OK または WRITE をクリックしてください。

Q11 グローバル IP が 1 つで、2 台の HRI-100 同時に使うことができますか？
A WiRES-II 1-Node につきグローバル IP が 1 つ必要になります。

Q12 SRG,FRG に ID を登録したけど左側にリストが出ません。
A Group settings の登録画面で ID を入力後、OK をクリックし、View の Group window と SRG/FRG/Bookmark list を選択しましたか？

Q13 ルーターの設定方法はどのようにすればよいですか？
A WiRES-II の運用を行う為には、稼働させる PC がネットワークの UDP ポート 40000 - 50000 を使い、インターネット回線との通信ができる必要があります。
一般的なルーターを介している場合、UDP ポート 40000 - 50000 を使った通信は許可されていないので、PC とインターネット回線の間で通信が許可される様に、ルーターへ設定を行う必要があります。

- ルーター使用時の UDP ポートによる通信を許可する設定の方法

UDP ポートの 40000 - 50000 ポートを使った通信を許可する為の、ルーターへの設定方法は、お手持ちのルーターの取扱説明書をご覧下さい。
なお、ルーターのメーカーにより、「アドレス変換」「NAT」等、設定项目的呼び方が異なる場合があります。
各ルーターの設定に関するお問い合わせは、各メーカーのサポートにお問い合わせ下さい。
なお、DMZ による設定は、全てのポートが解放され、セキュリティ上お勧めできません。
また正常に動作しない事もありますので、ご注意ください。

- ルーターの UDP ポート（40000 - 50000）の通信許可設定の例（Buffalo 社製 BBR-4MG の場合）

ブラウザーソフトウェア（Internet Explorer, Firefox）から、ルーターの設定へアクセスし、ルーターへログインします。

- トップメニューが表示されたら、アドバンスト詳細設定をクリックします。
Q & A（つづき）

詳細設定画面が表示されれば、ネットワーク設定をクリックし、その中にあるアドレス変換をクリックします。
アドレス変換設定を「使用する」に設定します。
アドレス変換テーブルの所にある、アドレス変換ルールの入力ボタンをクリックします。

アドレス変換テーブルの追加画面が表示されるので、下記のように入力します。
- グループ欄新規追加を選び、適当なグループ名を入力します。
- LAN側IPアドレス欄初期値をブロードステーションのWAN側IPアドレスのままとする。
- WAN側IPアドレス欄に任意のIPアドレスを入力します。
- プロトコルWAN側TCP/UDPポート欄に任意のUDPポートを入力し、任意のポートの所に40000-50000を入力する。
- LAN側IPアドレス欄にWiRES softwareを動かすPCのIPアドレスを入力する。
（例では192.168.11.2）
- プロトコルLAN側TCP/UDPポート変換欄に任意のポートの所に、40000-50000を入力する。
全て入力したら、ルールを追加ボタンを押します。
表示される確認画面の内容が正しい事を確認し、登録・保存ボタンを押して確定します。

WiRES-II リモコン&音声モニターソフトを使う場合、Web monitor用のアドレス変換ルールも追加します。
- グループ欄新規追加を選び、UDPポートと異なるグループ名を入力します。
- WAN側IPアドレス欄初期値をブロードステーションのWAN側IPアドレスのままとする。
- プロトコルWAN側TCP/UDPポート欄に任意のTCPポートを選択する。
- LAN側IPアドレス欄にWiRES softwareを動かすPCのIPアドレスを入力する。
（例では192.168.11.2）
- プロトコルLAN側TCP/UDPポート変換欄に任意のポートの所に、46080を入力する。
- ファイル設定パネルのPersonal settingsの中にあるRemote設定のPortの番号と同じ番号を入力します。

付 録
Q & A（つづき）

全て入力したら、☑レールを追加 ☑ボタンを押し、確認画面で登録・保存 ☑ボタンを押します。

・設定が完了したら、設定されたアドレス変換テーブルの内容を確認します。
・画像はモニタソフトの設定も行った場合の画面 ☑

Q14ファイアウォールソフトの設定方法はどのようにすればよいですか？

Aファイアウォールソフトを使用している場合には、プログラムに合わせてUDPポート40000から50000の開放設定が必要になります。最近のファイアウォールソフトはアプリケーションソフトごとにポートの設定ができるようになり、設定も簡単になりました。
下記の設定例はOS標準のWindowsファイアウォールの説明です。各社ファイアウォールソフトの設定方法については、各ファイアウォールソフトの取扱説明書をご覧になるか、各ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

・Windowsファイアウォール設定例（Windows XP SP2以降）

□初めてWiRES-II.exeを起動すると、右記のような「Windowsセキュリティの重要な警告」画面が現れます。
□☑ブロックを解除する☑を選択します。
□☑ブロックする☑を選択すると、WiRES-IIによる通信ができますのでご注意ください。
□Windows7は☑アクセスを許可する☑を選択します（各OS毎の設定画面は ☑ページ参照）。

□☑ブロック設定の回避方法（Windows XP SP2以降）
□「セキュリティセンター」の画面を開き、
□Windowsファイアウォール☑をクリックします。
Q & A（つづき）

「Windows ファイヤーウォール」の全般画面を開き、有効に_detectionは入れます。
* 例外を許可しない欄にレ点が入っていないことを確認してください。

「Windows ファイヤーウォール」の例外画面を選択します。
** 「WiRES-II」にレ点を入れます。
** 「OK」をクリックして設定は終了です。
Q & A（つづき）

拼搏設定の回避方法（Windows Vista）

セキュリティの所にある、Windows ファイアウォールによるプログラムの許可をクリックする。

ユーザーアカウント制御画面が出たら、続行ボタンをクリックする。

「Windows ファイアウォール画面の全般タブを中心にクリックし、有効となすを選択します。

例外タブをクリックし、WiRES-IIを探し、チェックを入れ、OKボタンをクリックする。
Q & A（つづき）

■ ブロック設定の回避方法（Windows 7）
　■ コントロールパネルを開きます。
　■ システムとセキュリティをクリックします。

■ 「Windowsファイアウォール
　の所にある、ファイアウォールの状態の確認をクリックします。

■ 中程にある「Windowsファイアウォールの状態」が、有効である事を確認します。
　有効の場合は各ネットワーク表が緑色表示となり、無効の場合は赤色表示になります。
Q & A（つづき）

もし、無効だった場合には、左にある、Windowsファイアウォールの有効化または無効化 をクリックし、
Windowsファイアウォールを有効にする を設定を変更します。
WiRES softwareは、バブルネットワークの場所
の設定が関係しますが、画面上の2つの設定が両
方とも有効にする事を推奨します。

「OK」をクリックして設定を終了です。

システムとセキュリティの
画面へ戻り、Windowsファイアウォールによるプログラムの許可 をクリックします。

許可されたプログラム画面
が出るので、設定の変更 ボタンをクリックする。
リスト内からWiRES-II を
探し、名前の左側と、右側の
バブルックの前にチェック
を入れ、OK をクリックして
設定は終了です。

Q15 ルーターを設定しても使用できません。
A WAN側のIP はグローバルIP になっている必要があります。

Q16 ケーブルテレビでも使用できますか？
A プロバイダーからグローバルIP が付与されていれば使用できます。

Q17 固定グローバルIP は必要ですか？
A グローバルIP は固定である必要はありません。
Q & A（つづき）

運用編

Q18 通話中、相手局からの電波が切れてしまいます。

A WiRES-IIでは、2種類のタイマー機能があります。

- リンクの制限時間

これは、各WiRES-II局がそれぞれ設定しているTime Out Timerにより他のWiRES-II局とリンクしている時間を制限するものです。 設定できる時間は、5分から60分です。リンクしている局のWiRES-II局のうち、設定時間が短い局が優先されます。 そのため、制限時間になると自動的にリンクが切断されます。

- HRI-100による連続送信3分制限

HRI-100には、連続送信時間をカウントして約3分で送信を停止（PTTをOFF）にするハードウェアタイマーがあります。 そのため、1局が約3分以上連続で話を続けるとリンク先のWiRES-II局の送信が自動的に停止します。これにより、ノイズなどにより誤動作で送信状態が続いたときなどの安全対策にもなります。なお、リンク先のWiRES-II局からの送信命令が切れるまでは、リンク中の送信は行われません。 一旦、送信が停止すれば、その後は正常動作に戻ります。

Q19 頻繁に通話の後ろが途切れます。

A General setting タブのTX-off delay timeの値を上げてみてください。

初期値は500msecです。 また、サウンドカードのサンプリングレートが8kHzに対応しているか確認してください。詳細は、サウンドカードの取扱説明書をご覧下さい。

Q20 音声が途切れててしまう、または声が聞こえません。

A ルーターをご使用の場合ルーターのIPマスクレード、パーソナルサーバー、ファイヤーワールなどの設定を確認してください。IPマスクレード、パーソナルサーバーの設定では、UDPのポートの40000〜50000にて通信を許可する必要があります。詳しくは、Q13の説明や各ルーターの取扱説明書をご覧ください。

また、PCのファイヤーワール機能により、通信が制限されている場合もありますのでQ14等を確認して、通信を許可してください。

それでも聞こえない場合は、サウンドカードの仕様によりまして付属のマニュアルで接続できないことがあります。ステレオピンへの変換プラグ等をお使い下さい。

Q21 AさんからBさんへは呼び出し可能、しかしBさんからAさんを呼び出すことができません。

A セキュリティソフトのインターネット接続制御を中またはOFFにすると解決する事があります。

Q22 呼び出し時に、相手からの応答が無く[No Entry ON ILS Server]というメッセージが表示される。

A 相手がオフラインになっている可能性があります。

Q23 呼び出し時に、相手からの応答が無く[Socket Connection Canceled[]Code=0]というメッセージが表示される。

A 相手がBUSY状態の可能性があります。

Q24 呼び出し時に相手からの応答が無く[No Answer from called PC]と表示されます。

A 相手局のPCでWiRES-IIのソフトが正常に動作していない可能性があります。例えば相手側のセキュリティーソフトのファイヤーワールやインターネット接続制御がONまたは高になっていると通信が遮断されている場合があります。Q14の対応を行うことにより解決することがあります。

WiRES-II 取扱説明書 154
Q25 相手局から音が小さいまたは過調変になっていると言われました。
A 画面右下のスライド MICLE-IN LEVEL のバーを左（小さく）→右（大きく）にスライドして適正なレベルに調整してください。ただし、相手局の受信音の調整が最適な状態に限ります。相手局が適正で無い場合は、他の WİRES-II 局とリンクしたときに正規的なレベルで無くなることがあります。音量の調整は「WİRES-II 取扱説明書」の「ポリュームコントロールの設定」をご覧になり、同様されている WİRES Voice Check のソフトをインストールして、適性レベルに調整してください。

Q26 相手局の音が小さいまたは大きすぎる。
A 画面右下のスライド SP LEVEL のバーを左（小さく）→右（大きく）にスライドして適正なレベルに調整してください。ただし、相手局の送信音の調整が最適な状態に限ります。音量の調整は「WİRES-II 取扱説明書」の「ポリュームコントロールの設定」をご覧になり、同様されている WİRES Voice Check のソフトをインストールして、適性レベルに調整してください。

Q27 他の WİRES- 局同士の QSO がそのままそのまま聞こえています。
A WİRES-II では、Round QSO Room で複数の局とラウンド QSO をしたり、一斉呼び出し（SRG(A)または、FRG(B,C,D) に登録してある局）でラウンド QSO を楽しむことができます。そのため、Round QSO Room へ接続中だったり、DTMF で A から D までの信号でリンクを開始した場合は、リンクされている WİRES-II 局すべてに接続され、それぞれの WİRES-II 局から一斉に音声が流れます。この状態では、リンクされている局のどこから送信してもすべてのリンク局へ音声が送信されます。ラウンド QSO や不特定多数の局と交信する時には、とても便利な機能です。
しかしながら、リンクした局のいずれかの周波数で、WİRES-II 利用者以外の局が QSO していた場合、その音声もすべて聞こえてしまいます。そのため、WİRES-II 利用者に次のような注意をお願しください。
Round QSO Room では交信が終了したらすみやかに #99999 または #9999D の切断信号を送るようにしてもらいます。また、一斉呼び出しのときは FRG B,C,D で呼び出し、応答してきた局があれば、相手局がアクセスしている ID 番号を聞いて、ここで一度切断してもらいます。その後で、相手局から聞いた ID 番号へ接続しなおして QSO することをお薦めしてください。
また、交信が終了したらすみやかに #99999 または #9999D の切断信号を送るようにしてもらいましょう。

Q28 WİRES- 局を使用していない局が勝手に一斉呼び出しをしています。
A 一般に QSO している局の中には、DCS など DTMF 信号を利用して個別呼び出しをしている局があります。たまたま、WİRES-II を運用している周波数で、数字や A 123 の DTMF 信号を WİRES-II 局が受信してしまった場合や, FRG の 123 または、A 123 に登録してある 123 局へそのままリンクされています。これを回避する方法は、SRG または FRG を受け付けないように設定することはできます。これを解決するには、周波数を変えるかまたは、FRG 一斉呼び出しを中止する方法があります。FRG B,C,D 一斉呼び出しを中止する方法は、以下の通りです。
【File】→【Property】→【Call options】にある、FRG group dispatch のチェックを外することで、B,C,D の FRG 一斉呼び出しを中止することができます。便利な機能なので、問題があれば中止しないようにしておきたいものです。

Q29 交信途上でリンクが切れていきます。
A WİRES-II には、タイムアウトタイマーの機能があります。デフォルトでは、10分となっており、自由に設定することが可能です。【File】→【Property】→【General setting】にある、TOT (Time out Timer) の数字を変更すると自動的に切断される時間を設定することができます。ただし、リンクしている 2 局間で、設定してある時間が短いほうが優先します。自分が 10 分にしていても、相手局が 5 分ならば、5 分で切断されます。なお、WİRES-II 利用以外の局も運用している周波数を使用していることもあるため、簡潔な交信を心がけるためにも、TOT の時間の設定はあまり長くしないようにしましょう。
Q30 Comment 欄に日本語は使用できますか？
A [File ID] Personal ID Comment 欄に日本語入力することはできませんが、海外局が画面を
見ると文字が化けてまいります。そのため、半角英数字のみを使用るようにしてください。

Q31 WiRES-□の運用周波数はどこにすれば良いのでしょうか？
A WiRES-II は、FM の音声を使用しています。
WiRES-II が運用できる VOIP 専用周波数が平成 30年 0月 0日の発令により実施されました。Node を設置する場合はアンテナを全て構築の VOIP 周波数と混信しないよう十分注意して設置及び運用をしてください。
VOIP 専用周波数は下記の周波数になります。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報は JARL のホームページや JARL ニュース等でご確認ください。
- VOIP 専用周波数のアンテナは下記のようになります（平成 30年 0月 0日施行）
  50MHz帯 52.00 - 52.30MHz
  144MHz帯 144.50 - 144.60MHz
  433MHz帯 430.70 - 431.00MHz
  1200MHz帯 1294.60 - 1294.90MHz
- 移動先の Node 局を使用する場合は、あらかじめ Node 局の情報（設置場所や周波数等）
  を調べておきましょう。
  Node 局の情報は、パートナースタンダードの ホームページ (http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html) のリストで調べることができます。

Q32 ローカルの WiRES-□局と同じ周波数で運用することはできますか？
A ローカルの 2 局がお互いに受信できる範囲にあり、この 2 局間でリンクを確立すると、同じ
  周波数でお互いに電波を受信するため、ループ状態になりタイムアウトになるまで送信し続けます。そのため、この 2 局間同士のリンクで使用することはできません。
  それでは、ローカルの 2 局間のリンクでなければならないでしょうか？
  2 局の WiRES-II 周波数をアクセセすることができる環境で、遠くの WiRES-II 局へ接続する場合、最
  初に DTMF を受信しリンクした側の WiRES-II 局が相手の WiRES-II 局に接続します。そのため、
  ローカルにある一つの WiRES-II 局では、相手側が BUSY となるため、リンクされません。
  上記のことから、利用者がローカルの WiRES-II 周波数同士の ID を送信しなければ問題なく使用
  できることになります。また、SRG,FRG に同じ周波数のローカル局を設定しておくと、一斉
  呼び出しのときに上記のような問題が生じますので、ご注意ください。
  ローカル局と WiRES-II を設置するときには、よく相談の上、トーンスケルチや 電話等を入れ
  たおりで、周波数を決めることがおすすめします。

Q33 リモコン＆音声モニターソフト ver1.200 [wiresmon.exe] 以前は WiRES-□ソフト
  [wires-II.exe ver3.300] 以上に使用することができますか？
A 使用することはできません。
  セキュリティ強化のため、旧 Version での運用は 2016年 0月 0日以降できなくなりました。
  リモコン＆音声モニターソフト ver1.300 [wiresmon.exe] 以降を使用してください（2016年
  0月以降）。環境から遠隔操作したい時には [wires-II.exe] 以降）。
Q & A（つづき）

Q34 リモコンと音声モニターソフト wiresmon.exe ver1.300 以降で WiRES- II でヘアアクセスしたら、WiRES- II のログ画面に新しいメッセージが追加されました。詳細は？

A リモコンと音声モニターソフト wiresmon.exe ver1.300 以降で WiRES-II でヘアアクセスすると、WiRES-II のログ画面に出てくるメッセージとして追加されます。

xx.xx.xx.xxx の部分は、リモコンと音声モニターソフトで遠隔監視している端末の IP アドレスです。

・ Monitor* Connected  xx.xx.xx.xxx.
  リモコンと音声モニターソフトから Connect ボタンで接続して、監視を開始した時。

  リモコンと音声モニターソフトから SOUND MONI ボタンを押して、音声モニターモニタが動作開始をした時。

  リモコンと音声モニターソフトから音声を停止した時。

・ Monitor* ON AIR LOCK  xx.xx.xx.xxx.
  リモコンと音声モニターソフトから PTT LOCK ボタンを押して、PTT LOCK の表示にした時。

・ Monitor* ON AIR UNLOCK  xx.xx.xx.xxx.
  リモコンと音声モニターソフトから PTT UNLOCK ボタンを押して、PTT UNLOCK の解除をした時。

・ Browser connected from
  Mozilla/4.0 [compatible; MSIE 6.0; Windows NT 6.0]
  ネットワーク上でアクセスされた時。

・ Monitor* Disconnected  xx.xx.xx.xxx.
  リモコンと音声モニターソフトから Disconnect ボタンを押して、監視が終了した時。

登録編

Q35 自宅と転勤先でそれぞれID登録を行いたいのですが可能ですか？

A クラブのコールサインでは可能です。個人のコールサインでは複数のID登録は出来ません。

Q36 旧VerのWiRESソフトで運用ですか？

A セキュリティ強化のため、Ver3.400以降での運用は日付年月日以降できなくなりました。また、モニターソフトもVer1.200以前では運用はできなくなっています。最新版のソフトにて運用を行おうようにしてください。
お問い合わせについて

WiRESについてのお問い合わせは、あらかじめバーテックススタンダードのWiRES-IIホームページ（http://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレス入力画面によりメールアドレスを登録してください。

登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが書かれたメールが届きます（下図参照）。

「その他（お問い合わせフォーム）」のアドレスへアクセスし、お問い合わせ内容をご記入いただきお送りください。

※本メールは、送信専用アドレスから自動送信されています。連絡ご返信いただいても、ご返信にはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

WiRES webのご利用ありがとうございます。
申請したい製品のURLへアクセスしていただきますようお願い申し上げます。

1. WiRESの新製品IDの取得申請（技術資料申込み）
   https://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html/press/0000-0000-0000-0000

2. Round QSO Room: IDの取得申請
   https://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html/press/0000-0000-0000-0000

3. WiRESの新製品IDの内容変更申請
   https://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html/press/0000-0000-0000-0000

4. WiRES IDの廃止申請
   https://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html/press/0000-0000-0000-0000

5. その他（お問い合わせフォーム）
   https://www.vxstd.com/jp/wiresinfo/index.html/press/0000-0000-0000-0000

※メールにお返信の際の注意点
お手数ですが、下記WiRESカスタマーサポートまでご連絡ください。

株式会社バーテックススタンダード WiRESカスタマーサポート
〒155-0044 東京都目黒区中目黒1-6-8
TEL: 03-3725-1553 FAX: 03-3793-0726
営業時間: 09:00-12:00/13:00-18:00 土日祝日、年末年始除く
E-mail: wires@vxstd.com

また、郵送でお手紙をいただいたときは（株）バーテックススタンダード WiRESカスタマーサポート宛にお願いいたします。「パワード」の場合は、下記のアドレスへお送りください。またその際には必ず、「サーバーID番号」、「お客様のご住所」、「ご氏名」を忘れずに書いてください。

（株）バーテックススタンダード WiRESカスタマーサポート
〒155-0044 東京都目黒区中目黒1-6-8

バーテックススタンダードでは、お客様の意見をもとに、常によりよいサポート体制をめざしておりますが、お問い合わせ内容により、ご返事に多少時間がかかる場合があります。ご理解とご協力をお願いいたします。

定格（HRI-100 インターフェースボックス）

電源電圧　直流12V ±10％、マイナス接地
SP ジャック（最大入力）050 mVrms @ 600Ω
MIC ジャック（最大出力）050 mVP-p @ 600Ω
RADIO ジャック TX AF IN 050 mVrms @ 600Ω、DISC OUT 050 mVP-p @ 600Ω、PTT +5 V、マイナス接地
本体寸法　111 mm（幅）x 25.4 mm（高さ）x 133 mm（奥行き）
本体重量　約 300g